地質学雑誌　第112巻　第8号（通巻1331号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成18年8月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.9 No.8 August 2006

日本地質学会第113年学術大会（高知大会）プログラム
会期　2006年 9 月16日（土）～18日（月）

～2006年度会員名簿作成アンケートにご協力下さい～

新製品

無限遠補正光学系採用

MEIJI TECHNO MX9000 Series

偏光顕微鏡

■透過照明型
■反射・透過 両照明型

MEIJI TECHNO
MX9000シリーズは、
無限遠補正光学系プラン、
ストレンフリー（歪なし）レンズを
採用した、高級偏光顕微鏡です。
地質学、岩石学、鉱物学の研究上必要とされる
殆どすべての機能をそなえています。

MX9200

特長

光　学　系：無限遠補正光学系
鏡　　筒：ジーデントップ（Siedentopt,中折れ式）
接眼レンズ：広視野 KHW10X,視野数20 標準装備
レボルバー：芯出し機構付4穴でアーム側（内向き）傾斜ですので、試料（スライド）の交換が容易
対物レンズ：ストレンフリー（歪なし）プランアクロマート 4X、10X、40Xが標準装備
ス テ ー ジ：直径175mm大型回転ステージ標準装備 ポイントカウンター付メカニカルステージをオプション設定
コンデンサー：ストレンフリー（歪なし）アッベ式 N.A.1.25、虹彩絞り付（アリ溝マウント）
ベルトランドレンズ：回転枠入り
アナライザー（検光子）：スライダー枠入り（E-W方向挿入）
ポラライザー（偏光子）：回転式で、0°と90°の位置にクリックストップ付
照 明 装 置：シリーズ全て6V30Wハロゲン電球によるケーラー照明装置が内蔵で、電源は自動電圧切替（100V～240V）です。

（写真はMX9430です。）

MX9200とMX9300の透過照明型に反射照明装置（MA955、MA927/05）を搭載することにより、透過照明と反射照明の偏光観察ができるモデル（MX9420、MX9430）にシステムアップすることが可能です。

MX9420　双眼型
反射・透過両照明付モデルにオプションのMA956回転アナライザーを搭載した例です。

メイジテクノの製品は日本製です。

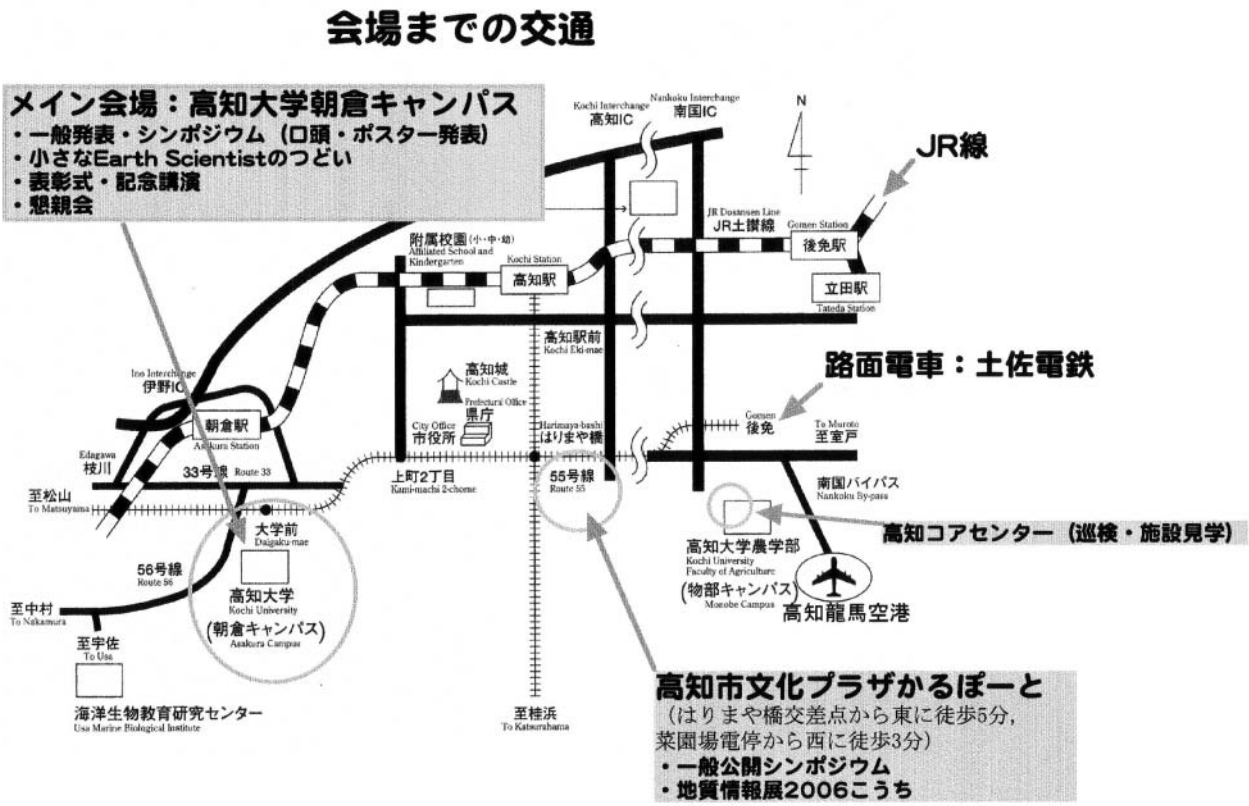
メイジテクノは顕微鏡の専門メーカーです。
メイジテクノの製品は自社工場で製造します。
メンテナンス、アフターサービスは万全です。
ご請求あり次第カタログをお送りします。

日本顕微鏡工業会会員
メイジテクノ株式会社
〒354-0043　埼玉県入間郡三芳町竹間沢322-1
TEL:049-259-0111　FAX:049-259-0113
E-mail：meiji@meijitechno.co.jp
http://www.meijitechno.co.jp

MEIJI TECHNO
ISO9001
JQA-QMA10273

日本地質学会第113年学術大会プログラム

期　日　2006年9月16日（土）～9月18日（月）
会　場　高知大学（朝倉キャンパス）共通教育棟



会場への交通機関のご案内

○**一般発表，シンポジウム，表彰式・記念講演会：高知大学朝倉キャンパス**（高知市曙町２丁目５－１）

高知大学朝倉キャンパスまでの公共交通機関は以下の通りです．

＜JR利用の場合＞

岡山からの特急列車「南風」には，高知大学まで徒歩３分の朝倉駅に停車する列車が多いのですが，高知駅止まりの列車や，朝倉駅を通過する列車もあります．高知駅で降りる場合は，以下のいずれかとなります．

1．JR乗り継ぎ：土讃線下り（各駅停車15分）で朝倉駅にて下車し，南東方向に徒歩３分．

2．路面電車（土佐電鉄）：「桟橋」行きに乗車し，「はりまや橋」で「朝倉（高知大学前）」または「伊野」行きに乗り換えてください．「朝倉（高知大学前）」下車．約30分．

3．バス：宇佐，杉の川，高岡，須崎，市野々，梼原，天王ニュータウン行で約25分．

＜高知龍馬空港から＞

高知大学朝倉キャンパス（朝倉（大学前））が終点の空港バスがあります．所要約50分で，700円（2006年８月現在）です．

＊大学構内の駐車場は学会用には確保できません．年会へは公共交通機関を利用して下さい．

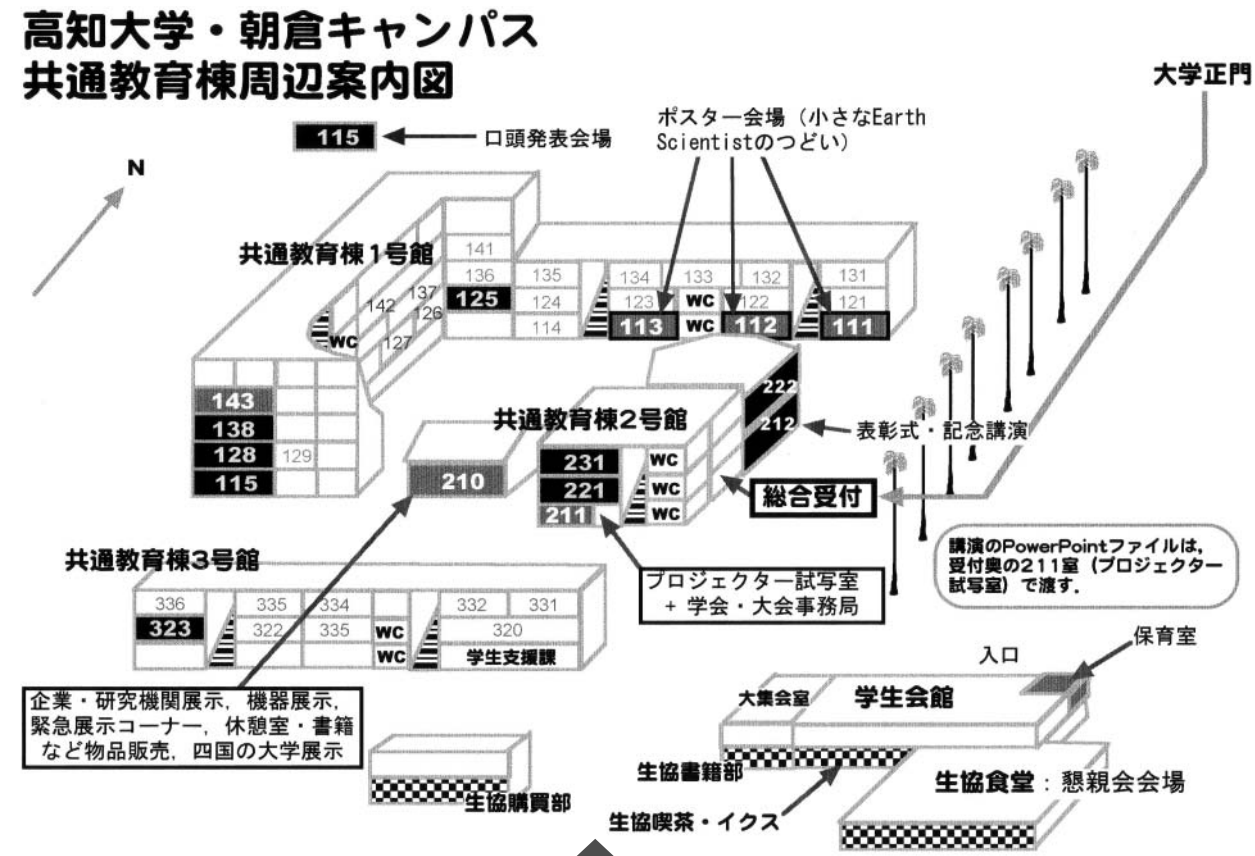
○**一般公開シンポジウム，地質情報展2006こうち：高知市文化プラザかるぽーと**（〒780-8529 高知市九反田２－１　TEL088-883-5011，http://www.bunkaplaza.or.jp/index.html）

1．高知駅より路面電車（土佐電鉄）：はりまや橋下車　東へ徒歩５分，菜園場下車　西へ徒歩３分．

2．バス：土佐電鉄・県交通　八幡通下車徒歩１分．高知龍馬空港より空港連絡バスで30分，はりまや橋下車　徒歩５分．

＜各会場の案内図＞

１．高知大学朝倉キャンパス

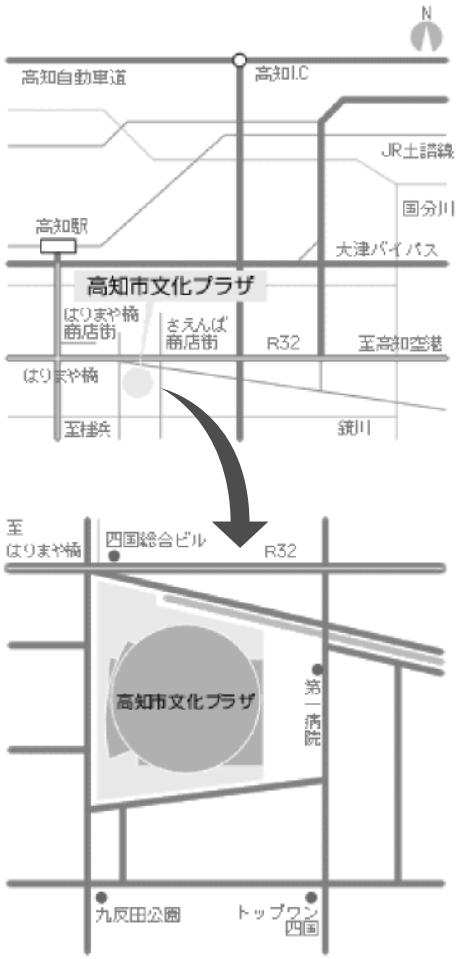


受付：共通教育２号館入口
口頭発表会場：
　222 共通教育２号館２Ｆ
　212 共通教育２号館１Ｆ
　231 共通教育２号館３Ｆ
　221 共通教育２号館２Ｆ
　125 共通教育１号館１Ｆ
　323 共通教育３号館２Ｆ
　115 共通教育１号館１Ｆ
　128 共通教育１号館２Ｆ
　138 共通教育１号館３Ｆ
ポスター会場：共通教育２号館　111，112，113
プロジェクター試写室および学会本部，高知大会事務局：211　共通教育２号館１Ｆ
休憩室および書籍・物品販売，企業・研究機関展示・機器展示：共通教育２号館　210（ただし，展示数が増えた場合，展示は学生会館２Ｆに変更の予定）
保育室：学生会館２Ｆ

１事務局棟，２非常勤講師宿泊所，３保健管理センター，４教育学部１号館，５教育学部２号館，６教育学部３号館，７教育学部４号館，８教育学部51番教室，９教育学部音楽棟，10 教育学部附属教育実践総合センター，11 プール，12 理学部情報科学科棟，13 理学部１号館，14 理学部２号館，15 共通教育１号館，16 共通教育２号館，17 共通教育３号館・学生サービスセンター，18 人文学部管理棟・学生サービスセンター，19 メディアの森（総合情報センター（図書館）），20 学生会館，

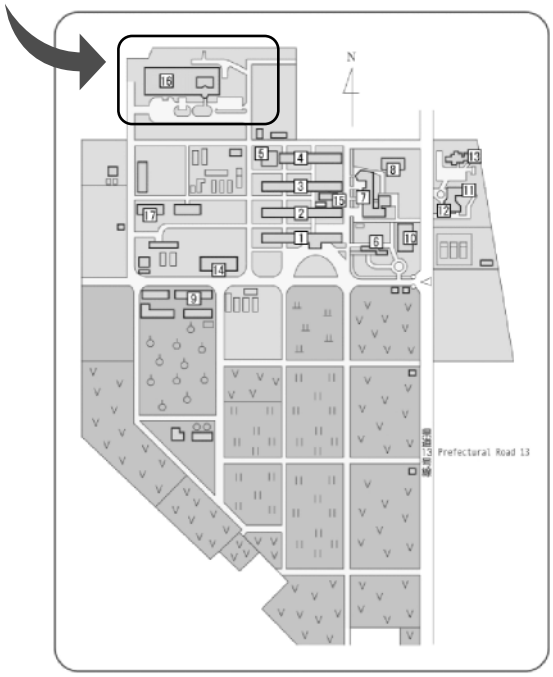
2．高知市文化プラザかるぽーと

（一般公開シンポジウム，地質情報展2006こうち）



3．高知コアセンター

（高知大学物部キャンパス：野外巡検・施設見学）



2006年度日本地質学会各賞表彰式・記念講演

2006年9月16日（土）（15：30～17：30）
会場：高知大学共通教育2号館212教室

プログラム

15：30　新名誉会員，50年会員顕彰式，各賞授与式
16：30～16：45　日本地質学会柵山雅則賞受賞記念スピーチ　辻森　樹氏
16：45～17：30　日本地質学会賞受賞記念講演　平　朝彦氏「日本の地質学の発展と将来」

懇　親　会

9月16日（土）18：00～19：30，会場　高知大学生協食堂

原則として予約制です．予約は8月25日締切りです．会場に余裕がある場合には，当日参加を受付けます．会場受付で確認し，当日参加の申込みをしてください．その場合の会費は，正会員・非会員（一般）6,000円，名誉会員・院生割引会費適用正会員・学生会員（会員の家族および非会員院生・学生含）は3,500円です．

当日の受付について

事前参加登録は８月25日に締切ります．事前登録者には，『参加登録票（兼入金確認証）』を９月５日頃に届くよう送ります．当日は，この『参加登録票』で受付を行いますので，忘れずにご持参ください．

＊『参加登録票』をご持参の方（事前参加登録済みの方）

『参加登録票』に記載されている項目順に受付し，終了した時点で『参加登録票（兼入金確認証）』を回収します．

1．参加登録（全員）→ネームカードの配布
2．講演要旨（予約購入者のみ）→要旨の配布
3．懇親会（参加者のみ）→名簿確認と参加証の配布
4．見学旅行（参加者のみ）→名簿確認と参加最終確認

＊　事前登録をしていない方

1．当日参加者として参加登録をする．備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し受付へ．
2．当日参加登録費（講演要旨集付きです．要旨集が不要の場合でも割引はありません）
　正会員：7,000円
　院生割引会費適用正会員・名誉会員・学生会員・非会員学生：5,000円
　非会員（一般・院生）：9,000円
3．講演要旨当日販売価格（別売）
　会　員：3,500円
　非会員：4,500円
4．懇親会の当日参加費（ただし，人数に余裕がある場合に限る）
　正会員・非会員（一般）：6,000円
　名誉会員・院生および学生会員（家族および非会員院生・学生含）：3,500円

見　学　旅　行

参加申込みは８月４日に締切られました．大会ホームページに参加者への連絡などを随時掲載する予定です．

http://www.geosociety.jp

高知大会見学旅行案内書について

以前から，見学旅行案内書の位置づけおよび適切な評価については議論の対象となっておりましたが，理事会として検討の結果，研究成果の公開,情報発信とともに，会員に対するサービス向上ということからも，今後は地質学雑誌の補遺（supplement）として位置づけし，発行することといたしました．

これによって，地質学雑誌はより広いカテゴリーを含むことになり，見学旅行案内書の引用についても十分な対応が可能となります．

見学旅行案内書については，すでに４年前より内容の校閲や著作権の譲渡等については他の出版物と同様に行ってきておりますが，特に今年の高知大会では，同案内書の編集委員会がピアレビューを実施したこともあり，理事会としては今大会から補遺（supplement）としてPDF版（CD）を発行し，会員に配布することを決めました．

PDF版は112巻12号（2006年12月号）に添付して会員に配布する予定です．今大会ではPDF版の発行が会期に間に合いませんので，これまで同様に冊子も並行して発行し，１部2,500円で販売いたします．既にWeb上で予約販売を行っていますが，数に限りがありますので，冊子購入を希望される方は早めにお申し込みください．

2006年８月　日本地質学会理事会

企業等団体展示・書籍展示販売

企業・団体・研究機関などによる展示を行います．会場は，共通教育２号館受付奥の210室を予定していますが，申し込みが増えた場合には，学生会館２Ｆの大集会室に変更します．

８月11日現在，株式会社G&Mリサーチ，茨城大学・理学部，日本原子力研究開発機構　地層処分研究開発部門，㈶深田地質研究所から申し込みがありました．

休憩室の210教室の中に書籍の展示販売コーナーを設けます．これまでに共立出版，東京大学出版会，関西地図センター，古今書院，シュプリンガー・ジャパン，東海大学出版会，から申し込みがありました．また，個人では，大木淳一，根岸敏雄，鈴木堯士の皆様からも申し込みがありました．

＊追加募集等がある場合もありますので，随時大会ホームページをご覧ください．

“緊急展示”の申し込みについて

講演申込締切後，集中豪雨による災害が発生し，多くの地質学会会員が現場で調査，対策の先頭に立っています．学会のアクティビティを広く社会に紹介するとともに，ホットなテーマについて学会内外で議論する場を提供するために，災害報告や，社会的に影響のある新事実紹介などの“緊急展示コーナー”を設けます．展示を希望する方は，9/3までに以下の内容を様式自由で結構ですから下記高知大会準備委員会にご連絡下さい．

１）テーマと内容概要　２）緊急展示の必要性　３）発表者ならびに代表者　４）代表者連絡方法　５）希望枚数（１枚：幅90×180cm）　６）展示に関わる要望

準備委員会は行事委員会と協議し，可否の判断を致します．希望にできるだけ応えるようにしたいと思いますが，展示方法等については準備委員会の指示に従ってください．

申込先　　高知大会準備委員会　東　正治
ファックス：088-844-8356
メール　shigashi@cc.kochi-u.ac.jp

発　表　者　へ

一般講演の発表者は招待講演，一部のシンポジウムを除いて本学会の会員に限ります（共同発表の場合は筆頭者に適用）．また，やむを得ない事情により，あらかじめ連記された共同発表者内で筆頭者の変更を希望する場合は，必ず事前に行事委員会（会期前は学会本部へ，会期中は年会本部事務局へ）に連絡して下さい．この場合も，シンポジウム以外の場合は「会員に限り１人１題」の発表制限は守るものとします．代理人による代読，発表会場内での突然の発表者変更，発表順序の変更は一切認めませんのでご注意下さい．とくに口頭発表者の方には発表時間の厳守をお願いいたします．発表に際しては座長の指示に従い，会場の運営がスムーズに行われるようご協力下さい．

口頭発表

・１題15分（討論時間を含む）
・各会場にはWindowsパソコン，液晶プロジェクター，OHPが準備されています．
・液晶プロジェクターを使用される方は，緊急用としてのOHPシートも必ずご用意ください．
・口頭発表で使用するファイルのインストールは，インストール用パソコンのブースを設ける予定（受付奥の211教室内）ですので，各自事前にファイルのインストール作業を行ってください．**インストールは講演直前にならないよう，十分な時間的余裕を持って確実に行ってください**（午前中のセッションであれば前日に，午後のセッションであれば午前中にインストールを完了してください）．
・Macの使用が世話人により許可されている方は，ご自身でMacパソコンを持参して下さい．プロジェクターとパソコンの接続等については，発表者自身が責任を持ち確実に行って下さい．Mac用アダプター類は発表者自身でご用意下さい．
・プロジェクターとパソコンの接続等については，発表者自身が責任を持ち，緊急用としてのOHPシートも必ずご用意ください．
・スライドプロジェクターは発表申込時に使用を申し出た講演に対し，そのつど準備します．スライドを使用される場合は，スライドの左下に赤丸印と映写順の番号を記入のうえ，講演開始60分前まで（午前９時15分までに講演する方は前日，または当日の遅くとも30分前まで）に会場担当者に提出してください．終了後は，会場で返却します．

ポスターセッション

・掲示する際の画鋲，テープ等の用意はありません．必要なものは各自でご用意ください．
・展示時間は，16日（土）が９：00－15：30，17日（日）と18日（月）が９：00－17：00です．展示準備は早めにお願いします。撤収は，18日は18：30までに，19日と20日は17：30までにお願いします．
・コアタイムは，18日（日）が12：00－13：00，19日（月）と20日（火）が13：00－14：00です．この時間は必ずポスターに立ち会い，その他の時間は各自の都合によって随時行って下さい．
・ボード面積は90cm×210cm（ヨコ×タテ）です．
・発表番号・発表題名・発表者名をポスタータイトルとして，必ず明記して下さい．
・コンピューターやビデオを使用される場合，機器の準備は各自で行ってください．電源は確保できませんので，予備バッテリーをご準備下さい．
・ポスター発表に対し，別記の要領にて優秀講演賞が授与されます．奮ってご準備下さい．

優秀講演賞について

今年度高知大会においても，学会講演での優秀ポスターに対して優秀講演賞を授与いたします．この賞は学会で発表される全ポスター発表の中から，選考委員会の審査に基づき，地質学会長から大会開催中に授与されるものです．

○本賞は，毎日３～５件の発表講演に対して授与される．
　・学会長から受賞者に直接賞状の授与（表彰と写真撮影）される．
　・受賞ポスターは，その栄誉をたたえ，大会期間中，別途設けられたボードに掲示される．
　・News誌11月号（年会報告記事）において氏名，課題名，受賞事由等が公表される．
○審査は選考委員会によって行われ，学会長がこれを承認する．
　・選考委員会は，大会期間中毎日召集され，行事委員会委員５名，大会事務局代表１名および各賞選考委員会委員２名の合計８名から構成される．なお，選考委員氏名リストは学会終了後のNews誌11月号にて公表．
○審査基準の項目
　（発表様式）
　　・美しいポスターか
　　・レイアウトはわかりやすいか
　　・斬新であるかどうか
　（内容）
　　・発表内容の妥当性はあるか
　　・発表内容にオリジナリティがあるか
○受賞発表の時期と方法
　・発表は，16：00以降に行う．表彰は決定後直ちに，ポスター会場で行う．（なお，16日の受賞のみ表彰式・記念講演会終了後，会場にて行う予定）
　・ポスター会場：受賞ポスターに「花」をつける．
　・口頭セッション会場：各日の最終講演後に審査結果を公表する．

事務局主催　昼食会のお誘い

高知大会にお集まりいただいたシニアの方々をお誘いして，事務局主催で昼食会を計画しています．特に予めの予約等はとりませんので，参加ご希望のかたは，当日17日までに大会会場の本部事務局までお知らせください．

シニアの定義は，おおよそ65歳以上の方を想定いたしておりますが，以下の方でもまったく問題はありませんので，ぜひご参加くださいますよう，お待ちしております．取り立てて何か特別な企画があるわけではありません．年一度のせっかくの機会ですので，お昼を食べながらの久々の顔合わせの場になればと思っています．昨年は名誉会員を中心に昼食会を開催しましたが，思った以上に多くの方に集まっていただき，楽しいランチタイムでした．

今年は前もっての制約は無しに，もっと気軽にどなたにでも参加していただきたいと思います．

主催　日本地質学会本部事務局（橋辺・細川・齋藤）
日時　**９月17日（日）12時～14時**
会場　未定　（当日掲示にてお知らせ致します）
会費　未定　　適切価格に致します．
申込　会期中17日の午前中まで，本部事務局にて直接受け付けます．電話（前９/14まで）03-5823-1150

全 体 日 程 表

発表方法	部屋番号	収容人数	16日（土）					17日（日）						18日（月）				
			AM	12:00-13:00	PM	15:30-17:30	18:00-19:30	AM	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:00	PM		夜間 18:00-20:00	AM	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:00	PM		夜間 17:30-19:00
			9:00-11:00(12:00)		13:00-15:00			9:00-12:00			14:00-17:00(17:30)			9:00-12:00			14:00-17:00(17:30)		
オーラル	222	290		コアタイム	20.深成岩・火山岩 13:00-15:15 156-164	表彰式・記念講演	懇親会	(2)フィリピン海 9:00-12:00 (S)11-22		コアタイム	20.深成岩・火山岩 14:00-16:00 165-173	19.噴火と火山 16:15-17:00 153-155	IODP（18:30～）	(1)南海付加体 9:00-11:54 (S)1-10		コアタイム	13.付加体 14:00-17:00 107-118		
	212	280	(4)ゴンドワナ 9:00-11:00 (S)33-38		1.ジュラ系 13:00-15:00 1-6			(5)斜面地質学 9:00-12:00 (S)39-49	岩石		21.変成岩 14:00-17:30 174-187		南極	(6)Orogen 9:00-12:00 (S)50-56			21.変成岩 14:00-17:30 188-201		
	231	180			14.テクトニクス 13:00-14:45 119-125			2.イベント大事件 9:00-11:45 7-17	構造		14.テクトニクス 14:00-16:45 126-136		構造/IODP※1		女性		12.破壊と変性 14:00-17:30 93-106		
	221	180	(8)21世紀の地質学 9:00-11:20 (S)65-70		3.沖積層研究 13:00-15:15 18-26			(9)地学教育 9:00-11:00 (S)71-74	教員問題		4.地域地質 14:00-17:00 27-38		生涯学習	(7)黒潮システム変動 9:00-12:00 (S)57-64	地域・層序		4.地域地質 14:00-15:00 39-42	5.層序間対比 15:00-16:30 43-48	
	125	153			22.岩石鉱物一般 13:00-15:00 202-209			(3)地震発生帯 9:00-12:00 (S)23-32	海洋		6.海洋地質 14:00-17:00 49-60		地学史				27.第四紀地質 14:00-16:30 243-252		
	323	90			9.堆積相 13:00-14:00 79-82	10.堆積作用 14:00-15:15 83-87			査読システム		11.石油・石炭 14:00-15:15 88-92	7.砕屑物 15:30-17:00 61-66	堆積		堆積		8.炭酸塩岩 14:00-17:00 67-78		炭酸塩
	115	62			26.地学教育 13:00-14:00 239-242				火山		25.応用地質 14:00-16:00 231-238	15.ノンテク 16:00-17:00 137-140	長期安定性						
	138	63							古生物		16.新生代 17.中・古生代 18.脊椎 14:00-17:00 141-152		考古学						
	128	63							環境		24.環境地質 14:00-17:15 210-222		環境		Island Arc		24.環境地質 14:00-16:00 223-230		
	143	63											海洋研究船						
ポスター	112 113 111		(4)ゴンドワナ,1.ジュラ系,3.沖積層研究4.地域地質,9.堆積相,10.堆積作用,14.テクトニクス,19.噴火と火山,22.岩石鉱物一般,26.地学教育					6.海洋地質,7.砕屑物,11.石油・石炭,15.ノンテク,16.新生代,17.中・古生代,18.脊椎,20.深成岩・火山岩,25.応用地質						5.層序間対比,8.炭酸塩岩,12.破壊と変形,13.付加体,21.変成岩,23.情報地質,24.環境地質,27.第四紀地質					

※1　18:30まで構造地質部会とIODPの合同集会

ランチョン

都合により急遽会場が変更になる場合もございますので，会期中の掲示にご注意下さい．

17日（日）12：00－13：00

212会場　岩石部会（世話人：板谷徹丸）岩石部会の活動報告および予定と幹事役員改訂

231会場　構造地質部会（世話人：重松紀生）構造地質部会の今後の運営方針について議論します．特に，今年度の構造研資産の使い道を決議します.

221会場　教員養成問題（世話人：中井睦美）理学部，教員養成系大学，学生，現職教員など，多くの会員に，ご参加を願いたい

125会場　海洋地質部会（世話人：藤岡換太郎・西村　昭・湯浅真人・片山　肇）海洋地質部会の活動や世話人体制についての議論と情報交換

323会場　地質学雑誌編集委員会（世話人：狩野謙一）J-STAGE論文査読システムの会員向けデモンストレーション

115会場　火山部会（世話人：古川竜太）火山部会の活動報告および予定

138会場　古生物部会（世話人：斎木健一）古生物部会の今後の運営方針について議論します．特に定番セッションの見直しが議論される予定

128会場　環境地質部会（世話人：田村嘉之）部会の運営，事務連絡など

18日（月）12：00－13：00

231会場　女性地球科学者の未来を考える委員会（世話人：大友幸子）情報や意見交換（女性だけでなく男性の参加も歓迎です．もちろん子連れ可）

221会場　地域地質部会・層序部会合同（世話人：斉藤　眞・岡田　誠）部会活動や世話人体制についての議論と情報交換

323会場　堆積地質部会（世話人：牧野泰彦）堆積地質部会の運営と活動に関する打ち合わせ

128会場　Island Arc編集委員会（世話人：竹内圭史）Island Arc誌の編集方針を議論する

夜　間　小　集　会

都合により急遽会場が変更になる場合もございますので，会期中の掲示にご注意下さい．

17日（日）18：00－20：00

222会場　IODP南海地震発生帯掘削NanTroSEIZE（世話人：森田澄人・橋本善孝）ちきゅう等を利用した南海トラフ地震発生帯の掘削が来年９月に始まります．当集会では一部を構造地質部会と会場を共にし，今後の展望に関する紹介と質疑を行います．（18：30まで構造地質部会と合同集会）

212会場　南極地質研究委員会（世話人：本吉洋一）・SCAR総会（ホバート）の報告/・第49～51次セールロンダーネ山地地学調査について/・Geological Society of London Special Publicationについて/・その他

231会場　構造地質部会例会の検討会（世話人：重松紀生）構造地質部会の例会の運営方針について議論します。また南海地震発生帯掘削の話題を提供していただきます.

221会場　これからの生涯学習へ向けて何をすればよいか？（世話人：里口保文）地球科学全般に普及活動について頭を悩ませている．今後どのような活動を行っていくのかを検討したい．

125会場　地質学史懇話会（世話人：会田信行・吉倉紳一）高知の地質学史に関する講演２題.
鈴木尭士：高知大学地質学教室の変遷/吉倉紳一：高知の地学研究と教育の現状

323会場　堆積地質部会（世話人：牧野泰彦）堆積地質部会の運営に関する議論，および国内外の堆積系研究の動向に関する情報交換

115会場　地質環境の長期安定性委員会（世話人：高橋正樹・吉田英一）地質環境の長期安定性委員会定例会および今年度の活動内容等について

138会場　考古学への地質学の貢献（6）（世話人：渡辺正巳・趙哲済・松田順一郎・井上智博・別所秀高・小倉徹也）開催地にちなんだ講演会（下記２件）を行います.
廣田佳久（（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター）：「西野々遺跡の出現と展開」/辻　康男（パリノ・サーヴェイ（株））・辻本裕也（同）：「西野々遺跡の自然科学分析成果」

128会場　環境地質部会（世話人；田村嘉之）講演など

143会場　日本における海洋研究船の現状と将来への提言（世話人：徐　垣・西田修平・谷口　旭）

18日（月）17：30－19：00

323会場　炭酸塩堆積学に関する懇親会（世話人：川合達也・井川敏恵）陸域炭酸塩堆積物研究の報告及び情報交換

シ ン ポ ジ ウ ム

シンポジウム（S）の通し番号がついています．また，発表時間（質疑応答含む）は各シンポジウムによって異なります．

（1）南海付加体の実体に迫る：そのミクロ構造とマクロ構造

世話人：川村喜一郎（kichiro@fgi.or.jp）・山田泰広・安間　了・小川勇二郎

9月18日（月）9：00－11：54　222会場

南海付加体は今まで，地震探査により３次元的にマクロ構造が解明され，掘削コアの観察により，１次元的にミクロ構造とその垂直変化が明らかにされてきた．しかし，近年，潜水船によって南海付加体調査が行われ，露頭規模での地質構造が明らかになってきた．さらに，アナログ実験やコンピューターシミュレーションを駆使し，マクロ構造とその形成プロセスが詳細に議論できるようになってきた．ここでは，そのような近年の新しい手法，試みによって，明らかにされつつある，南海付加体のミクロ構造，マクロ構造を議論し，現世付加体の実像に迫る．

座長：川上俊介・小川勇二郎（1–4），川村喜一郎・安間　了（5–10）

S–1　9：00　潜水船で明らかになった天竜海底谷沿いの南海付加体の地質構造，変形組織，物性，力学特性 ……川村喜一郎・小川勇二郎・安間　了・Yildirim Dilek・横山俊治・川上俊介・Gregory Moore・YK05-08Leg2乗船研究者

S–2　9：12　潮岬海底谷に沿って露出する南海付加体の地質断面 ……安間　了・小川勇二郎・グレゴリームーア・川村喜一郎・川上俊介・佐々木智之・YK05-08Leg2乗船研究者・YK06-02乗船研究者

S–3　9：24　天竜海底谷，東海スラスト上盤側で発見された千枚岩質頁岩の被熱温度：スラストの鉛直運動量の推察 ……原　英俊・川村喜一郎・小川勇二郎・YK05-08および YK06-02乗船研究者

S–4　9：36　アナログモデル実験による付加体の形態と形成過程 ……山田泰広・長村直樹・馬場　敬・松岡俊文

S–5　10：06　（招待講演）様々な震源インバージョンによって得られる震源モデルの違いについて ……八木勇治

S–6　10：36　天竜海底谷の西側斜面に発達しているテクトニック・ノンテクトニック変動地形 ……横山俊治・佐々木智之・YK05-08Leg2乗船研究者一同

S–7　10：48　放散虫生層序と海溝陸側斜面堆積盆の層序学～南海トラフと南房総との対比～ ……川上俊介

S–8　11：00　沈み込み帯海側斜面に発達する海底地すべり－房総半島南部，西川名を例として－ …道口陽子

S–9　11：12　断層の微細構造を手がかりにした堆積物物性の抽出 ……鈴木清史・千葉達朗

S–10　11：42　南海付加体の２つの海底谷からスレート劈開の発見：劈開２方向問題とexhumation問題再燃 ……小川勇二郎・川村喜一郎・安間　了・原　英俊

（2）フィリピン海プレートの地球科学の新展開 ―テクトニクスと資源の視点から―

世話人：徳山英一（tokuyama@ori.u-tokyo.ac.jp）・塩川　智・藤岡換太郎・臼井　朗・加藤幸弘・西村　昭・金田義行

9月17日（日）9：00－12：00　222会場

ここ数年で極めて多くの地質・地球物理学データが日本南方海域で集積してきた．それらの解析・統合化によりフィリピン海プレートの新たな地球科学像が構築され，地質構造発達史も明らかになってきた．また，深海底資源についても構造発達史との関連で数々の新知見が得られている．本シンポジウムではそれら成果の紹介と議論を行う．また，これらの科学的知見は，政府が一体となって進めている大陸棚画定に大きな貢献するものでもある．

座長：徳山英一（11–14），西村　昭（15–19），藤岡換太郎（20–22）

9：00　シンポジウム開催にあたり ……徳山英一

S–11　9：05　フィリピン海プレート北西部における地殻構造探査：反射法地震探査 ……加藤幸弘・片桐康孝

S–12　9：20　（招待講演）伊豆・小笠原島弧の深部地殻構造 ……高橋成実・小平秀一・金田義行

S–13　9：35　フィリピン海の堆積層音響層序と堆積史の概要－大水深基礎調査報告 2006－ ……樋口　雄・神田慶太・柳本　裕・宇納貞男・星　一良・秋葉文雄

S–14　9：55　コメント：フィリピン海の堆積岩および化石の検討と今後の課題 ……井龍康文・西村　昭・秋葉文雄

S–15　10：05　フィリピン海における火成活動の特徴 ……石塚　治・藤岡換太郎

S–16　10：25　コメント：伊豆－小笠原弧の海底カルデラと酸性火山活動 ……湯浅真人

S–17　10：35　コメント：パレスベラ海盆最南端部のテクトニクスと火成活動 ……小原泰彦・沖野郷子

S–18　10：45　フィリピン海プレートのリコンストラクション－65Maから40Ma－ ……徳山英一

S–19　10：55　コメント：古地磁気から見たフィリピン海プレートの運動 ……山崎俊嗣

S–20　11：05　（招待講演）フィリピン海の鉱物資源について ……菱田　元・塩川　智・臼井　朗・飯笹幸吉

S–21　11：25　フィリピン海域の鉄・マンガン酸化物の形成環境と成長過程 …臼井　朗・柴崎洋志・菱田　元

S–22　11：40　（招待講演）フィリピン海における熱水性硫化

物の形成環境と成長過程 ……飯笹幸吉
塩川　智・棚橋道郎
11：55　シンポジウム終了にあたり ……藤岡換太郎

（3）南海トラフ地震発生帯研究の最前線とこれから

世話人：芦　寿一郎（ashi@ori.u-tokyo.ac.jp）・氏家恒太郎・橋本善孝・木村　学

9月17日（日）9：00－12：00　125会場

南海トラフから陸上の四万十帯にかけては，現世から過去の付加体研究を行える世界最高の場であり，最先端の付加体研究をリードしてきた場と言っても過言ではない．さらに来年（2007年秋頃）からは統合国際深海掘削（IODP）のもと，地球深部探査船「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削がいよいよ開始される予定である．これにより現世と過去を対象とする個々の研究が結びつき，付加体研究は新たな展開を迎えようとしている．本シンポジウムでは，海-陸の付加体研究の最前線と，特に南海トラフ地震発生帯に焦点を当てた先端研究の紹介，議論を行っていく．付加体研究発祥の地の１つである高知での大会を記念して，このシンポジウムから新たな付加体研究の幕開けとしたい．

座長：氏家恒太郎（23–27），橋本善孝（28–32）

9：00　趣旨説明 ……芦　寿一郎
S–23　9：05　（招待講演）南海トラフ収束帯における三次元音波探査と深海掘削計画 ……Gregory Moore
S–24　9：25　南海トラフのIncoming Sediment，樫野海丘周辺を例として ……池　俊宏
S–25　9：35　反射法地震探査データから推測される地震断層付近の特徴 ……辻　健
S–26　9：50　南海付加体の二大海底谷での断面観察，付加物質の上昇，流体の染み出し：最近の潜水結果の総括 ……小川勇二郎・川村喜一郎・安間　了
川上俊介・横山俊治・Yildirim Dilek
Gregory Moore・平野　聡・原　英俊
2航海（YK05-08 Leg 2, YK06-02）
乗船および陸上研究者一同
S–27　10：05　熊野沖南海トラフ分岐断層の活動と冷湧水観測 ……芦　寿一郎・木下正高・倉本真一
S–28　10：20　（招待講演）付加プリズムで発生する超低周波地震 ―付加体地震― ……伊藤喜宏・小原一成
S–29　10：35　沈み込みプレート境界断層岩として，テクトニックメランジュを見直す ……木村　学
S–30　10：55　付加体最初期の変形と堆積物物性変化～南海付加体先端で過去に起こっていたこと～ ……山本由弦
S–31　11：10　沈み込みプレート境界における地震時の流体挙動 ……氏家恒太郎・山口飛鳥
木村　学・藤　昇一
S–32　11：25　台湾チェルンブ断層掘削計画HoleBコア試料分析プロジェクトの概要とその成果速報 ……徐　垣
廣野哲朗・林　為人・谷川　亘・谷水雅治
石川剛志・菊田宏之・木下正高・伊藤久男
青池　寛・橋本善孝・池原　実・三島稔明
村山雅史・大槻憲四郎・福地龍郎・曽根大貴
嶋本利彦・藤本光一郎・増田幸治・高橋美紀
松林　修・多田井　修・坂口真澄
11：40　総合討論

（4）ゴンドワナ大陸の誕生と表層環境変化，及びカンブリア紀の生物の爆発的進化

世話人：丸山茂徳（smaruyam@geo.titech.ac.jp）

9月16日（土）9：00－11：00　212会場

原生代最末期は，表層環境が激変し，大型多細胞生物が誕生し，その多様な進化で特徴付けられる顕生代へと移行する時代の入り口である．この時代に先行して全球凍結が二度（スターチアン：750Maとマリノアン：630Ma）にわたって起きる等，この時代前後の表層環境は地球史上もっとも過酷な状況から現在のような温暖な時代への移行期にあった．この時代は超大陸ロデイニアが分裂を開始し（750Ma），その２億年後には新たにゴンドワナ準超大陸が成立する（540Ma）時期に対応する．つまり，ゴンドワナ準超大陸の誕生はカンブリア時代の始まりとほぼ一致する．ゴンドワナ大陸の形成や進化について，ゴンドワナ大陸起源の地質体が日本列島にはないにもかかわらず，日本人研究者は南極大陸の地質の研究に基礎を起きつつ，近年，インド，ヒマラヤ山脈，スリランカ，アフリカ大陸，マダガスカル，南中国などの海外地質へと進出し，活発な研究を展開してきた．つまり，ゴンドワナ大陸を作った衝突型造山運動の研究に加えて，その頃，地球表層で起きた地球規模の大環境変動（環境の多様化，堆積物の急増，酸素大気への移行），更には生命進化（大型多細胞生物の出現など）の研究者を加えて，学際的なプログラムを企画したい．プログラムは（１）ゴンドワナ大陸形成の造山運動，（２）ロデイニアからゴンドワナへの古地理変化，（３）表層環境変動，（４）生命進化，（５）究極の変動原因，及び，（６）日本列島の地質との関係，の６つの分野を企画し，学際的討論を企画したい．

座長：Santosh., M.（33–38）

S–33　9：00　（招待講演）地球と生命の歴史：ゴンドワナ超大陸とV／C境界の重要性 ……Brian Windley・丸山茂徳
S–34　9：20　マントルダイナミクス史 …丸山茂徳・趙　大鵬
S–35　9：40　東アジアにおけるオフィオライト，緑色岩，巨大火成岩区，超高圧／超高温変成帯とスーパープルーム ……石渡　明
S–36　10：00　ポディフォームクロミタイトから読み取るマントル内における物質循環の記録 ……山本伸次・小宮　剛・丸山茂徳
S–37　10：20　（招待講演）地球史における沈み込み帯の役割の変化とCO_2－H_2Oを含むソリダス下の相平衡 ……大森聡一
S–38　10：40　原生代末期全球凍結からカンブリア紀における表層環境と生命進化―化学層序と分析古生物学研究― ……小宮　剛・石川智子
上野雄一郎・澤木佑介・平田岳史・丸山茂徳
西北大学古生物学グループ

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-1　ネロー・カマン変成帯（東南インド）の構造発達史：東ガート帯とダルワール・バスター地塊の衝突への寄与
……奥平敬元・ハリ プラサド B・ラジニーシュク マール・濱本拓志

P-2　南インドMadurai岩体における超高温変成作用とゴンドワナ大陸の形成：特にざくろ石中の微小包有物からみた変成史について ……角替敏昭・Santosh, .M.

P-3　ロディニアからゴンドワナへ：南極基盤地質からの視点
……外田智千・白石和行・本吉洋一 Dunkley Daniel・隅田祥光・廣井美邦 小山内康人・大和田正明・馬場壮太郎 Satish-Kumar M.・Fanning, C.M.

P-4　南部北上帯早池峰-宮守オフィオライト的岩体のSr-Nd同位体組成：オルドビス紀島弧下マントルウェッジ中でのメルト形成過程 ……芳川雅子・小澤一仁

P-5　ヒマラヤの起源とゴンドワナテクトニクス
……吉田　勝・ウプレティ ビシャル・N.

P-6　沈み込む海洋地殻からマントル遷移層への水輸送
……岡本和明・丸山茂徳

P-7　南中国の地質とSr同位体比
……澤木佑介・小宮　剛・丸山茂徳

（5）付加体の斜面地質学

世話人：横山俊治（yokoshun@cc.kochi-u.ac.jp）・千木良雅弘・小嶋　智・柏木健司

9月17日（日）9：00－12：00　212会場

第三紀層地すべりをモデルに定式化された地すべり像は付加体の地すべりにはあてはまらない．例えば，四国山地では，付加体の硬質な岩盤で地すべりが発生し，岩盤クリープ，尾根の開口クラック・線状凹地，破砕帯地すべりといった第三紀層地すべりでは通常みられない現象が起こっている．その誘因に，豪雨だけでなく，100年に1度繰り返し発生する南海地震が影響している．付加体では，それを特徴づける地質因子のなにが誘因に反応して斜面変動が発生しているのかを議論したい．地形学，地質工学的視点からの検討も歓迎する．

座長：柏木健司（39–43），千木良雅弘（44–47），小嶋　智（48–49，総合討論）

9：00　趣旨説明 ……横山俊治

S-39　9：03　四国山地付加体の地すべり研究の視点
……横山俊治

S-40　9：18　現世付加体の斜面地質学：房総三重点付近の巨大崩壊 ……小川勇二郎・柳沢幸夫・中西正男

S-41　9：33　北海道，白亜紀-古第三紀付加体分布地域の斜面変動（概観）……田近　淳

S-42　9：48　美濃帯の大規模斜面崩壊：個別事例と広域GIS解析 ……小嶋　智

S-43　10：03　受け盤層状岩盤における斜面変動の力学像
……田邊謹也・赤嶺辰之介・臼井亮太

S-44　10：18　2004年台風21号豪雨による三重県宮川村での岩盤崩壊の地質素因～秩父北帯の場合
……柏木健司・永田秀尚

S-45　10：33　2004年台風21号豪雨による三重県宮川村での岩盤崩壊の地質素因～三波川帯の場合 …永田秀尚

S-46　10：48　四国西部，秩父帯の地質構造 ……村田明広

S-47　11：03　四国，中央構造線沿いの地すべりの発生機構
……稲垣秀輝・小坂英輝

S-48　11：18　2005年台風14号による九州四万十帯における斜面崩壊 ……千木良雅弘

S-49　11：33　西南日本外帯における斜面災害の黒幕としての中期中新世花崗岩体 ……長谷川修一

11：48　総合討論

（6）Accretionary orogen update: Japan, Asia and mid-contients

世話人：Yukio Isozaki（isozaki@chianti.c.u-tokyo.ac.jp）・Brian F. Wnidley

9月18日（月）9：00－12：00　212会場

プレートテクトニクスに基づく付加型造山帯の本質的な内部構造および形成過程が世界に先駆けて日本で解明されてから15年が経過した．ようやく衝突型造山帯にしか興味を示さなかった欧米の大陸地質の研究者達もその重要性に気付き，衝突に先行して形成された付加型造山の解析方法を学びつつある．本シンポジウムでは，付加型造山帯の模式例ともいえる日本列島の造山帯の構造/形成過程について，最新のデータに基づくアップデートを試みる．また付加成長の起点となったアジア大陸東縁テクトニクスの整理を行う．一方で，それが世界の大陸に見られる衝突型造山帯の中でどのように認識されるのかを議論する．（発表はすべて英語で行う．）

座長：Y. Isozaki（50–53, Discussion, 9），B.F. Windley（54–56, Discussion）

9：00　Introduction ……Y. Isozaki & B.F. Windley

S-50　9：05　（招待講演）Pacific-type orogen from the Archean to the present: Why important?
……B.F. Windley

S-51　9：30　（招待講演）3-D crust and mantle structure of East Asia margin ……D.P. Zhao

S-52　9：50　（招待講演）New geologic aspects in Korean Peninsula with respect to the mainland Asia
……M. Cho

S-53　10：10　Accretionary orogen in Japan: a template to describe older orogens back tothe Archean
……Y. Isozaki

S-54　10：30　（招待講演）Sr-Nd isotopic mapping of the Altai orogen, NW China: implications for magma origin and Paleozoic to Mesozoic crustal growth ……B.M. Jahn & T. Wang

S-55　10：55　（招待講演）Mountains without collision: Crustal growth in the Terra Australis accretionary orogen along Gondwana's Pan-

Pacific margin ……P. Cawood

S-56　11：20　Eastern Pilbara accretionary complex in the North Pole region, W. Australia, and the origin of the Middle Archean stromatolites
……S.Maruyama・K.Kitajima
Y.Ueno・T.Komiya
M.Terabayashi・Y.Isozaki

11：45　Discussion ……Y. Isozaki & B.F. Windley

（7）黒潮システム変動と東アジアの気候変動 ー現在，過去，未来ー

世話人：池原　実（ikehara@cc.kochi-u.ac.jp）・村山雅史・近藤康生・岩井雅夫

9月18日（月）9：00－12：00　221会場

黒潮は西太平洋暖水塊を起源域とする世界有数の暖流であり，日本を含む東アジアに熱エネルギーを輸送する媒体として重要である．現在および過去の黒潮システムは，様々な時間スケールでその流路や勢力の変動を繰り返してきており，東アジアにおける気候変動や人類活動とも密 接に関連している．これまで北西太平洋の海洋コアや日本列島での陸上ボーリング試料などを用いた，過去の黒潮変動に関する研究が進められている．本シンポジウムでは，現在，過去，未来の黒潮変動と東アジアにおける気候変動との関連を議論することを目的とする．

座長：岩井雅夫（57-60），村山雅史（61-64）

S-57　9：00　（招待講演）黒潮の流路変動－大蛇行と20年変動 ……川辺正樹

S-58　9：18　（招待講演）高分解能大気海洋結合モデルを用いた将来の温暖化に対する黒潮の変化について
……坂本　天

S-59　9：36　世界４大漁場の三陸沖漁場の後期完新世での確立 ……川幡穂高・簑島佳代

S-60　9：54　黒潮の完新世1500年周期変動 ……山本正伸
磯野　大・入野智久・村山雅史
中村俊夫・川幡穂高

10：12　休憩

S-61　10：30　北西太平洋における第四紀後期の黒潮流路・勢力変動 ……池原　実

S-62　10：48　（招待講演）化石花粉群集に基づく最終間氷期以降の太平洋側と日本海側の植生変遷の相違
……高原　光

S-63　11：06　陸上ボーリング試料からみた上部鮮新統唐の浜層群穴内層の層序と土佐湾の古環境 …近藤康生
岩井雅夫・小玉一人・亀尾浩司

S-64　11：24　貝類相からみた黒潮域の水塊構造の変動～過去から未来へ ……延原尊美

11：42　総合討論

（8）21世紀の地質学

世話人：天野一男（kazuo@mx.ibaraki.ac.jp）・三宅康幸・榊原正幸・公文富士夫

9月16日（土）9：00－11：20　221会場

今後の地質学界の発展のためには，社会に役立つ地質学の展開が必要であることは言をまたない．近年，社会に役立つため様々な試みがなされているが，ここで，地質学を社会に役立たせるために忘れてはならない重要な要素は対象とする地質現象の継続する時間である．従来の地質学は，一万年から数十億年といった長い時間かかって起こる現象を扱うことは得意であった．しかし，一人の人間の一生を100年と考えると長くても100年以内に起こる現象を扱い，100年以内に起こる災害や環境変化を予測しない限り，一般の人々の共感を得ることは困難である．本シンポジウムは，従来の地質学が不得意としているが，今後の地質学発展のためには必要不可欠な新しい領域に踏み出し，より一層社会に貢献できる地質学の可能性を模索することを目的としている．

座長：三宅康幸（65-70），天野一男（総合討論）

S-65　9：00　私たちの一生の間に起こる地質現象を予測する－社会に貢献できる地質学の可能性を探る－
……天野一男

S-66　9：10　高レベル放射性廃棄物の地層処分候補地決定への地質学の貢献－地質環境長期安定性の予測可能性について－ ……高橋正樹・A.J.，マーチン

S-67　9：30　火山噴火の短期間予測とその必要性－焼岳を例として－ ……及川輝樹・三宅康幸

S-68　9：50　湖底堆積物から読み取る過去数十年間の人的環境改変の歴史－霞ヶ浦を例として－
……納谷友規・天野一男

S-69　10：10　地質学的手法による古気候変動の高精度解析と気候変動予測 ……公文富士夫

S-70　10：30　環境岩石学－岩石圏・水圏・生物圏の相互作用に関連する総合研究－ ……榊原正幸

10：50　総合討論

（9）転換期の地学教育

世話人：浅野俊雄（toshi.asano@nifty.com）・中井睦美・柴　正博

9月17日（日）9：00－11：00　221会場

現代日本の社会問題のひとつが，教育問題であり，特に，学力低下問題，理数科ばなれ，教員養成等，問題は山積みだと言われている．これら教育の危機に際して，文部科学省は，教育の構造改革として，従来の教育方針を見直そうとしており，本年度は次の学校教育を左右する中教審答申が出される予定であり，来年度は次期の指導要領も出る予定である．一方，多様化する自然災害に対し，防災教育としての地学教育の重要性は高まってきている．しかし，地学教育の位置は，地学教員授業の減少，博物館における研究活動の冷遇など，危機的な状況にある．日本の教育の転換期にあたり，今までの地質学会の地学教育活動をふまえ，学校教育だけでなく，博物館における生涯学習など，新しい地学教育の将来を考える．

座長：中井睦美（71），浅野俊雄（72-74）

S-71　9：00　地学教育についての日本地球惑星科学連合の取

り組みと地質学会地学教育委員会の活動
……浅野俊雄・阿部国広・中井睦美

S-72　9：30　教員養成問題および小学校教育の現状　特に地学教育の観点から　……中井睦美・阿部国広

S-73　10：00　中学校・高等学校地学教育の現状と問題点
……田村糸子・三次徳二・浅野俊雄

S-74　10：30　「小さなEarth Scientistのつどい」の取り組みと今後の課題　……三次徳二

口頭およびポスター発表

＊口頭（O）・ポスター（P）それぞれに通し番号がついています．
＊口頭発表時間は原則15分（質疑応答），ポスター発表コアタイム　16日12：00ー13：00，17・18日13：00ー14：00

1. ジュラ系十

世話人：尾上哲治（onoue@sci.kagoshima-u.ac.jp）・近藤康生・八尾　昭・小松俊文・堀　利栄・松岡　篤

9月16日（土）13：30－15：00　212会場

座長：石田直人（1-3），尾上哲治（4-6）

O-1　13：30　南中国と北ベトナムにおける前期三畳紀二枚貝化石の重要性
……小松俊文・Dang Tran Huyen・陳　金華

O-2　13：45　三宝山帯上部トリアス系遠洋性石灰岩の起源
……尾上哲治

O-3　14：00　志摩半島東部地域の秩父北帯のジュラ紀付加コンプレックス　……都築　宏・八尾　昭

O-4　14：15　秩父累帯南帯の上部ジュラ系海溝斜面海盆堆積物－堆積過程と付加テクトニクス－　…石田直人

O-5　14：30　相馬中村層群，小池石灰岩の化学層序
……柿崎喜宏・狩野彰宏

O-6　14：45　山中白亜系瀬林層から産出したバレミアン期テチス型二枚貝フォーナ　……寺部和伸

15：00　総合討論

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-8　微化石フォーナの三畳紀末絶滅要因の再検討
……堀　利栄・秋國健一・池原　実

P-9　高知県横浪半島五色ノ浜に分布する四万十帯白亜系層状チャートの検討　……庵谷奈津子・堀　利栄

P-10　兵庫県生野地域の丹波帯ジュラ紀古世付加コンプレックスの地質と放散虫化石　…澁谷　奨・堀　利栄・榊原正幸

2. 地球史とイベント大事件-2

世話人：清川昌一（kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp）・山口耕生・黒田潤一郎・小宮　剛

9月17日（日）9：00－11：45　231会場

座長：山口耕生（7-9），黒田潤一郎（10-13），小宮　剛（14-17）

O-7　9：00　キューバ中部ロマカピロの白亜紀/古第三紀境界上位層の年代と陸源バイオマーカーの変動
……山本真也・長谷川卓・多田隆治・後藤和久
Dora García-Delgado・Consuelo Díaz-Otero
Reinaldo Rojas-Consuegra・山本信治
佐久間広展・松井孝典

O-8　9：15　海洋無酸素イベント（OAE）における海洋環境の変遷　……黒田潤一郎・谷水雅治・小川奈々子
コフィンミラード・大河内直彦

O-9　9：30　白亜紀中期の海洋無酸素事変のシミュレーション　……三角和弘・山中康裕

O-10　9：45　白亜紀黒色頁岩形成時の海洋表層環境：クロロフィル色素誘導体を用いた古環境解析
……大河内直彦・柏山祐一郎・力石嘉人
小川奈々子・黒田潤一郎・北里　洋

O-11　10：00　犬山市，木曽川沿岸最下部三畳系の岩相層序復元および有機炭素同位体比変動
……佐久間広展・多田隆治・柏山祐一郎
大河内直彦・小川奈々子・田近英一
渡部哲子・山本信治

O-12　10：15　P/T境界における放散虫類の変遷－アローロックスからの三畳紀最前期の放散虫群集について
……竹村厚司・鎌田祥仁・山北　聡
堀　利栄・榊原正幸・相田吉昭
酒井豊三郎・鈴木紀毅・小玉一人
青野　遼・竹村静夫・Hamish J. Campbell
Bernhard K. Spörli

O-13　10：30　南中国三峡地域における掘削試料を用いた，後期原生代～顕生代Pc／C境界付近の炭酸塩岩炭素同位体比・酸素同位体比変動
……石川智子・Degan Shu・上野雄一郎
Yong Lee・小宮　剛・丸山茂徳

O-14　10：45　32億年前の海底熱水系の側方変化：西オーストラリアピルバラグリーンストーン帯デキソンアイランド層について　……高下将一郎・清川昌一
北島富美雄・池原　実・伊藤　孝

O-15　11：00　太古代の熱水系黒色チャートの比較：デキソンアイランド層，マーブルバーチャート，ノースポールチャート．……清川昌一・高下将一郎
伊藤　孝・池原　実・北島富美雄

O-16　11：15　川砂ジルコンの年代頻度から見積もる大陸地殻成長　……李野修士・小宮　剛
平田岳史・丸山茂徳

O-17　11：30　地球史初期の大陸に生命は存在したか？？？～新仮説の提唱～　……山口耕生

3. 沖積層研究の新展開

世話人：井内美郎・稲崎富士・岡　孝雄・木村克己（k.kimura@aist.go.jp）・斎藤文紀・高安克巳・立石雅昭・卜部厚志・中山俊雄・長谷義隆・三田村宗樹

9月16日（土）13：00－15：15　221会場

座長：卜部厚志（18–22），木村克己（23–26）

O–18　13：00　大阪湾海底堆積物の音波探査記録と夢洲沖ボーリング資料との対応　……井内美郎・吉川周作　井上卓彦・岩本直哉・天野敦子

O–19　13：15　東京低地付近にみられる沖積層の堆積システムと既存層序の見直し　……木村克己・田辺　晋　中西利典・石原与四郎・中島　礼　稲崎富士・中山俊雄・八戸昭一

O–20　13：30　東京低地北部地下に分布する沖積層の堆積相の３次元分布モデル　……江藤稚佳子　石原与四郎・田辺　晋・木村克己・中山俊雄

O–21　13：45　古奥東京湾地域における沖積層の分布と1923年の関東地震による木造家屋被害の対比　…田辺　晋・中西利典・石原与四郎・木村克己

O–22　14：00　地層形成モデルSedFluxによる過去13000年間の東京低地埋積過程の数値計算　……久保雄介・Syvitski James・田辺　晋

O–23　14：15　北海道中央部長沼低地の浅層地質と第四紀末地殻変動　……岡　孝雄

O–24　14：30　関西圏における表層地質の研究状況　ボーリングデータベースによる理学・工学分野の相互研究　……竹村恵二・北田奈緒子　三田村宗樹・大島昭彦

O–25　14：45　長崎県橘湾および唐比低地の堆積物による古環境解析　……平城兼寿・長谷義隆・梅田　一　長岡信治・岡村　眞・三宅　尚・松末和之

O–26　15：00　越後平野の砂丘列を形成する２つの堆積システム　……卜部厚志

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P–11　関西圏における表層地質の分布状況－ボーリングデータベースを用いた地層の分布－　……北田奈緒子・竹村恵二　三田村宗樹・大島昭彦

P–12　有明海表層海水および海底表層部堆積物の珪藻群集に基づく環境解析　……西村啓介・平城兼寿　長谷義隆・中原功一郎

4. 地域地質・地域層序

世話人：吉川敏之（t-yoshikawa@aist.go.jp）・岡田　誠・斎藤　眞

9月17日（日）14：00－17：00　221会場

座長：亀高正男（27–30），井川敏恵（31–34），内村公大（35–38）

O–27　14：00　南中国地塊のペルム系珪質岩相の分布と年代　……八尾　昭・桑原希世子・嶋川未来子　江崎洋一・劉　建波・はお維城・姚　建新

O–28　14：15　詳細凡例による20万分の１日本シームレス地質図の構築　……井川敏恵・脇田浩二・宝田晋治

O–29　14：30　屋久島の四万十帯付加体から古第三紀放散虫化石の発見　……斎藤　眞・川上俊介・小笠原正継

O–30　14：45　水越層の層序，腕足類フォーナおよび対比　……田沢純一・長谷川怜思

O–31　15：00　鹿児島県北薩地域に分布する後期新生代の湖成層に関する層位学的研究　……内村公大・大木公彦・古澤　明

O–32　15：15　長崎県五島列島北部の地質　……安永　雅・清川昌一・植村和彦

O–33　15：30　長崎県五島列島福江島の地質　……長谷川孝宗　山本綾子・清川昌一・長谷部徳子

O–34　15：45　高知県「伊野」地域の地質と地質構造　……脇田浩二・宮崎一博・利光誠一

O–35　16：00　四国東部の三波川変成帯南部から北部秩父帯にかけてのタービダイト砂岩のフェーシングとその意義　……君波和雄・戸田祐貴

O–36　16：15　長門構造帯の三種類のペルム系：対比と問題点　……亀高正男

O–37　16：30　丹後半島北部，間人海岸における新第三系水中火砕物質堆積物の液状化現象の諸特徴　……紺谷吉弘・小滝篤夫・戸倉則正・西村昌能　亀井成美・井上陽一・高木淳子・村山　保　小長谷誠・小田公生・留岡　昇・上田公男　山中　博・中山　浩・楠　智美・村木一智

O–38　16：45　房総横断反射法断面に認められる上総/下総層群の鍵層準と地質構造　……浅尾一巳・伊藤谷生　佐藤比呂志・須田茂幸・川崎慎治

9月18日（月）14：00－15：00　221会場

座長：斎藤　眞（39–42）

O–39　14：00　北部北上帯八戸地域の石灰岩体－トリアス紀海山群炭酸塩の堆積－　……川村寿郎・上野佑太

O–40　14：15　北部北上帯，安家－田野畑亜帯と葛巻－釜石亜帯の境界地域の地質　……高橋　聡・永広昌之　鈴木紀毅・小池敏夫

O–41　14：30　青森県十和田市東部の更新統の堆積相とFT年代　……鎌田耕太郎

O–42　14：45　渡島半島縄文遺跡，珪質頁岩の化学組成とルーツ　……加藤孝幸・藤田　登・横山英介　国分英彦・飯田友章

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P–13　南極海で採取された海洋コアの年代層序　……八木裕介　村山雅史・小玉一人・三島稔明・堀川恵司

P–14　東赤道太平洋深海底堆積物の古地磁気学的・岩石磁気学的研究　……大城広樹・鳥居雅之・三島稔明　小玉一人・村山雅史

P–15　タイ北部チェンムアン炭坑に記録される中期中新世末期－後期中新世の気候変化　……福地　亮　ラタナシアン　ベンジャワン・田中里志

P-16　対馬北部でみられる褶曲構造と第三紀斜面相　…山口悠哉
P-17　20万分の１地質図幅「山口及び見島」地域の火成活動
……松浦浩久
P-18　兵庫県西部超丹波帯土万（ひじま）層中に産する殿敷（とのしき）型角礫岩 ……竹村静夫
P-19　兵庫県南東部に分布する超丹波帯の砕屑岩の堆積年代
……菅森義晃
P-20　兵庫県三田盆地の古第三紀神戸層群Kyu-tf2凝灰岩層の黒雲母の化学組成　……谷　保孝・中川　渉
P-21　下部ジュラ系来馬層群下部の堆積相と礫組成解析に基づくジュラ紀古世堆積盆の形成とテクトニクス
……竹内　誠・横田秀晴・常盤哲也
P-22　飛騨外縁帯北東縁部に分布する手取層群の層序と地質構造　……冨田　覚・竹内　誠・横田秀晴・常盤哲也
P-23　北部フォッサマグナ両翼の中・古生界の連続
……竹之内　耕
P-24　渥美半島に分布する中部更新統渥美層群の火山灰層序
……中島　礼・水野清秀・古澤　明
植木岳雪・中澤　努
P-25　南部フォッサマグナ丹沢山地北縁に分布する新第三系西桂層群の層序の再検討　……伊藤穂高・久田健一郎
P-26　丹沢山地北東部（道志川－秋山川周辺地域）に分布する中新世水中火山砕屑岩類の堆積相
……京相健二・松原典孝・天野一男
P-27　南部フォッサマグナ丹沢山地において復元された２種類の中新世水中火山　……松原典孝・天野一男
P-28　関東山地名栗地域，黒瀬川帯としての名栗断層帯の北方延長　……加藤　潔・内山慎也・坂　幸恭
P-29　山中層群東端部南列について
……渡邊貴央・三浦祥平・坂　幸恭
P-30　「館山」図幅をネタに地質図について語り合おう！
……川上俊介・宍倉正展
P-31　関東平野地下における新第三系分布図の改訂
……林　広樹・高橋雅紀・柳沢幸夫・笠原敬司
P-32　栃木県那須烏山市周辺の震探層序－第三系荒川層群を中心として　……竹野直人・渡部芳夫・末廣匡基
P-33　ジュラ系相馬中村層群富沢礫岩中のコーツァイト礫と丸森変成岩のカソードルミネッセンスによる観察
……伊東佑初子・久田健一郎・小室光世
P-34　大井沢構造帯周辺の花崗岩類の地質と朝日山地東縁の花崗岩類のCHIME年代 …大友幸子・青柳絵里子・横山一巳
P-35　男鹿半島潮瀬ノ岬砂礫岩の年代層序学的位置づけ
……鹿野和彦・佐藤雄大
大口健志・小笠原憲四郎
P-36　男鹿半島門前層，台島層・野村川層及び阿仁合・太平山地域に分布する相当層の古地磁気　……佐藤雄大
鹿野和彦・小笠原憲四郎・大口健志
P-37　北海道大夕張地域における白亜系蝦夷層群の堆積盆発達史～地化学モデリングからのアプローチ～
……玉置真知子・土田邦博・伊藤康人
P-38　札内川上流地域における日高変成帯上部層の変形作用
……小安孝幸・豊島剛志・高橋　浩

5. 地域間層序対比

世話人：黒川勝己・岡田　誠（okada@mx.ibaraki.ac.jp）

9月18日（月）15：00－16：30　221会場

座長：岡田　誠（43-48）

O-43　15：00　火山ガラスの主成分組成から見た関東地方中・上部更新統テフラの特徴　……中里裕臣
O-44　15：15　関東平野西縁丘陵を構成する鮮新－更新統の古地磁気層序　……植木岳雪
O-45　15：30　テフラ対比に基づく銚子地域犬吠層群下部の堆積年代－春日層，名洗層の指標テフラと三ツ松（1.9Ma），谷口，Hap2，南谷2（2.65Ma）テフラとの対比－　……田村糸子・山崎晴雄・水野清秀
O-46　15：45　新潟地域・栃木県烏山地域に分布する中新世後期の広域テフラ層
……平中宏典・柳沢幸夫・黒川勝己
O-47　16：00　広域なテフラ層序からみた古琵琶湖層群下部の層序と年代　……里口保文
O-48　16：15　兵庫県三田地域における古第三系神戸層群の哺乳類化石産出層準のF-T年代
……松原尚志・三枝春生・加藤茂弘・岩野英樹

9月18日（月）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-39　約1.3Maに噴出した中部九州起源の広域火山灰層，敷戸－イエローⅠテフラとその頃のテクトニクスの変化
……水野清秀
P-40　南房総に分布する鮮新統千倉層群布良層の酸素同位体層序　……岡田　誠・永田　潤・永塚　歩・中山陽平

6. 海洋地質

世話人：片山　肇（katayama-h@aist.go.jp）・西村　昭・藤岡換太郎

9月17日（日）14：00－17：00　125会場

座長：佐藤幹夫（49-52），入野智久（53-56），阿波根直一（57-60）

O-49　14：00　MCS（Pre-Stack Depth Migration）データによる小笠原舟状海盆震探解釈成果ー大水深基礎調査報告，2006－　宇納貞男・神田慶太・樋口　雄
O-50　14：15　母島海山からの凹地・小丘列群の発見とその意義　……棚橋道郎・原口　悟・藤岡換太郎
O-51　14：30　フィリピン海の堆積速度の再考
……藤岡換太郎・松岡裕美・秋葉文雄
O-52　14：45　千島海溝と日本海溝における前弧斜面の地質構造と海溝型地震の震源域との関係
……岡村行信・辻野　匠・荒井晃作・佐竹健治
O-53　15：00　駿河湾奥部周辺・陸上断層と海底断層についての検討　……生野静香・根元謙次・村上文敏
佐藤誉司・松岡弘和・吉河秀郎
O-54　15：15　日本海南部直江津沖で採取された堆積物の特徴とガスハイドレート　……佐藤幹夫・町山栄章

松本　良・奥田義久・戸丸　仁
蛭田明宏・竹内瑛一

O-55　15：30　琉球列島におけるサンゴ礁の成立と発達過程
……山本和幸・井龍康文・佐藤時幸
千代延　俊・寒河江健一・阿部栄一

O-56　15：45　後期更新世－完新世の温暖期における日本海の底生有孔虫群集の特徴
……大井剛志・長谷川四郎・板木拓也

O-57　16：00　ベーリング海浮遊性有孔虫長期時系列沈降粒子データを基にした古水温復元式の確立とその応用　…朝日博史・高橋孝三・岡崎裕典・岡田　誠

O-58　16：15　東地中海の後期第四紀堆積物に記録された気候変動　……宇佐見和子・長谷川四郎

O-59　16：30　浮遊性有孔虫殻の重量分布に基づく最終氷期における炭酸塩溶解の評価
……入野智久・太田晴美・大場忠道

O-60　16：45　堆積物コアの精密放射線マッピング手法の開発
……杉原　誠・安田尚登・土屋範芳

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-41　大西洋中央海嶺ケイン・トランスフォーム断層に産する玄武岩，ハンレイ岩，及びカンラン岩の全岩化学組成と玄武岩のガラス組成　……上妻玲馨・石塚英男

P-42　北緯32度周辺の北部伊豆小笠原弧における，表層堆積物中に含まれる火山岩起源砕屑物について
……仲　二郎・金松敏也・西村　昭

P-43　九州－パラオ海嶺における過去13万年間の炭酸カルシウム量の変動　……川村明加・池原　実

P-44　北西太平洋の海山から採取された炭酸塩岩の堆積学的研究　……高柳栄子・井龍康文・山田　努
尾田太良・佐藤時幸・西村　昭
中澤　努・塩川　智

P-45　IODP Expedition 310 ’Tahiti Sea Level’の概要
……浅海竜司・井龍康文・Gilbert Camon
統合国際深海掘削計画第310次航海乗船研究者一同

P-46　下北沖ピストンコアの有孔虫放射性炭素年代からみた退氷期における中深層循環変動　……阿波根直一・大串健一
干場真弓・内田昌男・柴田康行

7. 砕屑物組成

世話人：吉田孝紀（kyosida@shinshu-u.ac.jp）・野田　篤

9月17日（日）15：30－17：00　323会場

座長：吉田孝紀（61–63），太田　亨（64–66）

O-61　15：30　前期～中期中新世における，北部フォッサマグナ地域の古地理復元へのアプローチ
……山田伊久子

O-62　15：45　日本列島産出の砕屑性クロムスピネルの特徴とそのテクトニックな意義
……久田健一郎・荒井章司

O-63　16：00　北海道天塩中川地域に分布する上部白亜系蝦夷超層群の砂岩モード組成：前弧海盆堆積物（空知－蝦夷帯）と海溝充填堆積物（日高帯）における後背地の共通性　……太田　亨・高橋昭紀

O-64　16：15　Detrital garnet chemical composition and provenance of middle Cretaceous sandstones of Shimanto belt, Kii Peninsula, Southwest Japan
……Kyaw Soe Win・竹内　誠
常盤哲也・岩切誠一郎

O-65　16：30　魚竜化石を産出する三畳系泥岩の化学組成と生痕化石相～稲井層群大沢層を例に～
……山中晶子・吉田孝紀

O-66　16：45　南部北上帯，ペルム系基底部と三畳系基底部に認められる泥質岩の古風化条件
……吉田孝紀・糟屋晃久

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-47　ベーリング海海底で採取された１本のピストン・コア中の粒度による粘土鉱物組成　……青木三郎

P-48　相模原市大島神沢における中津層群の礫種構成
……河尻清和・久保田尚信

P-49　堆積物に記録された津波の押し波と引き波―静岡県西部沿岸の例―　……小松原純子・藤原　治・高田圭太
澤井祐紀・Than Tin Aung・鎌滝孝信

P-50　下部ジュラ系来馬層群の砂岩組成からみた後背地変化
……横田秀晴・竹内　誠・常盤哲也・冨田　覚

P-51　下部ジュラ系山奥層の砕屑物組成とジルコンのCHIME年代から見た後背地の時間的変化
……上久保寛・竹内　誠・鈴木和博

8. 炭酸塩の起源と地球環境

世話人：井川敏恵（toshi-igawa@aist.go.jp）・川合達也

9月18日（月）14：00－17：00　323会場

座長：川合達也（67–70），江崎洋一（71–73），井川敏恵（74–78）

O-67　14：00　中国安徽省下部オルドビス系（紅花園層）に特徴的な海綿・微生物礁－南中国最下部トリアス系微生物礁との比較－
……江崎洋一・劉　建波・足立奈津子

O-68　14：15　南中国安徽省下部オルドビス系礁を構成する生物群と礁の基本特性
……足立奈津子・江崎洋一・劉　建波

O-69　14：30　南中国，Honghuayuan（紅花園）におけるOrdovician-Silurian境界付近の層序と炭素同位体比変動　……節田佑介・山本裕美・松本　良

O-70　14：45　秋吉石灰岩の堆積速度から推測される石炭－ペルム紀第２オーダー海水準変動とプルーム活動および礁発達の相互関係　…中澤　努・上野勝美

O-71　15：00　山口県秋吉台東部，桐ヶ台の穴洞内の秋吉石灰岩：堆積物の特徴とフズリナ年代
…上野勝美・藤川将之・石原与四郎・田中和広

O-72　15：15　ブリティッシュコロンビア州南部，カシェクリーク・コンプレックスの下部三畳系浅海成炭酸塩堆積物（予報）

……佐野弘好・尾上哲治・M.J. Orchard

O-73　15：30　Facies and biostratigraphy of Jurassic carbonate sediments of Bedesa area, eastern Ethiopia
……Gilamichael Kidanemariam Domenico, and Hiroyoshi Sano

O-74　15：45　岡山県阿哲台における古トゥファの気候記録
……川合達也・鈴木将治・狩野彰宏

O-75　16：00　トゥファの年縞組織形成にかかわる微生物群集と沈殿速度の季節変化　……堀　真子・狩野彰宏

O-76　16：15　ドイツのカルスト河川におけるトゥファの形成と微生物群集……白石史人・A. Reimer
A. Bissett・S. Bruns・K. Mohr・S. Cousin
O. Påuker・E. Brambilla・H. Jonkers
D. de Beer・E Stackebrandt・T. Friedl・G. Arp

O-77　16：30　大分県長湯温泉トラバーチンに発達する日輪生成過程　……高島千鶴・奥村知世

O-78　16：45　冷水サンゴの安定同位体組成が意味するもの
……狩野彰宏・川越寛子・高島千鶴・坂井三郎
IODP Expedition 307乗船研究員

9月18日（月）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-52　イラン北部，下部カンブリア系ミラ層でみられるイエローベッドの起源　……野池耕平・松本　良

P-53　揚子地塊の後期石炭紀炭酸塩サイクロセム：中国貴州省西部徳塢セクションの例　……早川直樹・上野勝美
中澤　努・廖　卓庭・王　玥・王　向東

P-54　培養シアノバクテリアマットの凸型構造と化石ストロマトライト形態との類似性　……山本純之・磯崎行雄

9. 堆積相・堆積システム

世話人：石原与四郎（ishihara@fukuoka-u.ac.jp），廣木義久

9月16日（土）13：00－14：00　323会場

座長：石原与四郎（79-82）

O-79　13：00　紀伊半島四万十帯古第三系音無川層群の海溝充填堆積物　……中屋志津男

O-80　13：15　宮崎県南部油津湾沿岸に分布する宮崎層群の岩相と堆積環境　……後藤繁俊

O-81　13：30　ハイパーピクナイト様堆積物は，洪水流のみの堆積物か？　……徳橋秀一

O-82　13：45　鮮新－更新世の開析谷埋積堆積物のシーケンス層序：島根県，都野津層の例
……立石　良・酒井哲弥・山内靖喜

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-55　茨城県南部，谷和原コアにみられる中－上部更新統下総層群の堆積サイクル　……山口正秋・中澤　努・水野清秀

P-56　アグラデーショナルな塩水湿地－泥質干潟堆積物の岩相・物性・生物化石群集とその変化：中川低地にて掘削された沖積層コア（GS-SK-1）の例……石原与四郎
足立兆玄・石原園子・中島　礼
田辺　晋・中西利典・木村克己

P-57　琵琶湖の音波探査記録及びボーリングコアからみた湖水面変動史　……芦田貴史・塩屋藤彦・岩本直哉
井上卓彦・井内美郎

P-58　泉南地域における和泉層群北縁相の堆積システム
……室田真宏・前島　渉

P-59　インド，オリッサ州の下部白亜系アトガー累層の汀線堆積物　……前島　渉・ミスラ　バナベハリ
ホタ　ラビンドラ　ナト

P-60　ネパール，カトマンズ盆地の第四系に見られた堆積物の累積に伴う河川堆積相の変遷　……酒井哲弥
ガジュレル　アナンタ・大井信夫・田端英雄

10. 堆積作用・堆積過程

世話人：田村　亨（toru.tamura@aist.go.jp）・片岡香子

9月16日（土）14：00－15：15　323会場

座長：田村　亨（83-84），白井正明（85-87）

O-83　14：00　露光確率変化よりみた陸から深海への砂の旅：紀伊半島熊野地方における解釈例
……白井正明・大村亜希子・大上隆史

O-84　14：15　海底地形が地震性タービダイトの堆積様式に与える影響：奥尻海盆と後志トラフの1993年北海道南西沖地震によるタービダイトの比較
……池原　研・宇佐見和子

O-85　14：30　根室海岸地域における巨大津波痕跡とその層序（予報）……七山　太・古川竜太・中川　充
……添田雄二・猪熊樹人・重野聖之・石井正之

O-86　14：45　紀伊半島四万十帯牟婁層群の「さらし首層」（オリストストローム）の形成過程
……濱塚　博・紀州四万十帯団体研究グループ

O-87　15：00　上方粗粒化サクセションにおける粒度分布の解析：東日本太平洋岸の海浜-外浜堆積物の例
……田村　亨・増田富士雄

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-61　堆積有機物組成と安定炭素同位体比からみた有機炭素の起源と有機炭素量変動，最終氷期末期～後氷期の熊野トラフの例　……大村亜希子・池原　研

P-62　タービダイトの単層解析―房総半島下部更新統大田代層の解析―　……久保雄大

P-63　火砕流堆積物の下部に認められる“跳水”を示唆する高領域の堆積構造　……宮田雄一郎・松尾征二・尾崎かおり
石原与四郎・星住英夫

P-64　混合砂礫を用いた砂礫堆の形成実験　……坂本隆彦

P-65　新潟県阿賀野川汽水域における堆積作用
……本多　結・立石雅昭・徳岡隆夫・吹田　歩
松田滋夫・西村清和・安間　恵

P-66　松山市沖の後期更新世から完新世の海況変遷
……塩屋藤彦・三井拓也・岩本直哉・井内美郎

11. 石油・石炭地質学と有機地球科学

世話人：金子信行（nobu-kaneko@aist.go.jp）・大久保進

9月17日（日）14：00－15：15　323会場

座長：加藤　進（88–89）・三瓶良和（90–92）

O–88　14：00　堆積岩中の有機物の分類法に関する比較検討
……下総麻衣子・氏家良博

O–89　14：15　能登～新潟地域に分布する中期中新世～前期鮮新世珪質堆積物の有機物濃度とその変化要因
……真木祐典・三瓶良和

O–90　14：30　メタンに富む炭化水素包有物の検討
……大久保進・早稲田周・岩野裕継
波多野佳子・坂口隆昭

O–91　14：45　静岡県相良地域におけるガスの地球化学
……加藤　進・早稲田周・西田英毅

O–92　15：00　沖縄本島南部の温泉付随可燃性天然ガスの地球化学　……金子信行・猪狩俊一郎・中川　洋
平良直秀・石原金盛

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P–67　数値シミュレーションによるボルネオ島北西沖サラワク海盆中央ルコニア海域の堆積盆復元
……森田澄人・松林　修・棚橋　学

P–68　侵食谷形状のモデリングのための訓練像の概念設計
……辻　隆司・柏原功治・鳥越隆弘・高橋明久
岡田欣也・加藤　新・星　一良

P–69　帯水層におけるガスの挙動に関する実験的研究
……高橋功治・山田泰広・村田澄彦
馬場　敬・松岡俊文

12. 岩石・鉱物の破壊と変形

世話人：西川　治（nisikawa@lfp03.mine.akita-u.ac.jp）・河野義生

9月18日（月）14：00－17：30　231会場

座長：西川　治（93–97），清水以知子（98–101），河野義生（102–106）

O–93　14：00　低温，高温斜長石の温度依存性と流体の影響によるP波，S波速度，∂lnVs/∂lnVp値変化の比較　……河野義生・趙　大鵬・入舩徹男

O–94　14：15　二次元ESR画像計測による断層摩擦熱の検出
……福地龍郎

O–95　14：30　黒色断層ガウジはなぜ黒いのか？－グラファイトの地球化学と物質科学に向けて－
……大橋聖和・青木崇行

O–96　14：45　断層ガウジ中に発達する非晶物質膜の発見とその意義　……滝沢　茂・小澤佳奈

O–97　15：00　粉砕実験による黒雲母の非晶質化
……小澤佳奈・滝沢　茂・八田珠郎

O–98　15：15　変形中の温度上昇が断層粘土に及ぼす影響
……高橋美紀・溝口一生・増田幸治

O–99　15：30　断層のまわりに形成されたプロセスゾーンの解析　……西川　治

O–100　15：45　台湾チェルンプ断層掘削計画で採取されたHoleBコア試料および間隙水における解析・分析……廣野哲朗・徐　垣・林　為人・谷川　亘
大槻憲四郎・橋本善孝・三島稔明
池原　実・角皆　潤

O–101　16：00　断層岩からの情報と震源過程との関係の要点
……大槻憲四郎

O–102　16：15　ゴジラムリオンから採取されたはんれい岩の変形微細構造解析
……針金由美子・道林克禎・小原泰彦

O–103　16：30　脱水反応条件下における蛇紋岩の脆性－延性転移：歪速度の影響
……清水以知子・渡辺悠太・道林克禎

O–104　16：45　メノウの高温高圧変形実験による石英の微細構造発達過程の研究：予察……渡辺悠太
道林克禎・増田俊明・清水以知子

O–105　17：00　鉱物脈の地域的b-値と生成に関する水の重要性
……玉原正之・鳥海光弘・室屋健太郎

O–106　17：15　秋吉石灰岩の分析走査電子顕微鏡解析
……三浦保範

9月18日（月）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P–70　地殻岩石の地震前兆歪解放過程と非線形効果も含む岩石の流動則　……川田祐介・長濱裕幸

P–71　地殻岩石の地震前兆歪解放過程と大気ラドン濃度変化
……長濱裕幸・川田祐介・大森康孝
安岡由美・志野木正樹

P–72　鳥取県西部地域に分布する断層ガウジの色解析
…小林健太・宮下由香里・坂　啓惟・窪島光志
大川直樹・大橋聖和・小山敦子

P–73　台湾チェルンプ断層掘削計画Hole Aコア試料中の断層岩から検出されるビ トリナイト反射率
……松原拓穂・橋本善孝・坂口真澄
廣野哲朗・福地龍郎・徐　垣

P–74　台湾チェルンプ断層掘削計画Hole Aにおける断層岩の組織－Hole B解析の先行研究として－
……坂口真澄・廣野哲朗・菊田宏之・徐　垣

P–75　台湾チェルンプ断層掘削計画で採取された Hole B コア試料の化学分析　……多田井修・廣野哲朗・青池　寛
林　為人・菊田宏之・徐　垣

P–76　台湾チェルンプ断層掘削計画Hole-Bコア試料を用いた断層帯の浸透率構造とその多様性　……谷川　亘・廣野哲朗
林　為人・徐　垣

P–77　花崗岩中の断層破砕に伴うダメージゾーンの幅の評価
……高橋和裕・高木秀雄

P–78　小剪断帯における変形微小構造の変化 ―瀬戸内海手島の例―　……荒井優祐・高木秀雄

P–79　丹沢トーナル複合岩体における石英のマイクロクラック解析と古応力場の推定　……佐藤隆恒・高木秀雄

P–80　土岐花崗岩を貫くボーリングコア中にみられるマイクロクラックの三次元方位分布と生成環境の復元

……三輪成徳・高木秀雄・西嶋　圭
横溝佳侑・円城寺守・水野　崇

P-81　マイクロブーディン法を用いた領家変成帯柳井地域（西南日本）の古応力解析：三波川変成帯が記録する古応力値との比較　…木村希生・奥平敬元・岡本　敦・増田俊明

P-82　化石震源域の変形挙動－日高変成帯上部層南東部，野塚川・楽古川上流地域を例に－　……和田幸永・豊島剛志

P-83　日高変成帯北部ウェンザル川－パンケヌーシ川上流地域におけるマイロナイト帯の幾何学　…播磨雄太・豊島剛志

P-84　関東山地北西部，黒瀬川帯沿いのテクトニックに固体貫入した蛇紋岩の変形組織解析　……平内健一

P-85　蛇紋岩の変形と交代作用の関係　……曽田祐介

P-86　高温高圧下におけるローソン石藍閃石片岩の地震波速度測定　……藤本善航・河野義生・石川正弘
平島崇男・有馬　眞

13. 付加体

世話人：橋本善孝（hassy@cc.kochi-u.ac.jp）・坂口有人

9月18日（月）14：00－17：00　222会場

座長：植田勇人（107-112），坂口有人（114-118）

O-107　14：00　海台の島弧への衝突に伴う付加体の形成－小笠原前弧，母島海山－……森下泰成・片桐康孝

O-108　14：15　海山沈み込みによる付加体の変形構造－琉球海溝（南西諸島海溝）北部付加体の例－
……加藤幸弘・片桐康孝

O-109　14：30　四国四万十帯菜生層の陸側傾斜と走行軸内短縮－斜め沈み込みまたは衝突テクトニクスの効果
……バーン, T.・ヒバード, J.
小玉一人・ルイス, J.

O-110　14：45　方解石双晶による弾性変形領域における古応力レベルの推定……坂口有人・坂口　秀
馬場俊孝・吉田真吾・中谷正生

O-111　15：00　島弧火山活動と付加体形成のリンク
……柴田伊廣・折橋裕二・木村　学・橋本善孝

O-112　15：15　付加・構造侵食のOscillationと高圧変成付加体の形成……植田勇人

15：30　休憩

O-114　15：45　付加体形成と流体移動のモデル化に関する検討
……山田泰広・宮川歩夢・松岡俊文

O-115　16：00　SEM-CLからみた四国白亜系四万十帯に産する鉱物脈の結晶微細組織
……菊池岳人・岡本　敦・土屋範芳

O-116　16：15　鉱物脈の分類と流体包有物マッピングによる温度圧力分布：四国白亜系四万十帯久礼メランジュ……橋本善孝・横田崇輔

O-117　16：30　断層地震性すべりに伴った流体温度変化の抽出～四万十付加体延岡衝上断層からのアプローチ～……岡本伸也・木村　学

O-118　16：45　沈み込みプレート境界における流体の起源と地震サイクル…山口飛鳥・氏家恒太郎・木村　学

9月18日（月）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-87　奄美大島，下部白亜系湯湾コンプレックスにおけるメランジェの成因　……森本隼平・遅沢壮一

P-88　沈み込みに伴う砂岩の変形　……北村有迅・北条　愛
柴田伊廣・山口飛鳥・木村　学

P-89　四国白亜系四万十帯横波メランジュにおける小断層解析と鉱物脈を用いた応力解析
……桐川隆之・橋本善孝・高木美恵

P-90　九州四万十帯・延岡衝上断層下盤剪断帯の鉱物脈の微細構造　……草葉陽子・木村　学・岡本伸也
山口飛鳥・山口はるか・柴田伊廣

P-91　付加体形成におけるデコルマ面の摩擦変化の影響：個別要素法による検討　……宮川歩夢・山口泰広・松岡俊文

P-92　沈み込みプレート境界断層岩の変形組織と全岩化学組成の特徴：四国白亜系四万十帯牟岐メランジュ
……二階蔵晃・橋本善孝

P-93　付加体緑色岩中に見られる球状チタナイトの産状と起源
……富山雄太・榊原正幸

P-94　海山・海台衝突が付加体に及ぼす大規模変形構造
……辻　智大・榊原正幸

14. テクトニクス

世話人：丹羽正和（niwa.masakazu@jaea.go.jp）・大坪　誠

9月16日（土）13：00－14：45　231会場

座長：丹羽正和（119-122），藤井幸泰（123-125）

O-119　13：00　土岐花崗岩中の節理・マイクロクラック・力学異方性の相互関連とテクトニクス……藤井幸泰

O-120　13：15　大脇剪断帯－美濃帯の付加単元境界を切る左横すべり剪断帯－
……松永英里・小山雅通・大藤　茂

O-121　13：30　南海トラフ北方付加体のsplay faultの発達～数値シミュレーションによるアプローチ～
……砂川幸則・林大五郎

O-122　13：45　日高衝突帯西部の馬追丘陵の弾塑性変形
……林大五郎・森下忠良

O-123　14：00　鹿児島県甑島列島に分布する第三系火成岩脈における古地磁気学的研究
……藤内智士・菅沼悠介・清川昌一・芦寿一郎

O-124　14：15　中央構造線の正断層滑動とその変位量
……福成徹三・Simon Wallis

O-125　14：30　地下数100m～１kmにおける断層破砕帯の発達過程－岐阜県東部の阿寺断層における例－
……丹羽正和・水落幸広・棚瀬充史

9月17日（日）14：00－16：45　231会場

座長：大坪　誠（126-130），東田和弘（131-133），鎌田祥仁（134-136）

O-126　14：00　東京首都直下の伏在活断層について
……中山俊雄・杉山雄一・清水惠助・豊蔵　勇

O-127　14：15　糸魚川－静岡構造線活断層系南部の地下構造と赤石山地の急速隆起……狩野謙一・池田安隆

岩崎貴哉・伊藤谷生・佐藤比呂志・田力正好
東中基倫・小澤岳史・川中　卓

O-128　14：30　小田原-甲府測線におけるフィリピン海プレートの形状と伊豆衝突帯の地殻構造
……佐藤比呂志・平田　直・阿部　進
岩崎貴哉・加藤直子・伊藤谷生・笠原敬司
齋藤秀雄・川中　卓・井川　猛

O-129　14：45　曽根丘陵断層群を横切る反射法地震探査
……加藤直子・佐藤比呂志・今泉俊文
加藤　一・荻野スミ子・木村治夫
楮原京子・井川　猛・小池太郎

O-130　15：00　プレート三重会合点解析による全球プレート相対運動枠組み変遷と日本列島のテクトニクス
……新妻信明

O-131　15：15　北インド，ラダックヒマラヤのインダス縫合帯沿いに分布する新生代モラッセ堆積物中のチャート礫より得られた中生代放散虫化石とその意義……小嶋　智・永広昌之・大谷具幸
Ngo Xuan Thanh・板谷 徹丸・Talat Ahmad

O-132　15：30　チャートの時空分布と岩相から見たタイ国地体構造区分……鎌田祥仁・上野勝美・原　英俊
一瀬めぐみ・久田健一郎・Titima Charoentitirat
Punya Charusiri・Apsorn Sardsud

O-133　15：45　モンゴル－オホーツク海はいつ閉じたか?－北東モンゴル産三畳紀アンモノイドの意義－
……永広昌之・Yuri Zakharov
Minjin Chuluun・高橋　聡

O-134　16：00　モンゴル中央部ハンガイ－ヘンテイ帯ゴルヒ層の放散虫化石群集とチャートの地質時代
……栗原敏之・東田和弘・大藤　茂・柏木健司
Minjin Chuluun・Sersmaa Gonchigdorj
Dorjsuren Byambadash・Bunjinlkham Boijir
丹羽正和・常盤哲也・引地原野・小塚隆文

O-135　16：15　モンゴル中部ハンガイ - ヘンテイ帯，ゴルヒ層の玄武岩化学組成について
……東田和弘・栗原敏之・浅原良浩・丹羽耕輔
常盤哲也・丹羽正和・大藤　茂・柏木健司
引地原野・小塚隆文・Minjin Chuluun
Sersmaa Gonchigdorj・Dorjsuren Byambadash
Bunjinlkham Boijir

O-136　16：30　モンゴル国ハンガイ－ヘンテイ帯南縁沿いの左横すべり構造帯……大藤　茂・小塚隆文
栗原敏之・東田和弘・Minjin Chuluun
Sersmaa Gonchigdorj・Dorjsuren Byambadash
Bunjinlkham Boijir

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-95　長野県長谷～大鹿地域の４露頭における地質境界としての中央構造線の位置　……河本和朗・安原健雄・高木秀雄

P-96　中部地方中央構造線沿いに分布する片状マイクロブレッチャーの帰属　……安原健雄・高木秀雄

P-97　中央構造線と中央構造線活断層系川上断層の地質学的関係の検討　……窪田安打

P-98　阿寺断層NIED川上孔の物理検層とコア解析（XRD，化学分析ほか）－断層破砕帯の詳細構造－
……松田達生・小村健太朗・池田隆司

P-99　新潟県中越地域，新発田－小出構造線に沿う脆性断層岩類　……大川直樹・大塚洋之・小林健太・豊島剛志
大橋聖和・窪島光志・播磨雄太・三宅克彦
野口　俊・金山健太郎・伊藤　剛・平松　翠

P-100　鳥取県西部地域における低活動性断層の構造地質学的研究　……窪島光志・小林健太

P-101　小断層群による古応力と有限歪の推定 ……佐藤活志

P-102　前期石炭紀付加体（根田茂帯：旧“早池峰帯”）のユニット区分とその意義 ……内野隆之・川村信人

P-103　白亜紀後期の右ずれ付加テクトニクス：四万十帯白亜系日高川層群美山累層を例に ……常盤哲也

P-104　甑島列島と北部沖縄トラフの構造発達史
……大岩根尚・藤内智士・清川昌一

P-105　インド北部・カラコルム断層に発達するマイロナイトの変形構造 ……大谷具幸・小嶋　智・中山雄太
永広昌之・板谷徹丸・Thanh Ngo Xuan・Ahmad Talat

P-106　チベット南部に分布するNorthern Himalayan 変成ドームの形成年代と成因 ……Simon Wallis・青矢睦月
河上哲生・寺田健太郎・Lee Jeff
Wang Yu・前田晴良

P-107　NWヒマラヤのネオテクトニクスとその地震学的意味：２次元FEMからの推察 ……Ganesh Raj Joshi・林大五郎

P-108　取消

P-109　取消

15. ノンテクトニック構造

世話人：永田秀尚（nagatah@concerto.plala.or.jp）・柏木健司

9月17日（日）16：00－17：00　115会場

座長：柏木健司（137-140）

O-137　16：00　地すべり層内の２タイプの断層構造とその形成機構……野崎　保

O-138　16：15　巨大海底地滑りによる堆積物のファブリック変化と物性変化－IODP Exp. 308報告－
……山本由弦・Derek Sawyer
IODP Exp. 308乗船研究者

O-139　16：30　地形判読・GPR・トレンチ調査による有珠山麓の火山性断層……大津　直・廣瀬　亘
田村　慎・石丸　聡・岡崎紀俊・田近　淳

O-140　16：45　小豆島吉野花崗閃緑岩のラミネーションシーティングと黒雲母の構造的関係
……藤田勝代・横山俊治

9月17日（日）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-110　2005年福岡県西方沖地震による玄界島山頂部の地震性ノンテクトニック断層の断面 ……加藤靖郎・横山俊治

P-111　神戸層群で発見した谷底の膨らみ現象
……村井政徳・廣田清治・横山俊治

P-112　泥質片岩の風化メカニズムと地すべりの発生・発達過程

……山崎新太郎・千木良雅弘

P-113　樹木に残された流下痕跡に基づく阿津江土石流末端部における流動過程の復元
……中屋志郎・佐々浩司・横山俊治・村井政徳

P-114　2004年新潟県中越地震で発生したランドスライドの崖に見られる破面模様と亀裂・移動体の挙動 ……永田秀尚

16. 新生代古生物

世話人：北村晃寿（seakita@ipc.shizuoka.ac.jp）・岩井雅夫

9月17日（日）14：00－15：15　138会場

座長：奈良正和（141–145）

O-141　14：00　最終氷期以降の北太平洋における溶存酸素極小層の変遷－底生有孔虫群集の解析－
……大串健一・芝原暁彦・James P. Kennett
Tessa Hill・池原　研

O-142　14：15　過去5000年間の海底洞窟（大洞窟）の環境変化
……北村晃寿・平本真弓・山本なぎさ
加瀬友喜・大橋秀一

O-143　14：30　海底洞窟性二枚貝に見られる過去5000年間の形態進化
……生形貴男・北村晃寿・平本真弓・加瀬友喜

O-144　14：45　島根県中部中新統益田層群の地質と貝形虫化石群集
……入月俊明・岩谷北斗・武志賢一・星野光平

O-145　15：00　オオハネガイ類化石産出層の特徴……菊池直樹

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-115　北部北海道の中新世穿孔性生痕化石 *Gastrochaenolites* とその古生態学的意義 …鈴木明彦・平中伸英・疋田吉識

P-116　古第三系室戸半島層群に見られる生痕化石 *Protovirgularia* 類の分岐とその古生態：二枚貝類の“海底ハイウェイ” ……碇　雄太・奈良正和

P-117　岡山県の古第三系前島層から産出するミョウガガイ類が卓越する蔓脚類化石群の意義 ……野村真一

P-118　小笠原諸島母島始新統産の貝形虫化石
……山口龍彦・神谷隆宏

P-119　北大西洋における第四紀浮遊性有孔虫化石層序と環境変動　……松井真理・山崎　誠・佐藤時幸・千代延俊
IODP Exp. 303乗船研究者

P-120　大阪湾堆積物に記録された人為的富栄養化による底生生態系の変化：有孔虫・貝形虫からの証拠
……辻本　彰・安原盛明・野村律夫
山崎秀夫・吉川周作

P-121　鳥取県の海浜における打ち上げ二枚貝遺骸の分布特性：物理条件との関係 ……塚本祐也・近藤康生

P-122　石川県・中部中新統七尾石灰質砂岩層産のイタヤガイ科化石の産出と生息域について ……野村正純・田崎和江

17. 中・古生代古生物

世話人：鈴木寿志（geotec2@mb.infoweb.ne.jp）・鈴木雄太郎

9月17日（日）15：15－16：00　138会場

座長：梅津慶太（146–148）

O-146　15：15　北海道古丹別～大夕張地域における上部白亜系コニアシアン階～サントニアン階の渦鞭毛藻化石層序……三浦知洋・栗田裕司

O-147　15：30　北部石灰アルプス，アンモナイトを産出するブリールグラーベンからの中期カローブ期放散虫
……鈴木寿志・ガウリック ハンス ユルゲン

O-148　15：45　Deadman Bay Volcanics（San Juan Island, Washington, USA）のフズリナについて（予報）……太田泰弘・山縣　毅

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-123　久慈層群玉川層における，花粉・胞子化石と堆積相解析に基づく後期白亜紀古植生復元
……梅津慶太・安藤寿男・栗田裕司

P-124　丹波帯篠山セクションから産出するペルム紀古世 *Albaillella*について ……嶋川未来子

18. 脊椎動物化石

世話人：仲谷英夫（nakaya@sci.kagoshima-u.ac.jp）・三枝春生

9月17日（日）16：00－17：00　138会場

座長：三島弘幸（149–152）

O-149　16：00　瀬戸内海産ナウマンゾウ化石の産出層準の再検討……近藤洋一・井内美郎

O-150　16：15　Preliminary investigations on the Neogene proboscideans from Myanmar.
……Haruo Saegusa・Thaung Htike
Zin Maung・Maung Thein
Masanaru Takai・Chit Sein

O-151　16：30　真性ヒゲクジラの出現過程と歯のあるヒゲクジラAetiocetidaeの多様性 ……澤村　寛

O-152　16：45　鹿児島県長島町獅子島の白亜系御所浦層群幣串層より産出した長頸竜（爬虫綱・鰭竜上目）化石（予報）……仲谷英夫・近藤康生・谷本正浩
宇都宮聡・菊池直樹

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-125　北但地域（村岡．香住，竹野）の前期中新統から産出の哺乳類足跡化石とステゴロフォドン属化石 ……安野敏勝

19. 噴火と火山発達史

世話人：古川邦之（kfuru@aichi-u.ac.jp）・古川竜太

9月17日（日）16：15－17：00　222会場

座長：古川邦之（153–155）

O-153　16：15　中部地方，フィリピン海スラブ北東地域の後期中新世以降の火成活動―関東山地に分布する飯盛山火山岩類の活動年代―……西来邦章

及川輝樹・松本哲一・宇都浩三・三宅康幸

O-154　16：30　プチスポット火山の成因と深海底ストロンボリ式噴火……平野直人・町田嗣樹・石井輝秋　イングル ステファニー

O-155　16：45　東北日本弧，七時雨火山の地質と層序……照井一明

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-126　高野尾羽根流紋岩溶岩の流理構造における選択的な酸化……古川邦之・宇野康司

P-127　紀伊山地中央部に形成された中新世の大規模コールドロン　……佐藤隆春・岩橋豊彦・奥田　尚・佐藤浩一　竹内靖夫・南浦育弘・八尾　昭

P-128　活火山の火口分布パターンの検討…三浦大助・土志田潔・幡谷竜太・阿部信太郎

P-129　火口位置と平均噴出率の相関性の検討……土志田潔・田中倫久・千葉達朗　鈴木雄介・荒井健一・塩谷みき

P-130　東北地方における最近１万年間の火山活動評価～産総研データベース「１万年噴火イベントデータ集」の利活用……工藤　崇・星住英夫

P-131　高原火山の黒曜石含有層の分布と産状およびその火山形成史上の意義…布川嘉英・竹下欣宏・中村洋一・酒井豊三郎

P-132　茨城県大子町周辺に分布する第三系火砕流堆積物の形成メカニズム …成毛志乃・國井絢子・松原典孝・天野一男

P-133　栃木・茨城県境茂木～大宮周辺に分布する第三系火砕流堆積物の形成メカニズム ……國井絢子・天野一男　松原典孝・成毛志乃・岡田　誠・浜田　毅

20. 深成岩・火山岩とマグマプロセス

世話人：大和田正明（owada@mail.sci.yamaguchi-u.ac.jp）・西来邦章

9月16日（土）13：00－15：15　222会場

座長：高澤栄一（156-159），隅田祥光（160-164）

O-156　13：00　中部地方領家帯，加々須累帯火成岩体とその周辺の変成岩……手塚恒人

O-157　13：15　島弧火成活動における沈み込み物質の影響……加藤雅泰

O-158　13：30　東南極リュツォ・ホルム岩体に産する超苦鉄質～苦鉄質変成岩類の全岩化学組成と同位体組成……隅田祥光・川野良信

O-159　13：45　東南極，プリンス・オラフ海岸東部，日の出岬に産出する藍晶石含有変成トーナル岩……廣井美邦・本吉洋一・外田智千・白石和行

O-160　14：00　南西インド洋海嶺における玄武岩組成の不均質性……根尾夏紀・宮下純夫

O-161　14：15　オフィオライト論争再考……宮下純夫・根尾夏紀・足立佳子

O-162　14：30　オマーンオフィオライト北部地域におけるボニナイト岩脈群と超塩基性岩類の岩石学的研究……山崎秀策・宮下純夫

O-163　14：45　オマーンオフィオライトマントルセクションの高枯渇かんらん岩と不適合元素の分布－海洋リソスフェリックマントルにおける流体移動と反応の証拠－……高澤栄一・菅家奈美

O-164　15：00　西太平洋海域に於けるマントル橄欖岩……石井輝秋・平野直人・小原康彦・有馬　真

9月17日（日）14：00－16：15　222会場

座長：沢田順弘（165-168），高橋　浩（169-173）

O-165　14：00　足尾山地に分布する前期白亜紀松木深成岩体と八溝山地のアダカイト質石英閃緑岩体の比較検討……高橋　浩・西岡芳晴

O-166　14：15　スラブメルティングにおけるチタン石の安定性とその意義……土谷信高・川嵜智佑・木村純一

O-167　14：30　福岡県・志賀島珪長質-苦鉄質深成複合岩体の形成過程と同位体年代…吉倉紳一・西倉久善・加々美寛雄・板谷徹丸

O-168　14：45　中部九州，高Mg組成を示す杵ヶ原閃緑岩と北部九州高Mg安山岩質岩の化学的特徴……大和田正明・三上武志

O-169　15：00　由利原油ガス田の玄武岩溶岩のマグマ分化作用－給源シートフロー溶岩にみられるMarginal reversal－……岡村　聡・稲葉　充・八幡正弘

O-170　15：15　中部-東北地域の火山フロントへ供給される含水マフィックマグマとその高イオウ濃度－斑晶メルト包有物からの証拠……山口佳昭・太田　靖・山口珠美

O-171　15：30　隠岐島後における後期新生代玄武岩類の時代変化…沢田順弘・田山良一・中村将太・内田直樹

O-172　15：45　山口県北西部，白亜紀白滝山コールドロン：Trapdoor型コールドロンの例……吉田健司・高橋厳己・今岡照喜・井川寿之

O-173　16：00　斑晶に富む流紋岩として特徴づけられる濃飛流紋岩の火山灰流堆積物…曽根原崇文・原山　智

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-134　オマーンオフィオライト北部Wadi Hilti地域層状斑れい岩のサイクリックユニット内の組成変化……秋元　梓・宮下純夫・戸松　敬・足立佳子

P-135　大西洋中央海嶺北緯30°地点のIODP Hole U1309Bで採取されたドレライト中の苦鉄質鉱物からなる包有物……前田仁一郎・山崎　徹・新納亜希子　鈴木友香里・武田史明・佐藤悠哉

P-136　大西洋中央海嶺IODP Site U1309（30°10′N）から得られたハルツバージャイトとolivine-rich cumulatesの鉱物化学組成 ……鈴木友香里・前田仁一郎・山崎　徹　新納亜希子・佐藤悠哉

P-137　チリ・タイタオ半島花崗岩の地球化学的特長……昆　慶明・小宮　剛・安間　了　平田岳史・丸山茂徳

P-138　幌満かんらん岩体のダナイトチャネル：上部マントルに

おける高温メルト／フルイド移動の考察 ……新井田清信
Green, D.・芳川雅子・Eggins, S.

P-139　北上山地に新たに見出されたアダカイト質岩体，立根岩体 ……西岡芳晴

P-140　朝日山地東部，古期深成岩類の成因
……穴田真一・加々島慎一

P-141　飛騨外縁帯北東部，小滝－北小谷地域の超塩基性岩の岩石学 ……町　澄秋・石渡　明

P-142　領家帯伊奈川花崗岩に含まれる閃緑岩質包有物のSr同位体組成 ……壷井基裕

P-143　マリアナ海溝陸側斜面南部の超苦鉄質岩の岩石学的特徴
……柳田祐樹・石渡　明・石井輝秋

P-144　室戸岬斑れい岩体から見出されたマグマ分化プロセス－固液境界層からの斜長岩質マッシュの分離と浮上－
……星出隆志・小畑正明・赤塚貴史

P-145　香川県・荘内半島にみられる花崗岩類と苦鉄質岩類の密接な随伴関係と成因 …佐藤洋平・吉倉紳一・加々美寛雄

P-146　四国東部・三滝火成岩類の岩石学
……村田　守．長尾　彰・小澤大成

P-147　未固結堆積層中へのドレライトシル貫入による相互作用とシルの結晶作用：トムラウシ緑色岩体の例
……今中里華子・宮下純夫

P-148　中央北海道南部，基礎試錐「南幌」における後期漸新世火山岩類の岩石学的研究 ……米島真由子・岡村　聡
国安　稔・今山武志・前田仁一郎

P-149　嶺岡帯からボニニティック岩片の発見とその意義
……森　良太・小川勇二郎・石井輝秋
原口　悟・黒沢正紀・李　毅兵

P-150　美濃・丹波・足尾・秩父・北部北上・秋吉帯の古生代大規模緑色岩体の産状と化学組成：海台との比較
……小泉一人・石渡　明・橋本直樹
市山祐司・武藤俊充

P-151　岩脈内にみられるマグマ流動変形構造とそれを用いた岩脈の貫入方向解析 ……下司信夫

P-152　富山県西部の中新世火山岩類から見出されたアダカイト質角閃石安山岩と捕獲岩について …土橋広宣・石渡　明

P-153　大山火山灰層中のカミングトン閃石と普通角閃石の連晶，およびマグマの平衡温度 ……小滝篤夫・牧野州明

21. 変成岩とテクトニクス

世話人：石塚英男（ishizuka@cc.kochi-u.ac.jp）・吉村康隆

9月17日（日）14：00－17：30　212会場

座長：宮崎一博（174-178）・高木秀雄（179-183）・青矢睦月（184-187）

O-174　14：00　日高変成帯の形成プロセスの再検討
……志村俊昭・ケンプ・アンソニー
長久保恵美・鈴木好昌

O-175　14：15　埼玉県比企丘陵周辺の中新統青岩礫岩中の変成岩 およびマイロナイト礫のK-Ar年代とその意義……高木秀雄・新井宏嘉・林　隆徳
岩崎一郎・高橋雅紀

O-176　14：30　四国三波川帯より汗見川デタッチメント断層・北・南フェルゲンツのD2非対称褶曲群を伴う正・逆断層群の発見と三波川帯のエクスヒューメイション……遅沢壮一

O-177　14：45　四国中央部三波川変成岩を最終的に上部地殻レベルに上昇させたD2断層活動について：汗見川東方および国領川の黒雲母帯に発達するD2断層の詳細解析…竹下　徹・エルファクハラニ
アブデルハミッド・八木公史

O-178　15：00　四国中央部三波川変成岩中の芋野カンラン岩体におけるカンラン石の構造解析
……田阪美樹・道林克禎・岡本　敦

O-179　15：15　四国三波川帯・含エクロジャイト変ハンレイ岩の起源：全岩化学組成を用いた２通りの制約
……青矢睦月・壷井基裕・ウォリス・サイモン

O-180　15：30　三波川変成帯の鉱物脈微細組織からみた流体移動……岡本　敦・菊池岳人・土屋範芳

O-181　15：45　四国中央部三波川帯・別子地域に産する変斑れい岩および超苦鉄質岩の変成履歴
……大浜敏樹・榎並正樹

O-182　16：00　四国中央部三波川帯・関川流域におけるエクロジャイト－非エクロジャイト・ユニット境界の確認……毛利　崇・榎並正樹

O-183　16：15　四国中央部三波川帯・関川流域におけるエクロジャイト－非エクロジャイト・ユニット境界の変泥質岩の岩石学的比較…榎並正樹・毛利　崇

O-184　16：30　三波川変成コンプレックス南縁部の構造と沈み込み帯における形成場
……宮崎一博・脇田浩二・中島　隆・利光誠一

O-185　16：45　四国中央部三波川変成帯五良津東部岩体におけるエクロジャイト相のSHRIMP U-Pbジルコン年代……櫻井　剛・高須　晃・早坂康隆
寺田健太郎・藤井正博

O-186　17：00　三波川変成岩中のザクロ石の異方成長
……西上原　航・鳥海光弘

O-187　17：15　熊本県五木村の黒瀬川帯に産する変成岩類：その岩石学的特徴と原岩形成場
……高田里美・宮副智之・森　康・西山忠男

9月18日（月）14：00－17：30　212会場

座長：中村大輔（188-192）・岡本和明（193-197）・川嵜智佑（198-201）

O-188　14：00　ヒマラヤの変成岩ナップの前進と冷却のプロセス：“crustal channel extrusion model”の検証
……酒井治孝・瀧上　豊・檀原　徹・岩野英樹

O-189　14：15　チェコ共和国ボヘミア山塊に産するMohelnoかんらん岩体におけるかんらん石CPOの変遷
……亀井　陽・小畑正明・道林克禎

O-190　14：30　超高圧変成作用における揮発性物質の輸送とリサイクリング：中国大陸科学掘削エクロジャイトからの制約……岡本和明・飯塚義之
江　博明・兪　震甫・赤坂正秀・許　志琴

O-191　14：45　キルギス・北部天山マクバル地域に分布するUHP変成岩のモナザイトCHIME年代
…高須　晃・櫻井　剛・トゴンバエバ・アセル

バキロフ・アザマト・田切美智雄
バキロフ・アバス・サキエフ・K

O-192　15：00　キルギス北部天山山脈マクバル地域の高圧～超高圧変成岩 ……Bakirov Azamat Togonbaeva Asel・高須　晃・田切美智雄 Bakirov Apas・Sakiev Kadyrbek 櫻井　剛・Satybaev Maksat

O-193　15：15　東南極，リュツオ・ホルム岩体，ルンドボークスヘッタにおける超高温変成イベントの時期 ……本吉洋一・廣井美邦 サティッシュ・クマール・マドスーダン・外田智千

O-194　15：30　高温高圧下における斜方輝石とザクロ石へのTiO_2固溶反応 ……川嵜智佑・明坂隆信

O-195　15：45　ダナイト・ウェーライトにおける粒成長メカニズム……大内智博・中村美千彦

O-196　16：00　変形組織から推定する高圧かんらん岩の含水量の履歴 ……片山郁夫・唐戸俊一郎・Mark Brandon

O-197　16：15　チャレンジャー海淵でドレッジされたかんらん岩から探るマリアナ海溝最南部マントルウェッジのダイナミクス……道林克禎・小原泰彦 田阪美樹・黒田友恵・岡本　敦・石井輝秋

O-198　16：30　ザクロ石－単斜輝石地質温度計の再構築：グラファイトカプセルを用いた実験データを使用して……中村大輔

O-199　16：45　微分熱力学的前進モデルの後退吸水変成作用への応用 ……桑谷　立・鳥海光弘・岡本　敦・片山郁夫

O-200　17：00　岩石－流体反応における希土類元素等微量元素の挙動－平尾石灰岩層に産する反応帯の例 …福山繭子・小笠原正継・森下祐一・西山忠男

O-201　17：15　プレート境界における浸透対流と対の交代作用 ……鳥海光弘・坂口有人

9月18日（月）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-154　カリフォルニア北部Klamath Mountain 地域に見られる角閃石のマイクロブーディン構造 ……尾吹　萌・鳥海光弘・桑谷　立・増田俊明

P-155　南インドPalghat-Cauvery Shear Zone Systemの超高温Mg-Al岩に含まれるCO_2流体包有物と温度圧力経路 …大山広幸・角替敏昭・真保　誠・M. Santosh

P-156　南インドMadurai岩体Kodaikanal地域に産する超高温グラニュライトの温度圧力経路 …田所弘行・角替敏昭・M. Santosh・吉村康隆

P-157　南インドTrivandrum granulite block・Kulapparaに産する高度変成岩類に記録された複変成作用 ……吉村康隆・中田　梓・M. Santosh

P-158　キルギス天山山脈マクバル地域コース石片岩と変成岩捕獲岩 ……田切美智雄・高須　晃・Bakirov Apas Kadyrbek Sakiev

P-159　西アルプス・セシア帯のEclogite/Glaucophaniteの含水量とその広域変化 ……松本啓作・平島崇男

P-160　チェコ共和国・Horní Boryのクフェールグラニュライトに伴うcalc-silicate rock中の流体包有物 ……久島紘樹・平島崇男

P-161　チェコ共和国・ボヘミア地塊南部　Lhenice shear zoneに産するGarnet-biotite-sillimanite-cordierite片麻岩の岩石学的特徴 ……小林記之・平島崇男 スフォイッカ・マルチン

P-162　Gföhlグラニュライト中のAl_2SiO_5多形の組織の多様性 ……平島崇男・佐井寛禎・久島寛樹・小林記之 生田大穣・玉田　攻・廣井美邦 スフォイッカ・マルチン

P-163　ポロシリオフィオライトの変成トロクトライトの変成プロセスと海嶺近傍での熱水変成作用 ……田中真二・宮下純夫

P-164　一の目潟カンラン岩ゼノリスの微細構造と地震波特性 ……佐津川貴子・道林克禎 阿部なつ江・岡本　敦

P-165　北上山地・遠野接触変成帯に産する含十字石ホルンフェルスの記載学的特徴 ……御子柴（氏家）真澄 宇留野勝敏・加納　博・蟹澤聰史

P-166　接触変成作用をうけた大鹿村の鹿塩マイロナイト ……小野　晃

P-167　四国三波川帯・瀬場ルートのエクロジャイトユニット境界：構造地質学と顕微ラマン分析 ……水上知行 ウォリス・サイモン・榎並正樹・毛利　崇

P-168　四国三波川帯東赤石かんらん岩体におけるガーネッタイトの変形微細構造 ……村本政史・道林克禎

P-169　西南日本の三波川帯における広域的歪み解析－構造地質学の常識の再検討－ ……森山義札・ウォリス・サイモン

P-170　ザクロ石－電気石間のFe-Mg分配が示す四国三波川帯国領川地域の温度構造 ……砂田大樹・榊原正幸

P-171　三波川変成帯の灰曹長石－黒雲母帯の昇温期変成条件の再検討 ……青木一勝・丸山茂徳

P-172　四国三波川帯別子地域の含コランダムゾイサイト角閃岩中に産するクロリトイド ……坂野靖行

P-173　西彼杵変成岩に産するアルカリ輝石岩類の累帯構造と物質移動 ……重野未来・森　康・島田和彦・西山忠男

P-174　炭質物のラマン分光分析による変成温度の推定 ……清水　瞳・ウォリス・サイモン・榎並正樹

P-175　高温変成岩中のザクロ石の粒径分布と化学組成 ……池田　剛・後藤さおり

P-176　イギリス西部アングルシー太平洋型造山帯の新しい地質構造区分の提案 …川井隆宏・Brian Windley・丸山茂徳

22. 岩石鉱物一般

世話人：川嵜智佑（toshkawa@sci.ehime-u.ac.jp）

9月16日（土）13：00－15：00　125会場

座長：早坂康隆（202-205）・大場孝信（206-209）

O-202　13：00　環太平洋のメタロジェニー：東西のコントラストの成因 ……佐藤興平・ロディオノフ セルゲイ M. ミッチェル アンドリュー

O-203　13：15　日本の層状マンガン鉱床における希土類元素の

ポテンシャル評価
……守山　武・渡辺　寧・村上浩康
O-204　13：30　対照的な２つの領家花崗岩類：三河地方の清崎花崗閃緑岩と三都橋花崗岩……沓掛俊夫
O-205　13：45　北部フォッサマグナ，新潟県鉾ヶ岳の火山岩類のK-Ar年代と岩石化学　……大場孝信
O-206　14：00　Uraninite，Huttonite/Thorite，BaddeleyiteのEPMA-Datingとその問題点および年代学的重要性……早坂康隆・藤井正博
O-207　14：15　ジルコン・モナザイトのEPMA年代マッピング……鈴木和博・加藤丈典
O-208　14：30　九州黒瀬川帯に産するヒスイ輝石－オンファス輝石－ヘデン輝石の共生を含むアルバイト・オンファス輝石岩……宮副智之・西山忠男
植田和男・森　康・宮崎一博
O-209　14：45　造山帯かんらん岩のマフィックレイヤーのタイプ分けと全岩化学組成のシステマティクスについて－多変量解析からのアプローチ
……小畑正明・山路　敦

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-177　福島県田村市における花崗岩類の風化変質 ……杉田律子
P-178　結晶質ホワルダイトの組織と化学組成
……矢内桂三・野田　賢
P-179　奈良県天川村東部川迫岩体に産する花崗斑岩の斜長石・アルカリ長石の組織
……高谷真樹・下林典正・三宅　亮・北村雅夫
P-180　チャートの石英の結晶度（CI値）とチャート礫のプロベナンス　……梅田美由紀

23. 情報地質

世話人：能美洋介（my_noumi@big.ous.ac.jp）

9月18日（月）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-181　HSI色空間とステレオ投影の融合空間を用いた斜面ベクトルの可視化による断裂系の抽出 ……中村貴子
P-182　奈良県矢田断層近傍の自然γ線マッピング
……能美洋介・西村敬一・赤松純平
P-183　ケニア，カビロンド地溝帯における土壌浸食の環境科学的背景　……桂田祐介・星野光雄・山本鋼志
吉田英一・杉谷健一郎
P-184　地層名検索データベースの構築-その５
……巌谷敏光・鹿野和彦・中野　俊・松浦浩久
中江　訓・原　英俊・宮崎一博・長谷川　功
高橋　浩・西岡芳晴・尾崎正紀
P-185　数値地質図標準化：品質要求事項と主題属性コード
……産業技術総合研究所地質調査センター
数値地質図標準作成研究グループ
P-186　地層面推定・表示ソフトウェアTerramod2005の再構築－Visual Basic 2005 Express Editionを用いて－
……坂本正徳

24. 環境地質

世話人：難波謙二・風岡　修・田村嘉之（tamura-yoshiyuki@pop07.odn.ne.jp）・三田村宗樹

9月17日（日）14：00－17：15　128会場

座長：田村嘉之（210-212）・吉田　剛（213-216）・藤崎克博（217-218）・香村一夫（219-222）
O-210　14：00　廃棄物層における間隙の分布と保有水の賦存
……香村一夫・石渡康尊・依田彦太郎
原　雄・山田正人
O-211　14：15　残土石埋立地等の人工地層における地質汚染に関する環境リスク管理について
……笠原　豊・楠田　隆・風岡　修
山本真理・楡井　久
O-212　14：30　有楽町層上部のヒ素濃度分布・鉛濃度分布
……吉田　剛・楡井　久・田中　武
O-213　14：45　地質汚染モデル実験―難透水層における汚染物質の挙動について―……田村嘉之・風岡　修
篠原　誠・佐藤光男・楠田　隆・楡井　久
O-214　15：00　地下水モデルの利用法の検討……藤崎克博
O-215　15：15　地質汚染機構解明調査における千葉県の取組み―情報公開制度と完全浄化―……楠田　隆
佐藤賢司・酒井　豊・笠原　豊・山本真理
風岡　修・加藤晶子・古野邦雄
O-216　15：30　地質汚染調査とリスクマネジメント…上砂正一
O-217　15：45　地盤沈下の新しい観測技術についての検討
……香川　淳・三尾有年・伊藤慎司・楠田　隆
O-218　16：00　関東地下水盆の最近の地下水位……古野邦雄
香川　淳・笠原　豊・山本真理
楠田　隆・楡井　久
O-219　16：15　新潟平野の液状化現象－新潟県中越地震と新潟地震の事例から－……仲川隆夫
O-220　16：30　新潟県中越地震により信濃川高水敷で生じた液状化被害
…本郷美佐緒・片岡香子・卜部厚志・鈴木幸治
O-221　16：45　下総台地の谷埋造成地の液状化－流動化被害地点での地質環境－液状化しやすい人工地層・液状化しにくい人工地層・1987年千葉県東方沖地震被害地質環境調査から－……風岡　修
佐藤光男・風戸孝之・早川　実・笠原　豊
楠田　隆・古野邦雄・原　雄・香村一夫
佐藤賢司・楡井　久
O-222　17：00　2005年8月宮城県沖地震の利府町十三塚の丘陵頂部の畑地における盛土の液状化について
……川辺孝幸

9月18日（月）14：00－16：00　128会場

座長：川辺孝幸（223-226）・風岡　修（227-230）
O-223　14：00　千葉県における地震動の特徴－主要動の卓越振動数と地質について－
……加藤晶子・酒井　豊・楠田　隆
O-224　14：15　千葉県地域を中心とした長周期地震動に関する検討（その３）－2004年中越地震の観測結果か

ら－
……酒井　豊・楠田　隆・加藤晶子・山本真理
O-225　14：30　駿河湾西岸三保半島沖の底質変化
……吉河秀郎・根元謙次
O-226　14：45　愛媛県南部御荘湾における19世紀干拓に伴う海底環境変遷……天野敦子・岩本直哉・塩屋藤彦
井上卓彦・高杉由夫・井内美郎
O-227　15：00　ダム排砂における濁水の特徴と微生物風化
……田崎和江・白木康一・今西弘樹
朝田隆二・佐藤和也・脇元理恵
O-228　15：15　伊豆大島における植物が与える玄武岩の風化への影響……藤本光一郎・下田歩未
O-229　15：30　中硬質堆積岩の間隙水抽出……大山隆弘
Waber Niklaus・Gautschi Andreas
O-230　15：45　二酸化炭素地中貯留技術－長岡実証試験サイトを例として……北村圭吾・薛　自求

9月18日（月）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-187　異種地下水の混入を考慮した原位置採試地下水の水質測定結果の妥当性の検討
……内藤一樹・奥澤康一・関　陽児・竹野直人
P-188　水文学的低次流域の渓流水質に着目した地化学ベースライン調査；金丸地区におけるパイロット研究
……奥沢康一・関　陽児・内藤一樹
亀井淳志・竹野直人
P-189　透水性割れ目を検出するための孔内検層法とその現場適用例　……関　陽児・内藤一樹・奥澤康一
P-190　渓流水流下過程におけるウラン濃度変化に関する一考察—河床のバイオフィルムを中心に
……須甲武志・難波謙二・奥澤康一
鈴木正哉・間中光雄・関　陽児・渡部芳夫
P-191　福岡県西部・那珂川上流・五ヶ山地域の地球化学図
…柚原雅樹・小路泰之・宇藤千恵・石原与四郎
P-192　高レベル放射性廃棄物処分における隆起・侵食に起因するシナリオの検討 ……川村　淳・大井貴夫・新里忠史
安江健一・梅田浩司・牧野仁史・石丸恒存
P-193　周氷河作用を被った地域における表層部の水理地質構造－北海道北部・幌延地域における例－ ……舟木泰智
安江健一・國丸貴紀・尾留川　剛・名合牧人
P-194　離島海底下の地下水特性－長崎市池島炭鉱の例－
……小野雅弘・塩手康之・田中和広
飯島幸夫・中田英二
P-195　鹿児島県入来町における縞状の地層および温泉水中の微生物の働き ……伊牟田ミハル・田崎和江
P-196　高知県鏡川地域の地表水から沈澱したマンガン酸化物の鉱物組成と微細組織 ……臼井　朗・田中正浩
P-197　琵琶湖湖底表層堆積物の粒径分布 ……樋口衡平
P-198　長野県の小規模湖沼堆積物の特徴
……高橋かづ江・田崎和江・馬場奈緒子
P-199　2006年ジャワ中部地震において何故・被害地域は断層を跨いで点在しているか？ ……大角恒雄・小川勇二郎

25. 応用地質一般

世話人：横田修一郎・上野将司（ueno-shouji@oyonet.oyo.co.jp）

9月17日（日）14：00－16：00　115会場

座長：横田修一郎（231-234），西山賢一（235-238）

O-231　14：00　泥質岩の風化指標としての微細黄鉄鉱抽出法
……石田啓祐・西山賢一・佐藤威臣
竹熊隆宏・長谷川修一
O-232　14：15　鉱物組成に基づく黄鉄鉱含有泥岩のスレーキング特性……西山賢一・石田啓祐・佐藤威臣
竹熊隆宏・長谷川修一
O-233　14：30　島根県大田市の火砕岩急崖におけるタフォニの拡大過程と上部オーバーハング斜面の不安定化
……坂田聖二・横田修一郎
O-234　14：45　カリ長石微小クラックの配向性とボアホールテレビューアによる亀裂観察結果との比較
……堀川滋雄・吉倉紳一・サントシュM.
西尾　格
O-235　15：00　四国，中央構造線沿いの地震起源地すべり
……小坂英輝・稲垣秀輝
O-236　15：15　地すべりによるトンネル変状と対策…上野将司
O-237　15：30　斜面崩壊発生箇所の地形・地質特性に基づくsusceptibility map作成の試み
……花井健太・横田修一郎
O-238　15：45　2006年６月の集中豪雨によって発生した島尻泥岩層の斜面崩壊……黒田登美雄・小宮康明
林　諭・古川博恭

9月17日（日）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-200　河川濁質の構成粒子と粒度分布について
…田中姿郎・伊藤由紀・井野場誠治・久野春彦
P-201　段丘の分布と岩盤の劣化傾向 ……大河内誠
P-202　CO_2地中貯留における岩盤の溶解－CO_2溶解水による凝灰質砂岩の溶解－ ……中田英二・矢島達哉
P-203　比抵抗構造・重力異常から示唆された北海道東部の横ずれ断層帯 ……市原　寛・神山裕幸・茂木　透
P-204　中部ネパールヒマラヤの地質と自然災害：研修コース設定とガイドブック ……吉田　勝・ダハールランジャンK
P-205　産業技術総合研究所地質調査総合センターのボーリングコア収蔵施設について ……角井朝昭

26. 地学教育・地学史

世話人：阿部国広

9月16日（土）13：00－14：20　115会場

座長：中井睦美（239-242）

O-239　13：00　自然災害への理解を深め行動できるようにする防災教育……細山光也
O-240　13：20　北海道における明治中期から大正期の地質調査研究史……松田義章
O-241　13：40　歴史は現代史から始めよ　地学は第四紀から始

めよ……羽鳥謙三

O-242　14：00　寺田寅彦とその弟子達による測地学的地殻変動の研究……鈴木慰元

9月16日（土）コアタイム　12：00－13：00
ポスター会場

P-206　普及書「幻のカエル～崖に卵をうむタゴガエル」で地学教育支持層を広げる試み ……大木淳一

P-207　シームレス地質図サポートページ－地質図の普及と認知に向けた取り組み－ ……吉川敏之

P-208　小・中学校における地層の野外観察の実施状況－研究者に望まれていることは何か－ ……三次徳二

P-209　屋久島の地質とその自然環境の地質的背景を説明するグラフィックポスターの企画と目的
…小笠原正継・斎藤　眞・下司信夫・長森英明

P-210　神奈川県立生命の星・地球博物館と西予市城川地質館との連携～都市型総合博物館と地方専門型博物館との交流～　……平田大二・山下浩之・新井田秀一
高橋　司・小出良幸

P-211　廃食用油と乾燥土を用いた生徒向け火山噴火実験
……笠間友博・平田大二・新井田秀一
山下浩之・石浜佐栄子

27. 第四紀地質

世話人：吉川周作（yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp）・松岡裕美・嵯峨山　積

9月18日（月）14：00－16：30　125会場

座長：渡辺正巳（243-246）・佐藤高晴（247-250）・嵯峨山積（251-252）

O-243　14：00　20世紀のサロマ湖の環境変化：変化過程を有孔虫群集から検証する……野村律夫・香月興太
河野重範・辻本　彰・前川公彦

O-244　14：15　北海道網走湖に記録された過去100年間の環境変化……瀬戸浩二・高田裕行・香月興太
園田　武・佐藤高晴・坂井三郎

O-245　14：30　北海道石狩低地帯南部の勇払原野の最上部更新統～完新統……嵯峨山　積・荒川忠宏
亀山聖ニ・佐々木宏志

O-246　14：45　十万年サイクル発祥期の黒潮：銚子陸上掘削コア中部更新統の珪藻化石
……岩井雅夫・永井志歩・亀尾浩司

O-247　15：00　大阪湾夢洲沖ボーリングコアの岩相層序と編年
……吉川周作・三田村宗樹

O-248　15：15　琵琶湖の全炭素含有率に基づく過去30万年間の千年スケールの東アジア夏季モンスーンの復元
……岩本直哉・井内美郎

O-249　15：30　山陰地域西部，津和野町大婦け遺跡における完新統の花粉分析……渡辺正巳・宮田健一

O-250　15：45　四国南西部に分布する先段丘堆積物の堆積環境について……鹿島愛彦

O-251　16：00　日本最古の縄文時代湿地性遺跡の埋積プロセスと筑紫平野の成因……下山正一・塚野香織
山中寿朗・中村俊夫・黒住耐二・金原正明
西田　巌・中野　充・市原季彦

O-252　16：15　南極大陸宗谷海岸親指池堆積物に見られた最近のテナルド石析出について
…佐藤高晴・竹田一彦・大川真紀雄・瀬戸浩二

9月18日（月）コアタイム　13：00－14：00
ポスター会場

P-212　地中レーダ探査による沖積・段丘面下の地質構造調査
……安江健一・新里忠史・千葉昭彦

P-213　石英単粒子分割法による海成段丘堆積物のRTL年代測定
……鴈沢好博・篠原　緑

P-214　下北半島北部に分布する正津川軽石流堆積物のジルコン・フィッション・トラック年代と田名部平野の海成段丘の年代 ……桑原拓一郎

P-215　北浦に流入する河川起源付着性珪藻殻の運搬・堆積過程
……石川友美・納谷友規・真山茂樹・天野一男

P-216　野尻湖西部池尻川低地の10mコアにおける主要テフラの年代　…角田絵理・芦田貴史・公文富士夫・近藤洋一
岩本直哉・井上卓彦・井内美郎

P-217　知多半島武豊層のFT年代
……牧野内猛・岩野英樹・檀原　徹

P-218　余呉湖における4500年間の珪藻群集組成変化と人間活動
……吉田広人・廣瀬孝太郎・山崎秀夫
兵頭政幸・柏谷健二・吉川周作

P-219　琵琶湖表層柱状堆積物の物理量と気象観測データとの対応　…岩本はるか・渡部　遼・岩本直哉・天野敦子
齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎

P-220　琵琶湖における過去100年間の珪藻種組成変遷
……納谷友規・渡部　遼・岩本直哉・天野敦子
斉藤笑子・加　三千宣・熊谷道夫・井内美郎

P-221　琵琶湖湖底表層堆積物における過去約100年間の生物源シリカ濃度と気象観測データとの対応
……相澤育実・岩本直哉・渡部　遼・齋藤笑子
納谷友規・熊谷道夫・井内美郎

P-222　琵琶湖湖底表層堆積物の物理量変動と気象観測記録との関係　…渡部　遼・岩本はるか・岩本直哉・天野敦子
齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎

P-223　大阪湾奥部における完新世貝形虫群集の変遷と堆積環境
……西田慎一・安原盛明・吉川周作

P-224　大阪湾夢洲沖ボーリングの花粉分析に基づく過去5000年間の植生変遷 ……北川陽一郎・吉川周作・高原　光

P-225　広島湾表層コアから明らかになった過去100年間の底生有孔虫群集の時空変化 ……山本　巨・辻本　彰
山崎秀夫・安原盛明・吉川周作

P-226　山口県におけるAso-4火砕流堆積物のユニット区分と分布様式　……松尾征二・宮田雄一郎・星住英夫

P-227　四国南部高知平野の完新世発達史 …梅原綾乃・岡村　眞

P-228　土佐湾沿岸の津波堆積物中に見られる新たな地震サイクル　……岡本直也・松岡裕美・岡村　眞

P-229　石灰岩地の侵食速度からみた中国～北九州地方のカルスト発達史仮説－シミュレーションによる検討－
……藤井厚志

P-230　大分県南部龍神池の大規模南海地震イベント …中野大智
松岡裕美・岡村　眞・千田　昇・島崎邦彦

関　連　行　事

小さなEarth Scientistのつどい
～第4回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，2003年静岡大会から地学普及行事の一環として，学校における地学研究を紹介し，地学教育の奨励と振興を図ることを目的として，「地学研究」発表会をおこなっています．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まり，普及の一助となることを願っております．

今年の高知大会では，昨年の京都大会同様，高校の地学クラブのみならず，小・中学校の地学クラブの活動および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表も募集いたしました．高知県内にとどまらず，全国の学校からご参加いただきます．学会という機会に児童・生徒同士のみならず，研究者との交流も進むことを願っております．ポスター会場内に発表用のコーナーを用意しますので，研究者の方々もぜひご参加下さい．

日時　**2006年９月17日（日）９：00～16：00**
場所　ポスター会場（高知大学朝倉キャンパス）
後援　高知県教育委員会，高知市教育委員会，日本地球惑星科学連合

参加校　（７月31日現在，学校名のみ）
香川県立三本松高等学校，　千葉県立柏高等学校，
三重県立尾鷲高等学校，　兵庫県立加古川東高等学校，
岩手県立盛岡第二高等学校，飛翔館高等学校，
遣愛女子中学高等学校，　瀬戸市立幡山中学校
早稲田大学高等学院

問い合わせ先（FaxかE-mailでお願いします）
日本地質学会地学教育委員会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F
TEL : 03-5823-1150　Fax : 03-5823-1156
e-mail : main@geosociety.jp

一般公開シンポジウム
「防災教育と地質学：子ども達を災害から守るために」

日本地質学会地学教育委員会・地質災害委員会　共催
後援：高知県教育委員会・高知市教育委員会
世話人：阿部国広（川崎市西有馬小）・天野一男（茨城大学）・松岡裕美（高知大学）

今世紀にも発生するおそれがあるとされている東南海地震・南海地震などによる災害に，我々は防災教育の観点からどう取り組んでいくべきなのか，どのような心構えを子ども達と共に持つべきなのかを，ひろく一般市民・教員・高校生などを交えて議論したい．

場所：高知市文化プラザかるぽーと11階大講義室
日時：**2006年９月17日（日）13：00～16：30**
入場無料（どなたでも入場できます）

趣旨説明・・・世話人　13：00-13：15
１．パネリストによる講演
　１）寺田寅彦と防災教育
　　・・・鈴木堯士（高知大学名誉教授）13：20-13：50
　２）高知東高校における防災教育の事例：高校教育現場での事例紹介
　　・・・小川晴美（高知県立高知東高校）13：50-14：20
　３）高知市における防災教育への取り組みと課題
　　・・・山本　聡（高知市役所防災対策課）14：20-14：50
　４）変動帯地質のうえで生きる
　　・・・齊藤靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館）14：50-15：20
２．総合討論（講演者とフロアによる公開討論）
　司会）岡村　眞（高知大学）・・・15：30-16：30

地質情報展2006こうち
ー黒潮よせるふるさとの地質ー

日程：**2006年９月15日（金）～17日（日）**
会場：**高知市文化プラザ　かるぽーと（７F）第１・５展示室（入場無料）**
主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター，日本地質学会
展示内容：地質調査総合センターが有する日本全国の各種地質情報の中から，特に高知及びその周辺に関する様々な研究成果を，展示パネルや映像を使って紹介するとともに，小さなお子さんにも楽しく地学を学んでもらうために体験学習コーナーを用意しています．
http://www.gsj.jp/Info/event/2006/johoten_2006/

地質情報展 2006 こうち

黒潮よせる ふるさとの地質

Illustration : Kawamura Yukio / AIST

お問い合せは，地質情報展事務局までどうぞ。
http://www.gsj.jp/
e-mail:kouchi06@m.aist.go.jp
電話：029-861-9120
Fax：029-861-3746

今年も，日本地質学会年会にあわせ，「地質情報展」が開催されます．

ふるさと高知の地質をテーマにして，地震・火山・地下水・天然資源などに関するパネル展示を行います．会場では，地球科学の専門家が分かりやすく解説し質問にお答えすることにより，「地質」への関心へと導きます．

さらに，「地質標本館」から，珍しい化石や鉱物の標本を展示するとともに，あなたの疑問に答える地質相談コーナー，化石レプリカ作成や地質現象の体験コーナー，顕微鏡観察，砂の不思議（鳴り砂・砂変幻）など，お子さんにも楽しく学べる「体験コーナー」を用意しています．

ぜひ，皆さんの周りの方々へＰＲをお願いします．

体験コーナー（予定）

いろんな石を触ってみよう・割ってみよう！　自分だけの化石レプリカを作ろう！　地学クイズにチャレンジ！　砂で遊ぼう・砂で学ぼう！　３Ｄメガネで立体的に見る海や山！　ペットボトルで地盤の液状化を再現！　グラブ採泥器を操りでマンガン団塊を採ろう！

展示テーマ（予定）

付加体（四万十帯，秩父帯，三波川帯，）：「地下から戻ってきた石たち－四国の骨組み・変成岩のなかま－地下深くで変身した石ほか」，南海地震：「南海地震と津波－海溝型地震とはなにか－・遺跡で見つかった南海地震ほか」，「四国に降灰をもたらした巨大噴火」，「四国の地球化学図・地球物理図」　ほか

入場無料

日時：９月15日（金）～17日（日）９：30～17：00
会場：高知市文化プラザ　かるぽーと　７Ｆ
（第１展示室・第５展示室）

主催：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター・日本地質学会
後援：高知県・高知県教育委員会・高知市（申請中）・高知市教育委員会・高知大学（申請中）・四国地質調査業協会

日本地質学会*News*

Vol.9 No.8　August 2006

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６Ｆ
編集委員長　大友幸子
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

Contents

巻頭　日本地質学会第113年学術大会（高知大会）プログラム ……（1）－（28）

日本地質学会2007年度代議員および役員選挙について ……2

日本地質学会会員名簿作成アンケートの実施について ……3
「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード」記載について/名簿掲載アンケート

案内 ……5
海學問-白鳳丸・淡青丸研究成果発表会-/国際集会「Accretionary Orogens and continental Growth-from the perspective of global mass circulation」/第56回科学講演会

報告 ……5
第20期日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会IUGS小委員会第１回委員会議事録/IGCPニュース2006

各賞・助成 ……8
平成19年度笹川科学研究助成募集要項≪学術研究部門≫/第９回大学婦人協会守田科学研究奨励賞受賞候補者募集

公募 ……9
東海大学海洋学部海洋資源学科公募

紹介 ……10
地球科学の基礎分野　堆積学の潮流　岡田博有著（高柳洋吉）

TOPIC ……11
地質学の普及のための「地質の日」制定の提案（天野一男）

CALENDAR ……11

高知博物館ガイド ……12
横倉山自然の森博物館/佐川地質館/龍河洞博物館

ジオロジストのための法律メモ ……13
著作権譲渡等同意書の解説（17）

支部コーナー ……14
2006年関東支部総会・講演会報告

院生コーナー ……15
IODP/ICDP-MI Fault Zone Drilling Workshop参加報告（曽根大貴ほか）

学会記事 ……17
2006年度第２回理事会議事録

入会申込書

表紙紹介

四万十帯、横浪メランジェの放散虫層状チャート．

下部白亜系ValanginianからAptian、約20Ma間の連続層序．高知県須崎市横浪半島．

写真提供：**岡村　眞**（高知大学）

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話 03-5823-1150
FAX 03-5823-1156　E-mail : main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp

広告取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997　　印刷・製本：日本印刷株式会社

日本地質学会2007年度代議員および役員選挙について

日本地質学会2007年度代議員および役員選挙を，選挙細則に基づき実施いたします．公示はNews誌９月号ならびにホームページ上（９月10日以降）に掲載いたします．公示に先立ち，簡単に選挙概要をお知らせいたしますので，会員各位におかれましては予めご準備くださいますようお願いいたします．

１．立候補の受付期間は10月１日～10月31日（郵送，持参いずれも必着厳守）です．
２．今回の選挙は，前々回の選挙で選出された代議員100名（全国区50名・地方区50名：下記A）を改選いたします．前回選出された代議員（下記B）は2008年総会まで任期があります．立候補ならびに推薦される方は，下記の名簿をご覧のうえ，ご確認ください．
３．代議員選挙に引き続き，代議員の互選（立候補選挙）により新代議員の中から理事（７名）を，理事選出者を除く全国区の新代議員から評議員（20名）を選出します．
４．新代議員および新役員の任期は，2007年４月から2009年３月までの２年ですが，実質は当該年の総会から総会までとなります．

2006年８月２日
日本地質学会選挙管理委員会　委員長　関　陽児
委　員　加藤　潔
澤田臣啓
高橋路輝
西村瑞恵

A．改選となる役員および代議員名簿

理　事　天野一男・上砂正一・大友幸子・高橋正樹・増田富士雄・宮下純夫・渡部芳夫・

評議員（代議員兼任）

田崎和江・新妻信明・保柳康一・安間　恵・脇田浩二・磯崎行雄・巽　好幸・楡井　久・三宅康幸・柴　正博・板谷徹丸・永広昌之・荒戸裕之・山路　敦・横山俊治・矢島道子・国安　稔・田近　淳・阿部国広・納谷友規

代議員

＜全国区＞　秋葉文雄・荒井章司・伊藤　慎・卜部厚志・川端清司・川幡穂高・北里　洋・木村純一・清川昌一・小林哲夫・斎藤　眞・坂井　卓・高木秀雄・竹内　章・竹内誠・土谷信高・中川光弘・七山　太・藤林紀枝・星　博幸・堀　利栄・松本俊幸・松本　良・宮下由香里

＜地方区＞　芦　寿一郎・荒井晃作・安藤　伸・池上直樹・植村和彦・大木公彦・緒方信一・奥野　充・小澤一仁・笠間友博・鎌田耕太郎・川田祐介・川村寿郎・沓掛俊夫・栗田裕司・小井土由光・此松昌彦・坂口有人・清水正之・周藤賢治・鈴木和博・鈴木清一・高橋直樹・田上高広・塚原弘昭・寺林　優・都郷義寛・利光誠一・中川登美雄・西園幸久・橋本修一・林田　明・原山　智・府川宗雄・外田智千・前川寛和・前田仁一郎・升本眞二・町山栄章・松居誠一郎・三田村宗樹・三宅　誠・宮田雄一郎・村田明広・森田澄人・森田宜史・山崎博史・山本高司

B．継続任期（2008年総会まで）の役員および代議員名簿

会　長　木村　　学
副会長　伊藤谷生・佃　栄吉
監　事　佐藤尚弘
理　事　Wallis Simon・狩野謙一・公文富士夫・倉本真一・中山俊雄・久田健一郎・向山　栄

評議員（代議員兼任）

会田信行・浅野俊雄・足立勝治・安藤寿男・石垣　忍・石渡　明・井内美郎・井龍康文・岡　孝雄・小山内康人・加藤　進・紺谷吉弘・酒井治孝・徐　垣・新井田清信・針金由美子・松岡　篤・松田博貴・丸山茂徳・渡辺真人

代議員

＜全国区＞　佐々木和彦・吉川敏之・片山　肇・芝川明義・天野敦子・小嶋　智・鳥海光弘・吉川周作・榊原正幸・多田隆治・近藤康生・徳山英一・大藤　茂・豊島剛志・八尾昭・仲谷英夫・早坂康隆・竹下　徹・三次徳二・岡田誠・西　弘嗣・村山雅史・長谷部徳子・亀井淳志・山口飛鳥・奥澤康一

＜地方区＞　青野道夫・池田保夫・稲場土誌典・入月俊明・上野勝美・浦辺徹郎・大谷具幸・大和田正明・奥平敬元・小畑正明・加々島慎一・神谷英利・川野良信・川村信人・木村克己・楠田　隆・國井絢子・齊藤靖二・佐野　栄・島本昌憲・下山正一・菖蒲幸男・清水惠助・鈴木宇耕・鈴木紀毅・平　朝彦・田中秀実・竹之内耕・中条武司・永田秀尚・角替敏昭・手塚裕樹・中井睦美・奈良正和・延原尊美・長谷川卓・平島崇男・藤縄明彦・松末和之・松田義章・松原典孝・宮本隆実・森田康裕・山田泰広・山本博文・吉田孝紀・吉岡　正

日本地質学会会員名簿作成アンケートの実施について

日本地質学会では，学会員相互の交流と親睦を図る目的で，２年ごとに会員名簿を発行することを会則にうたっております．2006年はその発行年にあたり，本年12月末日発行の予定で準備を行いたいと思います．

名簿の発行様式は前回と同様で，全会員を収録します．本会としては，個人情報保護法の制約はあるとしても，会員の皆様が上記の目的に沿って利用できるような，従来規模の名簿を作成したいと考えておりますので，調査の実施にご理解とご協力をお願いいたします．

なお，会員名簿は評議員会でも議論されましたが，前回規模の名簿発行が望ましいとのご意見が多数でした．また，名簿作成時の会員以外は配布対象とはせず，会員も含めて発行後の販売は一切行わないことはこれまでどおりです．

アンケートの返送のない会員については，個人情報保護法の元で，名簿にお名前以外の情報を掲載することは難しい状況です．したがって，**アンケート返送数によっては，名簿の発行を取りやめることも検討しなければなりません**ので，会員の皆様におかれましては名簿発行の趣旨をご理解のうえ，アンケートにご回答下さるようお願いいたします．

名簿作成までの手続きを次のように行います．

１．「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード」を，全会員に提出していただきます．

掲載承諾のため，訂正，変更の有無に関わらず，会員氏名を記入して必ず返送して下さい．返送のない場合には承諾の有無が確認できず，お名前以外の情報は掲載できないことになります．カードの書き方の詳細は後段を参照して下さい．

２．提出締切日：2006年９月末日とします．

2006年６月

運営財政部会会員担当　中山俊雄

「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード」記載について

本カードは，全会員に提出していただきます．カードには，会員として登録されている（登録できる）基本項目を，すべて挙げてあります．各項目に修正や変更がありましたら，名簿掲載項目に関わらず，記入してお出しください．なお，会員名簿にはこれらの項目のうち，下記の名簿掲載項目(必須,選択)を載せます．選択項目については，個人の希望によりますので，必ず項目ごとに掲載の諾否をお示しください．

本用紙の裏面にFAX送信用のカードが印刷されておりますのでご利用ください．

１．名簿に掲載できる項目：※氏名（ふりがなつき），出身校，卒年，※所属先，所属部課名，所属先電話，FAX番号，連絡先住所＝自宅住所または所属先住所，自宅の場合は自宅の電話，FAX番号，メールアドレス（所属先または個人のどちらか一方）

２．名簿に必ず掲載する項目：上記の※印つき項目，氏名，所属（ない場合は掲載しない）

３．名簿掲載を選択できる項目：上記の※印のない項目すべて

４．選択項目の掲載承諾の場合：選択項目の□欄に✓を入れてください．✓印がない項目は掲載しません．

５．名簿に掲載されない項目：会員番号，生年月日，専門

６．掲載様式例

氏　名	出身校	卒業年	勤務先		〒	連絡先住所<e-mail>
地質（チシツ）　学（マナブ）	地質大（環境）	71	地質調査（株）地質部	T 03-5823-1150 F 03-5823-1156	101-0032	東京都千代田区岩本町2-8-15 <main@geososiety.jp>

＜名簿掲載アンケート＞

◎　誤記・変更・追加などありましたら，楷書ではっきりと，アパート・下宿等は忘れずに書いてください．
　団地名など省略できる場合は省略形でお願いいたします．会員番号は雑誌の宛名ラベル左下の7桁の数字です．
◎　名簿に必ず掲載する項目は※印つきの項目（氏名，所属〔ない場合は掲載しない〕）です．
◎　名簿掲載を選択できる項目は※印のない項目全部についてです．**掲載承諾をいただける場合には，選択項目の□欄にチェックを付けてください．**チェック印がない項目は今回の会員名簿には掲載しません．
◎　基本的に郵便物の受け取り先が名簿に掲載されている住所です．受け取り先を変更する場合は，欄外の受け取り先のいずれかに○をつけてください．
◎　地質学会のHPにも同様のフォーマットがありますので，それをご利用になって，E-mailで送信でも結構です．

日本地質学会事務局　御中

FAX：03－5823－1156
E-mail ： main@geosociety.jp

※印の項目は掲載必須項目です．掲載承諾の項目には□に✓を入れて下さい．

会員番号	（２００６年　　月　　日届） 名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード				
ローマ字表記		生年月日	19　年　　月　　日		
※　氏　　名		専門			
□　出　身　校	学校	□	年卒・在学		
	大学　学部	□	年卒・在学		
	大学	□ 修士課程	年修・在学		
	大学	□ 博士課程	年修・在学		
	大学　研究生・聴講生・その他（　　）				
※　所　　属					
□　所属先部課名					
□　所属先住所	〒　□（TEL　－　－　．FAX　－　－　） 代表・ダイヤルイン				
□　自宅住所	〒　□（TEL　－　－　．FAX　－　－　） 代表・ダイヤルイン				
□　E-mail Address	自宅・所属先のどちらかを登録してください．				

郵便物の受け取り先（いずれかに○）　　自宅　・　所属先

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します.

海學問ー白鳳丸・淡青丸研究成果発表会ー

日時：**2006年9月8日（金）～9日（土）**
場所：日本科学未来館7階　みらいCANホール（東京都江東区青梅）
参加申込：(学生は申込不要）下記問い合わせ先まで.
問い合わせ先：海學問事務局
umigaku@or.u-tokyo.ac.jp
http://www.ori.u-tokyo.ac.jp

国際集会「Accretionary Orogens and continental Growth-from the perspective of global mass circulation」のお知らせ

日程　**2006年9月19日（火）**
会場　高知大学　メディアホール

上記国際集会が日本地質学会・高知大会に引き続き行われます．これはIGCPへの申請を合意した国際チームが実施するワークショップですが広く公開さ れます．ワークショップは会議後，日本の付加体の代表的地質体である四万十帯，三波川帯，美濃帯への巡検も実施されます．巡検への参加希望者もあわせて募集しております（シンポジウム参加は自由，巡検参加者は最大30名まで）.

巡検参加のためのバス代昼食代などはワークショップから援助される予定です.

集会の主旨などは以下の通りです．お問い合わせは以下までお寄せください.

木村　学　gaku@eps.s.u-tokoyo.ac.jp
磯崎行雄　isozaki@chianti.c.u-tokyo.ac.jp
M.Santosh

また最新の情報は，以下のWeb上に掲載されますのでご覧下さい.
http://web.mac.com/tectonicsgaku/iWeb/ERAS%20workshop/ERAS%20home.html

Initiation and Aims of the workshop:
(A) Accretionary orogens are major sites of continental growth and important mineralization. They have been active throughout Earth history, and the modern circum-Pacific orogenic belts are the most typical of them. This workshop is aimed to discuss the processes for the initiation and development of accretionary orogens, and to better understand the processes responsible for the global mass circulation, cratonization and incorporation of accretionary orogens into continental nuclei.
(B) The Japanese islands represent an excellent example of Phanerozoic accretionary orogeny and continental growth. The proposed field excursion will allow the participants to examine the geological evolution of East Asia.
(C) An international project " ERAS (EaRth Accretionary Systems in space and time)" has been submitted to the International Lithosphere Program (ILP) for approval. The ILP is an important program of the IUGS and IUGG (International Unions of Geological Sciences and Geophysical Sciences of ISU). This workshop will have an important publicity campaign for the project itself as well as for the promotion of scientific activity of Japan.
(D) All invited speakers are heavy-weights in this research domain. Their participation and the timing of the workshop (to be held in the same place and the same time as the annual meeting of the Geological Society of Japan) will certainly attract a large group of audience.
(E) The workshop opens and we anticipate about 100 attendants at this meeting (but not the field excursion, which is limited to about 30 participants). Besides the local participants, the invited attendants come from Australia, UK, France, Germany, Canada, and Korea. We expect that our young researchers will greatly benefit from the highly animated discussions provided by the international leading experts during the meeting. We will also give ample opportunity for our young scientists to exchange their ideas about on-going or pertinent research with the experts.

第56回科学講演会

主　催：東レ科学振興会
日　時：**2006年9月22日（金）**
16時30分～20時
場　所：有楽町朝日ホール（有楽町マリオン11階・千代田区有楽町2-5-1（JR有楽町駅前））

テーマ：免疫の戦略–がん・自己免疫秒に挑む–
I. 免疫細胞でがんに挑む
理化学研究所　免疫・アレルギー科学総合研究センター長　谷口　克
II. 免疫学の100年-血清治療法から抗体医療へー
大阪大学大学院生命機能研究科教授
岸本忠三

その他：入場無料、定員630名
（当日会場先着順・開場16時30分）
予約の必要はありません。
ご来聴の方には、後日講演記録を進呈いたします。

お問い合せ：財団法人東レ科学振興会
〒279-8555　千葉県浦安市美浜1-8-1
TEL：（047）350-6103
E-mail：JDP00117@nifty.ne.jp

報　告

本会委員会以外の研究会・委員会等よりのお知らせを掲載します.

第20期日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会IUGS小委員会第1回委員会議事録

日時：2006年6月30日（金曜日）
午後2時00分～午後5時00分
場所：日本学術会議・会議室
出席委員：井上大栄，小山内康人，小松正幸，佃　栄吉，西脇二一，松本　良
欠席委員：岡田尚武，
オブザーバー：大矢　暁（IYPE委員会）

報告事項

1．本委員会設置までの経緯の報告（松本）
・第20期日本学術会議の分野別委員会の一つとして，地球惑星科学委員会が作られ，7名の学術会議会員と3名の国際学術団体役員および17名の国際学術団体国内委員からなる地球惑星科学委員会・国際対応分科会が2006年2月25日に開かれた.
・同分科会委員会で国際学術団体に対応する国内委員会（小委員会）を組織することがそれぞれ対応する委員に要請されIUGS対応委員として出席していた小松，松本が中心となり，3月7日，この2名を含む7名からなるIUGS小委員会が国際委員会に提案された.
・提案に基づき「地球惑星科学委員会国際対応分科会IUGS（国際地質科学連合）小委員会」が常設の委員会として設置（2006年5月25日～2008年3月31日）された.
・小委員会委員は以下の通り.
井上大栄　電力中央研究所　首席研究員
岡田尚武　北海道大学第学院理学研究科教授
小山内康人　九州大学大学院比較社会文化研究院教授
小松正幸　愛媛大学　学長
佃　栄吉　産業技術総合研究所・研究コ

ーディネータ
西脇二一　奈良大学社会学部　教授
松本　良　東京大学大学院理学系研究科
教授

2．第19期地質学研連の活動の報告（第20期への引き継ぎ）（小松）

・第19期日本学術会議において，第４部（理学）に属する地質研連は，地質学会，応用地質学会，地下水学会，岩鉱学会，古生物学会，情報地質学会，地熱学会，産業技術総合研究所からの推薦委員11名（人数配分は厳密に決められていた）と２名の学術会議会員から成っていた．構成学術団体に足場を持っており，個人単位でトップダウン的に構成される第20期と大きく異なっていた．
・地質研連はIUGS国内委員会として国際対応も行っていたが，当初の重要な役割は，科学研究費審査配分の委員を決める事であった．その機能は次第に失われ，第19期では，国内学術団体への情報伝達や調整と国際対応であった．
・この頃，国内では地球惑星科学関連の学術団体が連合を作る動きがあり，地質研連としても連合発足に向けて積極的に対応した．
・国際的には，IUGSの提案によるUNESCOの新規プロジェクトとしてIYPE（国際惑星地球年）の動きが急で，地質研連が旗を振る形で「IYPE国内準備委員会（委員長大矢　暁）」を発足させ，関連学会でIYPEの名を冠したシンポジウムを開催するなど積極的に支援，2004年12月にはキックオフ会議を計画したが，この年の国連総会でIYPEの発足が認められず，その後IYPE活動は停滞していた．なお，2005年12月に開かれた国連総会ではIYPEプロジェクトが承認された．これを受けて国内IYPE委員会の再組織が必要である．
・第19期の地質研連では，第20期のあり方について議論され，学術会議のサロン化を阻止し実効的に学術振興をはかる組織とするには，関連学協会との関係を密に保たなければならない，との意見をまとめ発言した．

審議と報告

1．小委員会の組織

出席委員の互選により，全員一致で松本良が委員長に選出され，松本の要請により，佃　栄吉が小委員会幹事となった．

2．小委員会の位置づけと役割

・小委員会は国際対応分科会の１小委員会であり，その位置づけはIUGSに対応する国内委員会である．しかし，第20期学術会議は関連学協会との関係が断ち切られており，小委員会活動にも支障をきたすと懸念される．このような状況を鑑み，IUGS小委員会として，地球惑星科学委員会が地球惑星科学連合と連携を保つ事を要請する．
・研連対応の組織がない状態では，国内学術団体への情報伝達や各団体からの意見の吸い上げ，取り纏めも本小委員会の重要な役割と考える．小委員会は構成学協会からの推薦委員で構成するものではない，とする第20期の理念は理解するが，委員会活動に実効性を持たせるため，本小委員会の委員には，原則として次の学協会等を出身母体とする者を含めることを申し合わせる．
　地質学会，応用地質学会，地下水学会，岩鉱学会，古生物学会，情報地質学会，地熱学会，産業技術総合研究所
現委員には地下水学会，地熱学会を母体とする委員が含まれていないので，他の国際対応小委員会の動きも考慮しつつ，今後，委員数を増やす際にこの点に留意することを確認する．

3．IYPE委員会の位置づけと活動

・国際惑星地球年（IYPE）対応国内暫定実行委員会（以下IYPE委員会）は，第19期地質研連により，学術会議の外の委員会として組織され（委員長：大矢　暁，副会長：佃　栄吉ほか），事務局を産総研におき，関連するGeoparkとも連携して活発に活動を展開してきた．しかし，国連でのIYPE承認がおくれた事，我が国の対応が必ずしも積極的ではなかった事により，最近の活動状況な鈍くなっている．
・第20期ではIYPE委員会の設立母体である地質研連が“消滅”したため「存在」の根拠も失いかねない状況にあり，事務局を置く産総研でも活動が困難な状況にある．2005年に国連で承認され本格的に動き始めることが決まったことを受け，IUGS小委員会は，IYPE委員会を本小委員会の中のワーキンググループと位置づけ，当面，会長他の委員構成を前のまま再発足させることとする．こうする事で，IYPE委員会は日本学術会議の中に位置づけられることとなる．
・７月下旬には，国際的キャンペーンについて地球惑星科学委員会としてどのような体制を組むかが話合われる予定である．この会議の決定を待って，新IYPE委員会の第１回委員会を開く事とする．
・オブザーバーの大矢氏より，IYPEキャンペーンの中心であるEder氏とMulder氏が７月末に来日することが紹介された．IYPE委員会としてお二人に会い，“災害地質”など日本における可能なIYPE活動について話しあう予定．
・松本より，IUGSの会長であるZhang Hongren氏が，IYPEの宣伝のため第17回国際堆積学会議（2006年８-９月・福岡）に来る事が紹介された．IYPEの宣伝は産総研が出資するブースでも行われる予定．
・

4．2007年　IUGS Executive Committee会議開催について

・IUGS事務局長Peter Bobrowsky氏よりIUGS国内委員会に対し，2007年のIUGS-EC会議を2007年１月14日～21日の期間，日本で開くよう要請があった．IUGSの中でこれまで日本が果たして来た役割を考えると，この要請は拒否できないと判断，IUGS国内委員会として，2007 IUGS ECを日本で開催することを受諾する事とした．
・開催場所について，①つくば市（提案：佃委員）と②奈良市（提案：西脇委員）から提案があった．センター試験との関係，IUGSからの諸要望を勘案し，このような国際会議としては奈良が適当だろうと判断，奈良での開催を決定した．概要は以下の通り．

準備委員長：西脇二一
日程（仮）：
2007年１月14日－15日
　フィールドトリップ（未定）
2007年１月16日－20日
　IUGS EC会議（奈良県新公会堂）
2007年１月21日
　適当な場所（京都？大阪？）で講演会（未定）

IGCPニュース2006

1．IGCP国内委員会（国際学術協力事業研連IGCP専門委・小委）

平成17年度は第19期第５回を平成17年６月16日及び第６回を平成17年９月12日にと，計２回の委員会を日本学術会議で開催した．例年，定例の委員会をもう一回２月に開催してきたが，日本学術会議が第20期から新体制でスタートすることが関わって，開催を４月に延期した．昨年度審議・決定・実施した主な事項について以下に報告する．

1）平成17年度の日本IGCP国内委員会活動報告を12月にユネスコ本部に提出した．また，日本国内委員会の活動報告書として，“Japan Contribution to the IGCP: Activity Report in 2005”（A４版，９頁）及び「日本IGCP活動報告2005」（A４版，43頁）を平成18年１月と２月に刊行し内・外の関係方面に配付した．また，平成17年度の日本IGCP国内委員会活動報告をユネスコ本部に提出した．
2）ユネスコにおけるIGCP関連の予算削減が検討されていることに関して，ユネスコ総会では日本政府として反対するように，各国IGCP国内委員会と歩調を合わせて，文部科学省ユネスコ担当に働きかけを行った．
3）10月以降の日本学術会議新体制に伴う組織改編により，IGCP国内委員会は，国際委員会の基におかれる地球惑星科学委員会国際対応分科会に設置されるIGCP小委員会として活動することになったが，分科会に派遣する委員は国際的なつながりを考慮して，当面現専門委員が当たることとなった．
3）国際惑星地球年（IYPE）については，2007～2009の設定で国連での承認を得るた

めの運動がIUGSを中心に進行しており，日本政府にも国連での提案に積極的に賛同してもらうために，国内委としても積極的に働きかけを行うことなった．

5）国内委員会新委員として，石田啓祐氏（徳島大学）（IGCP-467, 506）と久田健一郎氏（筑波大学）（IGCP-516）が加わった．

2．IGCP本部

第34回IGCP科学理事会は平成18年2月15日～17日にパリのユネスコ本部で開催され，各プロジェクトの活動の評価，各国内委員会報告の検討，新しいIGCPプロジェクトの採択等，例年の議題に加えて，IGCPの改革に関して重要な議論がなされた．日本からは日本IGCP国内委員会波田幹事が参加した．改革に関する議論は，改革が完了するまでの暫定措置を含めて，以下の通りである．

1）ユネスコの構造改革に呼応してIGCPは昨年Division of Earth Sciencesから再編されたDivision of Ecological and Earth Sciencesに移ったが，今後IGCPが中心に据えて推進するトピックスを，i）Geoscience of the Water Cycle，ii）Geohazards and Risks，iii）Earth Resources，iv）Geological Record of Global Change and Life Evolution，v）The Deep Earth: How it controls our environment に変える方向が示された．

2）それに伴って，従来IGCPに設置されていた5つのWorking Group（Stratigraphy, Palaeontology, Sedimentology, Fossil Fuels; Quaternary, Envilonmental and Engineering Geosciences; Mineral Deposits, Petrology, Volcanology, Geochemistry; Geophysics, Tectonics, Structural Geology; Hydrogeology）は今後廃止されることになり，理事会メンバーの補充も行われない．また，2005年度は新規プロジェクトの募集も行わないという過渡的措置がとられた．

3）2005年度のIGCP予算は，IUGS, USAとUNESCO Water Science Programmeからの資金援助が拡大した結果，増大した．

4）パリユネスコ本部におけるIGCP科学理事会の会期は2005年から三日間とし，従来ユネスコ本部での理事会で検討してきた各プロジェクトの活動の評価，各国内委員会報告の検討，新規プロジェクトの採択の可否等については，各Working Groupで担当部分についてあらかじめ電子媒体を通じて議論し，その結果を各グループの代表のみがパリでの理事会に参集して，最終案をまとめる，というやり方に変更された．

5）IGCP科学理事会メンバーは当面補充しないので，10人程度になった段階で，Working Groupを廃止して理事10人による新しい理事会としてスタートする．

6）IGCP科学理事会メンバーの任期を4年から3年に変更する．

7）IGCP科学理事会が行う新期及び進行中のプロジェクトの評価を援助するために，任期4年の20～30名の委員からなる諮問団を新たに組織する．諮問団委員は，電子媒体を通して理事会が行う作業を援助する．

8）新規プロジェクトの募集は，IUGSとUNESCOによるタスク・グループがIGCP科学理事会との協議を経て決定した新しいガイドラインと様式に基づいて，2006年中期頃から再開する．

9）その年度のプロジェクトの数は，IGCP科学理事会の評価に基づいて，IGCP, IUGS, UNESCO及び他の大口のスポンサーが協議して決定する．

10）タスク・グループは，今年末をメドに，IGCP国内委員会の活動報告作成に関するガイドラインを作成するとともに，IGCPを推進するための国内委員会の役割強化や国内委員会とユネスコ国内委員会との連携の強化に関する報告書を作成する．それらをまとめて，新しいIGCPを宣伝するリーフレットを作成する．

以上のように，UNESCOとIUGSによる優秀な国際共同研究事業として，これまで150以上の国々と数千人の地球科学者が参加して推進されてきたIGCPは，30年余を経てはじめて路線を修正することになりました．今後も，これまでのように先進国と発展途上国が緊密なネットワークを組んで，地球科学の研究を通して持続可能な社会の実現に努めるという基本姿勢は変えないものの，時代の要請に対応して中心的に取り上げられるトピックスの内容が変わります．したがって，これまでプロジェクト・リーダーあるいはその国内ワーキング・グループの代表者及び関連組織からの代表者を中心に組織されてきたIGCP日本国内委員会の構成を，今後はそれに加えて，これまで参加されていなかった領域の委員にも加わって頂くことが重要となってくると考えます．そこで，地質学会員の皆様には，IGCPの活動について一層の御理解と御協力を心からお願いするとともに，積極的にプロジェクトや国内委員会に御参加下さいますようお願い致します．

3．IGCP国内委員会

委員長　土　隆一
幹　事　波田重熙（ユネスコ国内委）
委　員

平野弘道（434）	上原克人（464）
石田啓祐（467，506）	斎藤文紀（475）
多田隆治（476）	後藤仁敏（491）
久田健一郎（516）	村尾　智（産総研）
本吉洋一（極地研）	

4．現在日本がLeadershipをとっているプロジェクト

No.434: Land-Ocean Interactions during Cretaceous（1999-2004）
Leader：平野弘道

No.467: Triassic Time and Trans-Panthalassan Correlations（2003-2005）
Co-Leader：石田啓祐

No.475 Deltas in the Monsoon Asia-Pacific Region（DeltaMAP）（2003-2007）
Co-Leader：斎藤文紀

No. 476 Monsoon Evolution and Tectonics-Climate Linkage in Asia（2003-2007）
Co-Leader： 多田隆治

No.516: Geological Anatomy of East & South Asia （2005-2009）
Co-Leader：久田健一郎

5．現在日本で活動しているプロジェクト

No.434: 上掲

No.464: Continental Shelves during the Last Glacial Cycle: Knowledge and Application（2001-2005）
Representative：上原克人

No.467: 上掲

No.475: 上掲

No.476: 上掲

No.491: Middle Palaeozoic Vertebrate Biogeography, Palaeogeography and Climate （2003-2007）
Representative：後藤仁敏

No.506: Marine and Non-marine Jurassic（2005-2009）
Representative：石田啓祐

No.516: 上掲

6．2003年（平成15年）度の日本の活動

No.434：「白亜紀の炭素循環及び生物多様性の変動」

O.E.T.を申請して一年延長した活動も終了したが，昨年11月にヴェトナムで最終（第6回）の国際シンポジウムと巡検を開催した．また，第3回国際シンポジウム（中国）及び第4回国際シンポジウム（ロシア）の論文集の出版が現在進行中である．後継プロジェクトは昨年の提案者ソウル大のYong Il Lee教授に坂井　卓（九大），万暁樵（中国地質大），K. Ayyasami（インド地質調査書）が加わったCo-Leadersで提案される．

No.464：「最終氷期における大陸棚の研究」

日本ワーキング・グループのメンバーは，主にアジア太平洋地域の陸棚域を対象に調査・研究を実施してきた．2005年5月香港で，INQUA, PAGES, IGCP-474との共催による国際ワークショップを開催した．

No.467：「三畳紀およびパンサラッサ海域横断対比」

三畳紀の古生物学的データの構築を目標に活動している．2005年度は，2006年3月にニュージーランドでInterRad XIと共催で開催される国際シンポジウムの準備のために，「ジュラ系＋」とともに日本地質学会（京都）の夜間小集会を開催し，情報を交換した．

No.475：「モンスーンアジア太平洋地域のデルタ」

研究者間のネットワークの構築と，新たな研究課題に向けて，人材の育成，研究プロジェクトの推進を目標に活動している．メーリングリストは国内外の約320名が登録した．ホームページのアドレスは，http://unit.assist.go.jp/igg/rg/cug-rg/ADP.html である．2006年1月に，ブルネイのダルサラーム大学で第4回国際シンポジウムを開催した．

No.476：「アジアにおけるモンスーンの発達と構造運動―気候変動のリンケージ」

2005年度は国内研究者のネットワークの構築と国際活動への積極的参加と目標として活動した．2005年9月に，ウラジオストックで第4回国際シンポジウムを開催した．

No.491：「古生代中期の脊椎動物生物地理・古地理・気候」

2005年8月St. Petersburgで，6th Baltic Stratigraphic Conferenceとの共催でプロジェクトの会合が開催された．また，関連する会合として，8月にスペインで“Fourth International Meeting in Mesozoic Fishes”が開催された．国内の活動としては，「サメの歯化石だより」

No.34および35が発行され，IGCP-491のメンバーの活動がまとめられている．

No.506：「海成および非海成ジュラ系：グローバル対比と主な地質事変」

2005年度は，我が国における近年のジュラ系研究の動向を，層序・堆積・古生物学的な見地から地質的事変との関わりで紹介することを目標として活動した．11月に南京で第1回国際シンポジウムを開催した．

No.516：「東・南アジアの地質学的解剖」

研究協力を円滑に進めるために，20名のregional coordinatorを組織し，日本から松岡　篤（新潟大），指田勝男（筑波大），小嶋　智（岐阜大），脇田浩二（産総研）が加わった．また，secretariatsとして，上野勝美（福岡大），鎌田祥仁（山口大），原　英俊（産総研）を選出した．2005年10月につくばで第1回の国際シンポジウムおよびフィールドワークショップを開催し，今後の活動計画の基本案がまとまった．11月には，タイ・コンケーンでInternational Conference on Geology, Geotechnology and Mineral Resources of Indochinaが開催され，プロジェクトは，GeohazardsとTectonics & Earthquakes Geologyのセッションをオーガナイズした．

7．産総研地質調査情報センターの国際活動

1）多国間協力

CCOP: 東・東南アジア地球科学計画調整委員会と産総研との間で契約を締結し，次のプロジェクトを実施した．

I. Field Workshop for Volcanic Hazard Mitigation　リーダー高田　亮

II. Integrated Geological Assessment for Deltas in Southeast and East Asia　リーダー斎藤文紀

III. Groundwater Assessment and control in the CCOP region　リーダー丸井敦尚

IV. Geoscience Asian Information Network（GAIN）リーダー村上　裕

また，CCOPに対して産総研のほかに世界銀行の予算を導入し，アジアの貧困層が従事する零細鉱業（スモールスケールマイニング）に関する情報を一元化するデータベースをデザインし，2回の会合を開催しアクションプランを策定中である．なお，CCOP管理理事会の議長として佃　栄吉センター長が就任した．

2）国際地球惑星年の議論が関係者の間で進んでいるが，産総研は事務局を引き受け活動している．

8．国立極地研究所の国際研究協力活動

1）第46次南極観測夏隊（2004―2005）に廣井邦（千葉大），M.Satish-Kumar（静岡大），加々島慎一（山形大），隅田祥光（極地研），本吉洋一（極地研）が参加して，野外地質調査を実施した．

2）第47次夏期観測計画（2005―2006）には，白石和行（極地研）が隊長として参加し，航空機を使ったドイツとの共同観測を大陸氷床を拠点として実施する予定である．

9．新しいプロジェクト

平成18年2月15日～17日まで，パリのユネスコ本部で開かれた第34回IGCP科学理事会では，昨年は新規プロジェクトの募集を行わなかったことから，昨年再提出及び保留の扱いとなっていたプロジェクトのみの審査が行われ，5件が本年から新しく発足するプロジェクトとして採択された．まだ議事録が公表されていないので，テーマ略称及び代表者のみを示す．

IGCP－507: Palaeoclimates of the Cretaceous in Asia. Dr. Yong Il Lee（Korea）

IGCP－513: Karst Aquifers and Water Resources. C.Groves（USA）

IGCP－518: Fluvial Sequences as Evidence for Landscape and Climatic Evolution in the Late Cenozoic. D. Bridgland（UK）

IGCP－519: Hydrogeology, Hydrochemistry and Management of Coastal Aquifers on the Atlantic Coast of South America. E. Bocanegra（Argentina）

IGCP－523: GROWNET-Global Ground Water Network. S.D. Limaye（India）

以上の結果，現行のプロジェクトは，O.E.T.（期間延長）の1を含めて計41となる．新しいプロジェクトに参加しておられる方，および，参加を希望される方は下記にご連絡下さい．

なお，IGCPの改革が関わって，本年度の新規プロジェクトの募集はまだ開始されていません．近々新しい提案様式が示されると考えられますので，新規プロジェクトの提案をお考えの方は，下記まで御連絡下さい．例年の提出期限は10月初旬で，推薦のための国内委員会は9月に開かれる予定です．

10．御質問等は，下記にお寄せ下さい．

委員長　土　隆一
〒422-8035　静岡市駿河区宮竹1-9-24
土研究事務所
電話：054-238-3240　Fax：054-238-3241
E-mail: rtsuchi@mvi.biglobe.ne.jp
幹　事　波田重熙
〒654-8585　神戸市須磨区東須磨青山2-1
神戸女子大学大学文学部
電話：078-737-2097　Fax: 078-732-5161
E-mail: hada@suma.kobe-wu.ac.jp

（文責　土　隆一・波田重熙）

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

平成19年度笹川科学研究助成募集要項≪学術研究部門≫

1．趣旨

21世紀は大きな価値基準の転換と，そのもとになる哲学の転換期であり，直面する諸課題を克服し今後の展望を拓いていくために，科学・技術は重要な鍵を握っています．

科学・技術において重視されるべきものは，新たなものを生み出し活用する「新しい知の創造」に向けなければなりません．

それには，これまで必ずしも十分な活躍の機会を与えられなかった多様な人材が能力を発揮できるようにするため，優れているが他からの研究助成が受け難い研究を掘り起こし，新規性，独創性または萌芽性をもち，発想や着想に意外性をもった研究に視点をあてます．

もって，科学・技術研究の次代を担う人材育成と，その研究を奨励して科学・技術研究の振興を図ることを目的とします．

2．申請区分と研究対象領域

A〔一般科学研究〕

人文・社会科学および自然科学（医学を除く）に関する研究

B〔海洋・船舶科学研究〕

「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」の研究を特別に奨励するもので，その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）

3．募集対象者

A〔一般科学研究〕

平成19年4月1日現在，大学院生あるいは所属機関等で非常勤・期限付き雇用研究者と

して研究活動に従事する者であって，35歳以下の者

B〔海洋・船舶科学研究〕

平成19年４月１日現在，大学院生あるいは所属機関等で研究活動に従事する（常勤・非常勤は問わず）者であって，35歳以下の者

４．申請条件

(1) 申請者は，平成19年度の研究完了まで日本所在の大学，研究機関等に籍を置き，在日できる者に限ります．

(2) 申請者は，当該研究について推薦書を必要とします．

(3) 推薦者は，日本に在住する当該研究の実質的指導者とし，助成金の交付が決定した場合は，当該研究の実施内容と経費支出の確認者になることを条件とします．

(4) 他の助成団体から助成を受ける研究と実質的に同じ内容の研究は，対象となりません．

(5) 平成19年度の日本学術振興会特別研究員に採用された者は，対象となりません．

(6) 申請は，１個人１研究計画に限ります．

５．申請書

申請は，所定の書式http://www.jss.or.jp/sasagawa/apply/apply.htmlを使用して下さい．

６．申請受付期間

平成18年10月１日～31日＜必着＞

送付および問い合わせ先：

財団法人日本科学協会笹川科学研究助成係

〒107-0052 東京都港区赤坂１－２－２

日本財団ビル５Ｆ

TEL 03-6229-5365　FAX 03-6229-5369

E-mail：jss@silver.ocn.ne.jp

詳細は，http://www.jss.or.jpをご参照下さい．

第９回大学婦人協会守田科学研究奨励賞受賞候補者募集

趣旨：本賞は，化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして，自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し，科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として，1998年に設けられたものです．

対象：自然科学分野において，優れた研究成果をあげており，将来，科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています．

授賞件数：年２件以内

賞状及び副賞50万円を贈呈します．

提出書類：１．推薦状，２．履歴書（写真貼付），３．研究業績リスト，４．主要な論文別刷５編以内，それぞれ３部（コピーでも可），５．研究題目とその概要及び今後の展望と抱負を記したもの（Ａ４版２頁以内）

応募締切日：**2006年11月30日（木）（必着）**

書類送付先及び連絡先：

社団法人　大学婦人協会

〒160-0017　東京都新宿区左門町11-６-101

TEL　03-3358-2882　FAX　03-3358-2889

公募　教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

東海大学海洋学部海洋資源学科公募

１．学科目（専門・研究分野）：**資源学**（地質学・海洋資源学または海洋調査学）

２．担当科目：鉱床学，海洋資源学，専門海洋実習，資源学実験，海洋資源学研究（卒業研究）等

３．所属：東海大学海洋学部海洋資源学科

４．採用職名及び人数：教授，准教授又は講師１名

５．応募資格及び条件

①博士の学位を有する者　②45歳未満（2006年度末現在）の者　③研究または教育の経験を有する者　④海洋の教育・研究に情熱を持っている者

１．学科目（専門・研究分野）：**海洋地質学**（地質学・環境地質情報学または古生物学）

２．担当科目：地質学，地質情報処理学，古生物学，地学実験，資源学実験，海洋資源学研究（卒業研究）等

３．所属：東海大学海洋学部海洋資源学科

４．採用職名及び人数：教授，准教授又は講師１名

５．応募資格及び条件

①博士の学位を有する者　②55歳未満（2006年度末現在）の者　③研究または教育の経験を有する者　④海洋の教育・研究に情熱を持っている者

６．採用予定日　2007年４月１日

７．提出書類

①履歴書：指定用紙……１部　履歴書はhttp://www.scc.u-tokai.ac.jp/ocean/or/rireki.htmlよりダウンロードして下さい．②写真（４×３cm）１枚　③主な業績（著書ないし研究論文，別刷・コピーも可）　④これまでの研究内容と今後の研究方針について（Ａ４判２枚，様式自由）　⑤本人に関する意見を伺える方２名の氏名と問い合わせ先　⑥「海洋地質学」と封書に明記すること

８．提出期限：**2006年９月30日（必着）**

９．書類送付先〒424-8610　静岡県静岡市清水区折戸３－20－１

および照会先東海大学海洋学部海洋資源学科　主任益山忠

電話　0543-34-0411（代）

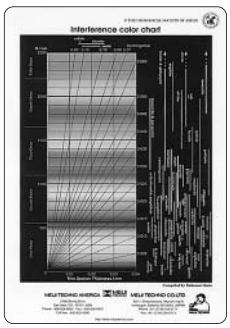
E-mail masuyama@scc.u-tokai.ac.jp

10．その他：

①１次選考（書類審査）合格者に２次選考（面接：旅費応募者負担）を行ないます．

②提出書類等は返却しません．

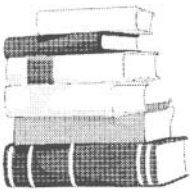
「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）が下敷き（プラスティック製/A4版/両面カラー）になりました．



岩石学を学習する学生さんをはじめ，偏光顕微鏡を使用する全ての研究者の方々に有効に活用していただけることと思います．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．

会員価格　200円　非会員価格　300円

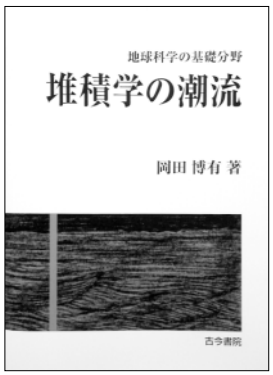
NOW ON SALE！！



紹　介

地球科学の基礎分野
堆積学の潮流

岡田　博有　著



古今書院，2006年７月20日発行，Ａ５版，
172p.，ISBN4-7722-5108-1 C3044
定価3,500円

岡田博有氏による堆積学に関する著作活動は最近きわめて活発である．同氏の地球科学の基礎分野の歴史的展開を追いながら，今日の堆積学の状況を明快に説き，未来を展望した名著『堆積学：新しい地球科学の成立』(2002)，そしてこれを増補した国際版“The Evolution of Clastic Sedimentology”（Okada with Kenyon-Smith, 2005）に続いて，本書がこのほど刊行された．前２著では，堆積学の成立，さらにその展開過程で生み出されたさまざまな概念や関連分野の分化発展を岡田氏独自の科学史観に基づいてあまねく論じられた．それに対して，「堆積学研究」誌に連載されてきた評論をまとめたこの新著『堆積学の潮流』では，前著（厳密には国際版）において登場した主要な科学者の事績に焦点を当てて，彼らの貢献の意義を各論的に説かれている．これら学問と人とをそれぞれ対象とした姉妹著をあわせて，堆積学の歴史を記述するという著者の斬新な試みといえるであろう．もしもこれを『史記』にたとえるとすれば，さしずめ前者は堆積学の「本紀」，後者は「列伝」に相当している．

本書の内容は，１．堆積学序論より始まり，続いて歴史的段階を追って，２．堆積学潮流の始まり，３．地層の研究本格化－地層学の確立，４．先堆積学の時代，５．「堆積学」の用語提唱，６．堆積組織学の確立，７．堆積岩石学の確立，８．混濁流学説の確立，９．堆積学の発展，10．国際堆積学協会の成立，という構成となっており，最後が文献で結ばれている．そしてこれら各節のもとで，“堆積学の父”とされるHenry Clifton SorbyよりDirk Jacobus Doeglasまで35名の堆積学者について，記述に長短の差はあるが，それぞれの履歴，学問と人間，主要な貢献，受賞歴，主要業績目録が説かれ，また彼ら相互の関係や学問の系譜，堆積学の発展途上での論争などが紹介される．付け加えれば，このなかに日本の学者として今井半次郎，高橋純一，八木次男が登場している．記述に当たって，前著同様にこれらの人々のイメージが生き生きと伝わるように写真が添えられているうえに，我々が発音にとまどうことがある外国人の姓名がカタカナで表記されていて，親しみやすい．また，それぞれの項目では個人名に続いて生年と没年が掲げられているのも，歴史をたどる助けになる．

岡田氏がかねてから強調されているように，堆積学の成立をみたのは20世紀中葉のことであった．この潮流をたどってみれば，草創期の研究者はみな19世紀の生まれであり，一方20世紀に誕生した研究者の活動は，混濁流学説が発展していって，さらに堆積学の諸分野が動的堆積学，非砕屑性堆積学，束層層序学，堆積盆解析と広域堆積学，造構堆積学，深海堆積学などになって多彩化する時代であることに改めて気づかされる．

現在の堆積学の確立以前の堆積物や堆積岩の研究を，本書では「先堆積学」と称している．この時代の代表として取り上げられたのは，G.K.Gilbert，J.Barrell，A.W.Grabau，高橋純一，W.H.Twenhofelの５名であるが，なかでもTwenhofelの項における「新用語“Sedimentology”の用語論争」において記された堆積学史上のエピソードが特に興味深い．

堆積物と堆積岩の研究でアメリカにおける指導者的権威であった同氏が“sedimentation”に固執し“sedimentology”という用語の使用を妨害した経緯，それに対して，別項にも登場する彼の後輩であったF.J.PettijohnがsedimentologyをＩ強く主張する自分の学生H.Wadell（スエーデン出身）を抱えて，いかに苦労したかという逸話，あるいはまたイギリスのP.Allen，オランダのD.J.Doeglasの活動を記した「国際堆積学協会の成立」の節における，「堆積学研究の近代化とその発展はその学術用語“sedimentology”の確立と国際化にあった」という本書の記述などを総合すると，この用語論争に象徴される堆積学の進化と国際化への歴史的経緯を展望する岡田氏の立場が明確に理解される．それにしても，オランダの地質学者たちが強く“sedimentology”を推した背景について評したという，イギリスのH.G.Readingの「オランダの人たちは更新世の地層が基盤であるのに対して，アメリカの人々は古い岩石を扱うことが多いからこのような考え方の違いが生じたのだろう」という指摘は，学問と風土との深い関係まで示唆しているようである．

ちなみに，国際堆積学協会は1952年に結成されて，以来４年おきに国際堆積学会議が開催されており，今年2006年夏には福岡市で第17回会議が行われる．本書の刊行は，まさに時と所を得た地球科学界への贈り物といえるであろう．

終わりに本書を通読して感じたところを少し付け加える．ここで対象に取り上げられた35名のパイオニアの履歴をたどっていくと，堆積学の発展過程におけるさまざまな学問上の師弟関係，あるいは同門関係での結びつき，さらにそれ以外の多数の研究者と関わりあう人間関係によってつむがれた学問の系譜について開眼させられる．また，それらの人々の出身国や修業した大学や研究機関などの多彩な背景にまで記述が及んでおり，まさに現代科学史を読む思いである．さらに，これらのパイオニアたちの項ではそれぞれの末尾に主要な業績がリストとなってまとめられており，原典を探索できる便宜が与えられている．過大な望みかもしれないが，本書の巻末に「人名索引」と「項目索引」がついているけれども，背景描写にも力をそそいでいる本書の性格からすれば，もしも地名索引の項などがあれば，さらに読者の理解を助けるのではなかろうか．地質学一般向けとして，また堆積学を学ぼうとする若い研究者たちに，そして近・現代科学史へ興味を抱く方々へお薦めしたい．

（高柳洋吉）

TOPIC　地質学の普及のための「地質の日」制定の提案

天野一男（茨城大学理学部理学科地球環境科学コース）

今年は集中豪雨に伴った地質災害が日本各地で頻繁し，多くの生命や財産が失われました．これらのニュースを聞いて，一般市民が自然に対してもう少し知識と地質災害への認識があれば，被害が軽減されるケースもあったと思います．私たちが市民に地質学を普及することが急務であることを感じさせられました．

一般市民に地質学の基礎的な知識を普及する方法は，地質情報展や市民講演会など様々考えられ，実行されてきました．まだ実行されていない方法で，直接的に国民に地質学の存在をアピールするものの一つに「地質の日」の制定といったことが考えられないでしょうか．6月3日は測量の日，11月18日は土木の日です．「地質の日」というのがあって，その日に国民が足下の自然を考えることがあっても良いのではないでしょうか．

諸外国の例を見てみましょう．スウェーデンでは王立科学アカデミーの提唱で毎年9月にNational Geology Dayの行事を行っています（http://www.sgu.se/sgu/en/service/nyheter/nyheter-2005/geodag2005-axplock_e.html）．産業界・大学・学生団体・アマチュア団体・科学アカデミー等12団体で構成されるAssociation for Geology Dayが運営に当たっています．その日にはそれら加盟団体が全国一斉に子供たちや一般人を対象にした巡検・公開実験・研究所公開を行います．アメリカではAGI（American Geological Institute）が提唱して毎年10月にEarth Science Weekを行っています．毎年テーマを決めていますが，今年は“Be A Citizen Scientist!”だそうです．スウェーデンと同様，全国一斉にさまざまなイベントを行っています．その他，大学や国立公園財団など個別にGeology DayやEarth Science Dayを設けて活動しているところもあるようです．

2008年は，国際惑星地球年IYPEです．日本でもこのIYPEのアウトリーチの一つとして「地質の日」を制定し，その日に全国一斉に地学の普及活動をするというのも一案です．智恵を出し合って検討を開始したらどうでしょうか．会員の間での活発な議論を期待します．

CALENDAR

2006.9～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

9月　September

○第50回粘土科学討論会
9月7日（木）～9日（土）
会場：千葉科学大学
問い合わせ：
第50回粘土科学討論会実行委員会　安藤生大
Tel. & Fax. 0479-30-4642
e-mail：tando@cis.ac.jp

☆日本地質学会第113年学術大会
9月16日（土）～18日（月・祝）
場所：高知大学

○土木学会平成18年度全国大会情報
9月20日（水）～22日（金）
場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス
http://www.jsce.or.jp/taikai2006/

○金沢大21世紀COEシンポジウム「東アジアの大気環境汚染と健康・生態系への影響」
Atmospheric pollution of East Asia and its effects on ecosystem and human health
9月23日（土）
場所：東京大学弥生講堂
http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/chronology/Air/homeJ.html

○日本地理学会2006年秋季学術大会
9月23日（土）～9月25日（月）
会場：静岡大学（浜松校舎）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/

10月　October

○堆積学スクールOTB2006「水理学の基礎と波浪堆積構造」
10月7日（土）13時～9日（月）13時まで
場所：学校法人大阪工大摂南大学セミナーハウス白浜海の家
http://www.sediment.jp/04nennkai/2006/school.html

○日本物理探査学会第115回学術講演会
10月16日(月)～18日(水)
会場　KKRホテル博多（福岡市中央区薬院）
http://www.segj.org/

○日本測地学会第106回講演会のお知らせ
10月18日（水）～10月20日（金）
会場：奥州市文化会館（愛称Ｚホール）中ホール（岩手県奥州市）
世話人　国立天文台水沢VERA観測所　田村
tamura@miz.nao.ac.jp/Tel. 0197-22-7131
http://wwwsoc.nii.ac.jp/geod-soc/

○日本火山学会秋季大会
10月23日～25日
場所：阿蘇・いこいの村
http://hakone.eri.u-tokyo.ac.jp/kazan/VSJ1E.html

○日本地下水学会2006年秋季講演会
10月26日（木）～28日（土）
会場：岡山県倉敷市芸文館
http://www.groundwater.jp/jagh/

○日本地震学会2006年度秋季大会
10月31～11月2日
場所：名古屋市
http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssj/index.html

11月　November

○日本応用地質学会　平成18年度研究発表会
11月9日（木）～10日（金）
会場：熊本テルサ（熊本市水前寺公園）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

○第2回国際シンポジウム“東および南アジアの地質学的解剖”（IGCP 516）
11月14日（火）～19日（日）
場所：フィリピン・ケソン市PASAGAサイエンスガーデン
http://staff.aist.go.jp/hara-hide/igcp516

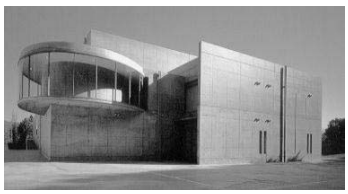
○第51回地盤工学シンポジウム
11月16日（木）～17日（金）
場所　東京
http://www.jiban.or.jp/top.html

○平成18年日本地熱学会天栄大会
11月20日（月）～11月22日（水）
場所　福島県岩瀬郡天栄村　羽鳥湖高原交流促進センター
http://wwwsoc.nii.ac.jp/grsj/index.html

高知博物館ガイド

高知県内の自然科学系の博物館をご紹介します．高知大会参加の折り，少し足をのばしてみてはいかがでしょうか．

①横倉山自然の森博物館



越知町は数万年前は仁淀川の河原だった…．そんなエピソードも含めて，越知町は地質学的に特徴ある場所が横倉山以外にもいろいろあります．化石や岩石に触れてその特徴を体験できます．また，世界的な植物学者，牧野富太郎博士は，横倉山をフィールドとして研究を続け，数々の発見をしています．彼が命名した植物やフィールドワークの様子を紹介しています．

連絡先　高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL（0889）26-1060　FAX（0889）26-0620
開館時間　9：00～17：00迄（ただし最終入館は16：30迄）
休館日　毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
入館料　大人500円　高校・大学生400円　小・中学生200円
アクセス方法　JR土讃線佐川駅→黒岩観光バスで15分．
　　バス停：宮ノ前下車，徒歩３分

③龍河洞博物館

龍河洞は日本有数の観光鍾乳洞であり，博物館では，龍河洞の生成についての地史的・化学的解明や棲息動物の生態研究などを行っており，洞外自然環境の学術的資料等，地質，岩石，生物，考古，地史，人類学等広範囲にわたる資料研究などを公開展示しています．洞窟出口付近には弥生人穴居生活の遺跡・遺物が見学でき，当時の土器が鍾乳石に巻き込まれている様子も見学することができます．また，暗い洞窟内をヘッドランプをたよりに進む冒険コースが人気を呼んでいます（※事前予約が必要）．

連絡先　高知県香美市土佐山田町逆川1424
電話0887-53-4376　FAX0887-53-2145
http://www.ryugado.or.jp
開館時間　3～11月　8：30～16：50
休館日　なし
観覧料　無料
アクセス方法　JR土讃線土佐山田駅からバスで20分

②佐川地質館

佐川盆地をはじめ高知県内の地形・地質，日本地質学の創始者と言われるエドムント・ナウマンの紹介，国内外の珍しい化石コレクションや動く恐竜（ティラノサウルス・3/5大），プレート運動を解説する動く大陸装置（プレートテクトニクス）などが展示されており，「地質・化石のメッカ」佐川ならではのミュージアムとして，地球と生命の歴史をいろいろな角度から学ぶことができます．

連絡先　高知県高岡郡佐川町甲360
TEL：0889-22-5500　FAX：0889-22-5511
開館時間　9：00～17：00（入場は16：30まで）
休館日　毎週月曜日（祝日と重なる場合はその翌日）
観覧料　大人300円・小人（小・中・高生）100円
アクセス方法　JR土讃線佐川駅から徒歩15分

☆リーフレットシリーズ・３　　好評発売中！！

『大地をめぐる水—水環境と地質環境—』

第１作「大地の動きを知ろう—地盤・活断層・地震災害—」，第２作「大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo-Pollutions」に引き続きリーフレットシリーズ第３作「大地をめぐる水—水環境と地質環境—」が発売中です．

Ａ２版裏表カラー印刷，ハンディータイプでさらにポスターにもなります．

ご希望の方は以下の要領でお申込下さい．
会員価格300円　非会員価格400円
申込方法：学会事務局宛に，希望部数を記入し，返信封筒（切手貼付のこと）を入れてお申し込み下さい．
※少部数の場合は，代金は切手で同封可．
なお，サイズが横15㎝・縦21㎝，重さ25ｇ/部ですので，郵送につきましては，以下のようにお願いします．
定型封筒の場合：90円切手貼付．ただし，二つ折りにしての郵送となります．
定型外（15㎝×21㎝以上）封筒の場合：130円切手を貼付．

ジオロジストのための

法律メモ

著作権譲渡等同意書の解説（17）

弁護士　高木宏行

前回，著作権法32条の引用の要件について見てみましたが，引用が適法かどうかが争われた例には次のようなものがあります．

1　サッカーの中田英寿に無断でその生い立ちを紹介した書籍の中で，中田選手が中学生時代に書いた詩を書籍の中に掲載したことが，適法な引用に当たるかが争われました．

掲載の態様は，15行から成る詩の全文を写真製版の形で掲載し，中央部に「中学の文集で中田が書いた詩．強い信念を感じさせる．」とのコメントが付されている以外は余白となっており，本件書籍の本文中には詩に言及した記述は一切ないというものでした．

判決は「本件書籍の読者は本件詩を独立した著作物として鑑賞することができるのであり，被告らが本件書籍中に本件詩を利用したのは，被告らが創作活動をする上で本件詩を引用して利用しなければならなかったからではなく，本件詩を紹介すること自体に目的があったものと解さざるを得ない．右のとおり，本件書籍のうちの本件詩が掲載された部分においては，その表現形式上，本文の記述が主，本件詩が従という関係があるとはいえない（むしろ，本件詩が主であるということができる．）から，被告らが本件詩を本件書籍に掲載した行為が，著作権法上許された引用に該当するということはできない．」と判示して複製権侵害を認めました（東京地裁平成12年２月29日）．

この判決では，紹介目的が不適当だと言っているのではなく，紹介する場合でも引用されるものが従である必要があると言っているものと解されています（作花文雄「詳解著作権法」339頁）．

2　レナード・バーンスタインの英語版演劇台本「Young People's Concerts What Does Music Mean?」の翻訳を行ったところ，これを最相葉月が「絶対音感」という著書で引用したことについて（319頁中３頁），適法な引用か否かが争われました．

引用の要件がいろいろ争われましたが，正当な範囲か否かについては，東京地裁と東京高裁の判断が分かれており，注目されます．

まず，東京地裁ですが「①本件書籍の目的，主題，構成，性質，②引用複製された原告翻訳部分の内容，性質，位置づけ，③利用の態様，原告翻訳部分の本件書籍に占める分量等を総合的に考慮すると，著作者である原告の許諾を得ないで原告翻訳部分を複製して掲載することが，公正な慣行に合致しているということもできないし，また，引用の目的上正当な範囲内で行われたものであるということもできない」としました（東京地裁平成13年６月13日）．

これに対して東京高裁は，「控訴人最相は，音楽とは何か，人間とは何か，という最終的なテーマと密接に関連し，同テーマについての控訴人Ａの記述の説得力を増すための資料として，著名な指揮者・作曲家の見解を引用，紹介したものであるということができ，かつ引用した範囲，分量も，本件書籍全体と比較して殊更に多いとはいえないから，原告翻訳部分の本件書籍への引用は，引用の目的上正当な範囲内で行われたものと評価することができる．この点において，当裁判所は，原判決とは見解を異にする」と判示しました（東京高裁平成14年４月11日）．

結論としては，高裁でも出所明示の要件がかけるとして，適法な引用とは認められていませんが，この例からは，適法な引用の要件を充足しているかどうかの判断は微妙な場合があるということがわかります．一義的に明確ではないことには注意が必要でしょう．

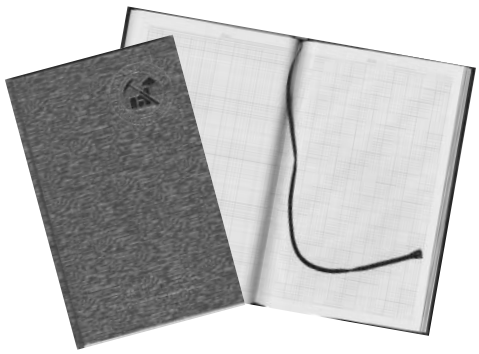
3　地質学では，図表を引用するという場面もあるかと思います．この場合，特に主従関係には特に注意が必要だと考えられます．直接的ではありませんが，参考になる裁判例としては，東京地裁平成10年２月20日判決，東京高裁昭和60年10月17日判決があり，絵画を引用した例で主従関係について従たるものとは認められないとの判断がされています．

4　要約した形での引用については，これを肯定した裁判例はありますが（東京地裁平成10年10月30日），基本的に要約引用はすべきではないでしょう．

弁護士　高木宏行
（キーストーン法律事務所）
日本地質学会顧問

第二東京弁護士会所属
現在　東京弁護士会・第二東京弁護士会合同図書館嘱託，（財）日弁連交通事故相談センター東京支部　嘱託

待望！！
学会オリジナルフィールドノートが出来ました．



サイズ：12×19cm．ハードカバー，ビニールレザー加工，金箔押し．
カラー：チョコレートブラウン．

用紙は野外調査に最適な，雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています．是非ご活用下さい．

ご購入を希望の方は，学会事務局まで．　会員頒価　500円／冊．

☆関東支部

報告

2006年関東支部総会・講演会報告

はじめに

2006年度の関東支部総会が2006年６月18日（日）10時から，北とぴあ飛鳥ホールで開催された．今回は，午前の特別講演として東洋大学名誉教授赤木俊允氏による「土質力学の父テルツァーギの生涯」を，そして昼食後の総会を挟んだ午後の部では，総会記念講演会として，「関東平野の地下構造を考える」と題して４人の講師による講演会が行われた．

日曜日しかも雨天の開催日となって参加者の出足が危ぶまれたが，77名の参加を得，そのうち会員が48名であった．これは，関連他学協会からの参加者が比較的多かったことを意味し，ある程度事前の案内ポスター掲示要請やPRの効果があったことをうかがわせた．なお，参加者内訳はコンサル関係や大学関係者などで，プレス１社の参加もあった．

特別講演

元々地盤工学会の刊行物のPRを兼ねた一連の講演会の企画において，予めテルツァーギが大きな拠り所とした地質学の視点からの御講演をお願いしていた経緯もあり，主として著書（訳書）からの地質学関連のテルツァーギ語録を引用し，関連したエピソードやその背景等についてわかりやすい丁寧な解説が行われた．併せて後半には，彼の生前の一齣を写した貴重な映像の紹介も行われた．

テルツァーギと地質学との関係は，これまでも関係者には広く知られてはいたが，彼の広く深い学識と経験に地質学がこれだけ密接に，しかも基底部分で関係していたことは，改めて驚きを禁じ得なかった．このことには，参加者の多くの方が感動を新たにしたことと思われる．

講演時間の範囲内で次のような若干の質疑応答が交わされた．

①問題の各現場に向う場合の地質情報の事前の調査についての質問に対しては，かなり綿密な地質に関する資料調査を行って現場の事前把握をした上で当該サイトに臨み，問題の解決に当たったことが解説された．

②戦前の我国における評価と来日要請の機運等の有無についての質問については，詳しいことは不明であるが，同時代には関連分野でかなり勉強された模様である旨の説明があった．

③テルツァーギの実績の地質学的側面は，地質家であった夫人の主導によるものではなかったかという情報もあるが，その実際についての質問に対しては，夫人の協力と功績が大きかったことは疑いのないことではあるが，彼女の主導というのは言い過ぎであり，元来が彼の地質学の学識と実績については確固としたものがあった訳であって，そのような評価は適切ではないとの説明があった．

総会議事

前述したように，開催条件等により総会成立が危ぶまれたが，委任状38名，会員出席者48名で無事総会は成立した．

午前の講演会の様子

例年通り2005年度の活動報告や会計報告が承認され，続いて2006年度の活動計画と予算案についての報告も承認された．

活動計画においては，地質学会のビジョンの３本柱を基本に，支部はその具体的な担い手となるべく，各ビジョンにおける具体的活動方針を上げ確認した．すなわち，①知の創造への貢献（地球を知る）では，今回の午後に実施された「関東平野の地下構造」のようなシンポジウムや技術研修会の開催，次の②人類と地球の持続的生存への貢献（地球を守る）では，地質見学会やジオパークなどの教育活動，そして③当面する社会要請への貢献（地球と歩む）では，サマーキャンプや他学会との協力体制確立などがそれぞれ位置づけられた．なお，詳細は今後の幹事会で詳しく検討されることとなった．

記念講演

午後の総会記念講演会は，午前の特別講演とは趣をかえ，本年の地質学雑誌１月号に特集号として掲載された関東平野の地下構造に関する最新の知見を，分かりやすく紹介していただくことを目的として行われた．演者は，その特集号に論文を掲載された方のうち，高橋雅紀氏（産業技術総合研究所），高木秀雄氏（早稲田大学），安藤寿男氏（茨城大学）そして久田健一郎氏（筑波大学）である．

各氏には，関東周辺および東北日本の地表地質の検討，関東平野地下の地震探査断面の解釈，あるいは地下に掘削された坑井の岩石学的検討に基づいて，関東平野の地下構造についてのそれぞれの見解を，丁寧に解説していただいた．

関東平野の地下構造の研究は，学問的に注目されているトピックスというだけでなく，首都圏における地震に対する備えという観点からも重要である．そのため，会場の参加者が熱心に聞く様子は非常に印象的で，さながら学会のシンポジウムのようであった．とくに，西南日本と東北日本との境界についての見解が明らかに異なる各氏が一堂に会したこともあって，講演会であるにもかかわらず，会場からの質問も多く行われ，短い時間ながら活発な討論が展開された．今後，さらに詳しい研究が進められて，より詳しく関東平野の地下構造が明らかになることが期待される講演会であった．

（清水・亀尾　記）

IODP/ICDP-MI Fault Zone Drilling Workshop 参加報告

曽根大貴（京都大学），岡本伸也（東京大学），
二階蔵晃（高知大学），柴田伊廣（高知大学），
山口飛鳥（東京大学）

［プログラム概要］

Tuesday, May 23: Day 1

PART 1: Scientific Motivations for Fault Zone Drilling－地震学，構造地質学，実験岩石力学，断層掘削などの各分野を代表する方々による総説

PART 2: Overviews of Recent Projects－野島断層，CRL，TCDP，SAFOD，南ア金鉱その場地震観測，南海掘削の紹介

Wednesday, May 24: Day 2

PART 3: Strain, Deformation, and Earthquakes, PART 4: Fault zone structure, composition, rheology and physical properties－各研究者による断層に関する諸テーマの研究紹介

Thursday, May 25: Day 3

Field trip to Nobeoka, Kyushu, to examine exhumed paleo-seismogenic Nobeoka thrust fault zone－延岡衝上断層への巡検

Friday, May 26: Day 4

PART 5: New or Developing Projects－CRISP，North Anatolian断層掘削などの紹介

PART 6: Recent Experiences and Technological Challenges for Fault Zone Drilling, Sampling, and Sample Handling －最先端のコア回収，コア解析，ガスモニタリング，その問題点の紹介

PART 7: Developing Technologies for Downhole Measurements and Long-Term Monitoring－震源域付近の坑内地震観測，海底における長期坑内観測（地震計，歪計）の研究・技術紹介

この度行われたIODP/ICDP-MI Fault Zone Drilling Workshopでは，来年より開始される掘削船「ちきゅう」による南海掘削に先立って，これまでの地震・断層研究で分かった見解がまとめられ，また今後の展望について議論された．４日間の日程を通じて，世界の地震・断層研究をリードしてきた研究者が集結し，活発な議論が室内外で行われた．

まず初日は，地震・断層研究の現状を総括的にレビューすることから始められた．各分野の名立たる地球物理学者，地質学者により，それぞれの分野における今までの成果と最先端が紹介され，断層掘削が地震・断層研究の中で果たす役割が確認された．（Part１）次にこれまでに行われてきた，また現行の断層掘削プロジェクトの成果が紹介され，断層掘削が何をどこまでを解明してきたかが確認された．（Part２）２日目は再び各論に戻り，より詳細で専門的な発表が行われ，今後着目されるべき問題点が浮き彫りにされた形だ．（Part３，４）３日目には延岡衝上断層の全貌が露になっている海岸露頭へと場所が移され，２日間の濃密な議論を経た参加者にとって格好の気分転換となったようだ．しかしながら，自由な行動が取られる中でも，それぞれの興味が赴くままに活発な意見交換が行われていたことが印象的であった（Fig.１）．最終日には，現在予定されている掘削プロジェクトが紹介された後，今度は断層掘削・坑内観測の技術的な側面に焦点を絞った議論が具体的なレベルで行われた．当然，断層掘削はこういった技術なしでは成り立たない．最後にまとめとなる議論がなされ，今後の問題意識が共有された．

また今回のワークショップでは，多くの著名人による発表のみならず，ポスターも数多く持ち込まれた．ポスター発表のコアタイムが二回ほど用意されていたが，ポスター前での議論はコアタイムに関係なく活発に行われたようである．また，合間の休憩時間や夜の自由時間でも，至る所に３，４人の人だかりが出来ていたことが目立ち，思い思いの意見交換がなされていたようだ．

以下，３人の学生参加者による体験記である．

◎断層掘削の壮大さを実感

ポスター発表者：**曽根大貴**（京都大学）

この度IODP/ICDP主催の断層掘削ワークショップに参加させて頂き，各分野の最先端の話を聞けたことは貴重な体験として残りました．しかし，新鮮な話から多くの刺激を受けたことは言うまでもありませんが，それよりも強い印象として残ったことは，自分が知らないことの多さを痛感させられたことでした．この三年の間，自分は京都大学で実験岩石力学を学び，また台湾チェルンプ断層掘削プロジェクト（TCDP）に関わる機会に恵まれ，断層掘削の分野にはある程度慣れ親しんでいたつもりでしたが，そう甘い話ではないようでした．いざ他の断層掘削プロジェクトの話を聞き，また他分野の発表を聞くと，そう簡単に話の内容に着いて行けないことに歯がゆさを覚える自分がいました．短い発表時間の中では，次から次へと検層データや地震の波形データが登場し，それらの概略を把握しようと努めているうちに説明は当たり前のように進み，満足の行くように理解出来ませんでした．最終的にちゃんと理解できた話は，既に自分が慣れ親しんでいたTCDPについての発表や，岩石力学実験に関する発表だけだったのかも知れません．

４日目には，丸々１日を割いて掘削技術の話があったように，断層掘削というものは様々なサイエンス，国際協力の上に成り立っています．参加されていた多くの研究者が分野の垣根を越えて議論し，またそれらがサイエンスのみならず技術的な側面や研究体制までを考慮して行われるのを目の当たりにし，地球という巨大な複雑系を理解するのに要求される知識の幅広さに圧倒されました．また，時折議論が白熱してくる場面もあり，これらの一大プロジェクトには多くの人々の情熱と意思が込められており，他の研究者との協調性はプロジェクトの成功に欠かせない要素なのだと実感しました．学生としての残された時間の中で，最大限に知識と経験を積み重ねて行こうと思っている次第です．

◎シュードタキライト露頭に行列が！

巡検案内・ポスター発表者：**岡本伸也**（東京大学）

どんよりとした梅雨空を吹き飛ばし，初夏を思わせるような晴天に恵まれたIODP/ICDPワークショップ３日目．私たちワークショップ参加者約80名を乗せたバス４台が宮崎シーガイアから延岡に向けて出発した．本日の目的は「延岡衝上断層地質巡検」，つまり世界中から集まった研究者に延岡衝上断層を地質学的な側面から紹介しようという試みである．

延岡衝上断層は過去の研究により，現世プレート沈み込み帯の浅部地震発生領域に存在しているsplay faultの陸上での最もよいアナログとして考えられている．また，splay faultはIODPのプレート沈み込み帯地震発生帯掘削のターゲットであり，掘削船「ちきゅう」によるsplay fault掘削前にアナログである延岡衝上断層を調査することは非常に重要である．そういった意味で，今回IODP/ICDPワークショップ参加者に延岡衝上断層を紹介することは大きな意味を

Fig.1：巡検中の光景．説明する人，聞く人，気になる構造に熱中する人，露頭を前に議論する人々．大断層を前に，みな思い思いの時間を過ごした．

Fig.2：シュードタキライト露頭前の光景．露頭は地上10m以上の高さに位置するにもかかわらず，多くの人が見る機会を窺い長い行列ができた．

もっていた．そのため，巡検案内者の一人である私は役目の重大さと，外国からの参加者を含め80人もの研究者を無事案内しきることができるかといった不安で最初は非常に緊張していた．

４台のバスが延岡衝上断層の露頭付近に着いた．最初の２台のメンバーは崖から露頭にアクセスする“体力自慢コース”，残りの２台のメンバーは遠回りして安全なルートで露頭アクセスする“お気軽コース”を選んだ．私は“体力自慢コース”の研究者たちと共に露頭に降りた．

さて，全員が露頭に降り立ったところで，いよいよ巡検が始まった．今回用意した観察STOPは全部で５STOP．延岡衝上断層の断層コアを境に上盤から下盤へかけての巡検コースである．断層運動によって変形した露頭を前に，英語で議論が飛び交う．もちろん案内者である私も，かたことの英語を駆使して何とか会話についていった．全ての観察STOPを通して，分野の違う様々な研究者の方と議論することができた．そのため，あらゆる視点からの発見や気づきを得ることができ，今までにないほど有益な議論を交わすことができたと感じている．また，５つのSTOPの中でも特に印象深かったのが，STOP２の地震性滑りによって形成されたシュードタキライトの露頭での光景だった．STOP２は狭い場所であったため一度に観察できる人数が２～３人と限定されており，80人の人が露頭の前に列をなして順番待ちをしていた（Fig.2）．そのあまりの人気ぶりに案内者の私は驚き，そして自分の研究地域が世界の研究者から注目されていることに喜びを感じた．それと共に，誰一人として怪我無く露頭観察を終えたことに，案内者として安堵した．

延岡衝上断層の露頭を前に白熱した議論が飛び交った後，再びバスに乗り込み宿泊場所へ向けて出発．帰りのバスの中では今日見た延岡衝上断層についての議論が他方から飛び交った．地質学者，そして地球物理学者がお互いの視点から露頭観察を題材に議論し合う様子は聞いていてとても興味深いものであった．その後，バス４台が宿舎に着き無事巡検が終了した．

今回のワークショップでの巡検を通して，巡検資料作成から案内，そして80人といった人数と何から何まで初めての体験であった．そのため，案内者として不十分な点も多々あったと思うが，私としては非常に多くの勉強をすることができた．また，それにも増して参加者の人々に「良い巡検をありがとう」と言われたことがうれしかった．この貴重な経験をこれからの研究に活かして生きたいと思う．

◎あのおじちゃんは本当に有名人？

ポスター発表者：**二階蔵　晃**（高知大学）

今回の延岡ワークショップに参加するにあたって，当初は学会とは違って勉強会みたいなものだからと気楽に考えていました．また国際ワークショップということで英語で会話しなければいけないということもありましたが，それもどうにかなるだろうなんて考えていました．ところがどっこい，いざワークショップが始まると話していることはおろか，スライド中の単語１つ１つを調べることで精一杯で結局どういう話だったのかというのが分からないのがほとんどでした．また，僕はポスター発表をしたんですが英語での説明が全然うまくいかずダメダメでした．口頭発表で会場がどっと沸いたときも，何で沸いたのか，何が面白かったのかが全く分からず，悔しい気持ちとともに自分の英語力の不足を痛感させられました．と同時にそれを克服するための勉強の意欲も湧いてきました．また，おぼろげながらも何となくですが，どこの場所でも同じような研究や分析が行われているんだなという印象を感じて，これなら自分にもできるかもという希望も持つことができました．

ワークショップの３日目に行われた延岡衝上断層の巡検は，快晴で，かといって暑すぎたわけでもなく最高の天候で素晴らしかったです．シュードタキライトの露頭では行列のできるラーメン屋のような長蛇の列ができていて，どこに行ってもやっぱりシュードタキライトはみんなの関心を引くものなんだなと再認識しました．露頭観察についても，ものすごくいろんなことが参考になりました．鉱物脈一つをとっても，そこから議論を展開して他の事実とリンクさせるといった，当たり前の事だけれども一番大切なことが，あちらこちらで見かけられました．こんなに活発に議論が行われていた巡検は初めてでした．露頭でどういうものに着目して見ているのかということに関しても，本当に勉強になり，また改めてフィールドっていいなあと実感しました．

今回参加する方々は，各方面の相当な実力者や有名人ばかりと聞いていたのでどんな人達かと緊張していましたが，巡検の帰りの道の駅でイカの干物を日本のお土産にめちゃくちゃ嬉しそうに買っていたりするのを見ていると，全く普通の陽気なおじさんといった感じでむしろ親近感を覚えました．笑っているときも本当に楽しそうに笑って，酒を飲んだらどこの国の人も全世界共通の単なる酔っ払い親父に変身して何も特別な感じがしませんでしたが，むしろそれが逆に凄さを際立たせていました．

今回のワークショップでは，細かいところは英語力不足のおかげで　あまり理解できませんでしたが，大まかなところではサンアンドレアス断層や台湾のチュルンプ断層などにおける陸上掘削での研究を，これから行われるちきゅうでの掘削にも適用，応用したいという狙いだったということだけは理解できました．このような世界規模の場に若輩ながら参加できたということは，本当に素晴らしい経験でした．この経験をこれから先，必ず活かしていきたいと考えています．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

f04j003d@mail.cc.niigata-u.ac.jo　梅津慶太（新潟大）
tksmcdr@hiroshima-u.ac.jp　高島千鶴（広島大）
iba@eps.s.u-tokyo.ac.jp　伊庭靖弘（東京大）
s059702@matsu.shimane-u.ac.jp　河野重範（島根大）

学　会　記　事

2006年度　第２回理事会議事録

2006年７月21日
日本地質学会　会長　木村　学

期　日：2006年７月８日（土）
12：10～17：20
場　所：東京大学理学部１号館中央棟
747号室
出席者：木村会長，伊藤副会長，佃副会長，渡部常務理事・上砂・大友・狩野・公文・倉本・高橋・久田・宮下・向山　各理事，橋辺（事務局）
欠席理事：（議長委任）：天野副常務理事・Wallis・増田

報　告

１．運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，大友）
総務委員会（委員長-上砂）
庶務関係（担当理事-上砂）
＜共催・後援等関連＞
・21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム実行委員会子供のためのジオカーニバル企画委員会：第７回子供のためのジオカーニバル2006（2006年11月11日―13日）後援依頼→例年どおり了承
・朝日新聞社：第４回ジャパンサイエンス＆エンジニアリング（JSEC2006）高校生科学技術チャレンジ（平成18年６月～19年5月）後援依頼→例年どおり了承
・第21回太平洋学術会議（共催）事務局（琉球大学）：募金委員会の設置ならびに会長への同委員会委員の要請→了承，会議経費96,997,000円，募金額：14,000,000円
・社）計測自動制御学会：第32回リモートセンシングシンポジウム協賛依頼→例年どおり了承，HP，News誌掲載

＜賞の公募関連＞
・朝日新聞社：2006年度朝日賞の募集（８月31日まで）→HP，News誌掲載
・東レ：科学技術賞および科学技術研究助成の推薦募集（７月14日まで）→HP，News誌掲載
・社）発明協会：平成19年度全国発明表彰募集（６月19日～９月８日）→HP掲載
・財）沖縄協会：沖縄研究奨励賞（７月15日～９月30日→HP，News誌掲載
・女性科学者に明るい未来をの会：2007年度猿橋賞の募集（11月30日まで）→HP，News誌掲載
＜挨拶状＞
・無機マテリアル学会役員交代：新会長　木野村暢一
・石油技術協会役員交代：新会長　佐野正治
・東レ科学振興会専務理事交代：新理事　矢内　顕ほか
・新日鉱ホールディングス㈱グループ，ジャパンエナジー㈱新社長：松下功夫，日鉱金属㈱：役員交代
・石油資源開発㈱役員交代：社長（変更なし）棚橋祐治ほか
・
＜その他＞
・大学評価学位授与機構：18年度機関別認証評価専門委員として本会推薦者を選出したとの連絡があった．

会員関係（担当理事-中山）
１）入会の承認
正会員（8）：小野雅弘，山口正秋，森良太，棚橋道郎，山本伸次，水上知行，ティモシー　バーン，モア　グレゴリー
正会員割引（56）：山中晶子，宮川歩夢，五十嵐雄大，三浦知洋，草宮尚隆，宮副智之，田所弘行，影山典史，昆　慶明，吉田広人，室田真宏，川井隆宏，穴田真一，本多　結，山本　巨，新納亜希子，伊牟田みはる，二階蔵晃，鈴木友香里，真木祐典，庵谷奈津子，武田史明，松井真理，桝本洋輔，清水　瞳，毛利　崇，大浜敏樹，福成徹三，森本隼平，播磨雄太，イスラム　エムディ　ラフィクル，ドゥヴェディ　スニル　クマル，ジョシ　ガネス　ラージ，川村明加，中村　慧，中野大智，梅原綾乃，岡本直也，米島真由子，高谷真樹，高橋功治，塚本祐也，玉原正之，大城広樹，田中大地，松原拓穂，菊池直樹，バキロフ　アザマト，石川智子，大井剛志，八木裕介，西田慎一，澤木佑介，野地耕平，節田祐介，草葉陽子
準会員（10）：田阪美樹，桐川隆之，樋口衡平，角田絵理，相澤育実，岩本はるか，尾吹　萌，高柳栄子，　佐津川貴子，　伊東佑子
２）退会者（正５）：江崎弘造，伊豆隆太郎，島野裕文，猪野恭平，藤井　諭
３）６月末現在会員数
賛助34，名誉78，正4401（内，218院割），学生29，合計名 4,442
４）追悼記事
小島名誉会員（原郁夫），羽田名誉会員（大矢暁），氏家名誉会員（高柳洋吉）を７号に掲載．
５）会員関係の検討課題について
・会員名簿掲載について，ニュース誌６月号から名簿作成アンケート調査実施を開始した．９月の評議員会までにとりまとめを実施する予定
・2007年問題を含め，会員数増加に対する問題点，増加策等について検討を開始する．

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・プログラム副委員長（次次期のプログラム委員長）として，地質学会より渡辺真人会員（評議員）を推薦した．
・2007年度の連合大会の日程が決まった．2007年５月19日（土）～24日（木）の６日間．
学術会議関係報告（木村会長＝連携会員）
・連合経由にて，平成18年度の国際会議派遣の追加募集があった．→公文理事
・７月に海外対応委員会開催，地球惑星科学委員会国際対応分科会IUGS小委員会の第１回会議が開かれ，松本　良委員長が互選された．

会計関係（担当理事　向山）
広報委員会（担当理事　大友）
ニュース誌編集小委員会（担当理事　大友）
・News誌記事一覧，今後の掲載予定など．

２．学術研究部会（部会長-久田，公文，増田）
行事委員会（久田委員長）
・７月８日行事委員会開催，プログラム編成．発表登録は550件程度，登録参加者は800名程度と予想
・会場のエアコンについては，講演会場をほぼ確保の見込み．ポスター会場だけは100万円程度のレンタル経費が見込まれる予定．
・各賞授与の席では，従来どおり学会賞受賞者の講演を40分とするとともに，今年度からの若手賞（通称）受賞者についても，15分の講演を設定することとした．
・若手賞（通称）には，賞状と賞金の他，従来の学会賞メダルの小藤氏胸像面を顕彰名等により再デザインした新たなメダルを早急に検討，作成し，副賞とすることとした．
・高知大学から年会の後援を得た（会場費が無料）．
・会長から岩鉱学会へ，2008年以降の年会の共催について，検討依頼をした．岩鉱学会小畑会長より７月以降検討させていただくとの回答を得た．
・以前より打診していた東北支部より，開催受諾を，高島支部長より回答（正式には８月５日開催の支部例会で決定）．ただし，岩鉱学会との共催の件は未通知．
・連合大会プログラム委員として，昨年に引き続き七山太，片山肇の２会員を本人の了解のもとに推薦することとした．なお，来年のセッションについてアンケー

トがあり，委員から回答をした．

3．編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-久田，宮下＝企画担当）

・今月の編集状況は以下の通りです（7月6現在）．
112-7：総説1・論説3・短報1・口絵1．校正中，(50p)
112-8：準備中
・本年度投稿論文数56編［論説36（和文33・欧文3），総説3（和文3），ノート2（和文2），短報13（和文13），討論2（和文2），］口絵5（和文4・欧文1）

投稿数昨年比　＋7　　査読中51編

・査読遅延の場合の取り扱い方法を，委員会内の申し合わせ事項として再整備した．初回査読が長期にわたった例があったため，査読期限に催促通知を行い，さらに返却が遅れた場合には別査読者選定に入ることとする．
・投稿規定の改正：
文献の書き方の例の修正・追加・体裁の統一
［修正］
現　小川琢治，1944，日本群島．弘文堂，東京，372p.
修正　出版地「東京」を削除
現：Reading, H.C., 1986　ed.,・・・
修正後　Reading, H.C., ed., 1986,・・・
［追加］
活断層研究会編，1991，新編日本の活断層-分布図と資料-．東京大学出版会，363p.
［体裁の統一］
各文献の2行目以下は，地質学雑誌と同様に全角にして2文字分右によせる．
・電子投稿・査読システム：2件（口絵1・論説1）の原稿を使って試行運用中．
・地質学雑誌をインパクトインパクトファクター対象ジャーナルにするための申請方法等について，具体的内容を調査・検討した．Thomson Japanでの登録誌では地質学雑誌は登録済みであったため，IF値審査申し込みを行うこととした．

Island arc 編集委員会（担当理事-Wallis，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

Wallis理事より書面にて報告があった．

・Impact Factorが1.167に上昇．
・科研費「研究成果公開促進費」の交付減少傾向
・二重投稿論文の確認と著者への制裁
すでに他誌で公表されていることを確認し，二重投稿が意図的であるとして，筆頭著者に対し，5年間の投稿受付拒否を決めた．これは一昨年の同様のミスコンダクト対応時に，内規として設定したペナルティーに沿ったもの．
・Editorial Advisory Boardの変更
日本古生物学会：北里　洋氏，岩鉱学会：小畑正明氏，資源地質学会：鹿園直建氏（変更なし），第四紀学会：返答なし

4．普及教育事業部会（部会長-高橋，倉本）

地学教育委員会（委員長-阿部国広）

・高知大会における普及事業（小中高生地学研究発表会，公開シンポジウム，理科教員向け見学旅行）について，高知県および高知市教育委員会の後援を得た．また，小中高生研究発表会については，地球惑星連合の後援も得た．
・小中高生地学研究発表会の賞について

5．その他

ジオパーク推進委員会（佃委員長）

・ジオパーク推進委員会で選定する「地質事象100選」の候補収集を開始したところ．この追加事象提案と選定作業を行うための，日本地質学会からの担当者を，高橋理事とすることとした．

【以下，評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会（委員長-旧：加藤前副会長，新：伊藤副会長）

・名誉会員候補者追加推薦選考について

法務委員会（担当理事：委員長-上砂）

・学会が共催・後援する時限組織（学会・発表会等の運営委員会等）による出版物について，実施終了後の著作権の管理体制について，今後検討することとした．原則的には，当該組織からの要請があれば，日本地質学会は著作権の移譲を受けて管理することとした．
・行事委員会でのプログラム編成を受けて，査読結果等への異議申し立てに対応する体制を，評議員会議長と専門部会委員により立ち上げる予定．

選挙管理委員会

・選挙管理委員会委員として，前年度委員に対し継続要請をした結果，次の委員から了承が得られた．また，小布施前委員からは後任に西村会員の推薦があり了承した．さらに1名の充足委員については，澤田会員を推薦し，本人の了承を得た．
・継続：加藤　潔，関　陽児，高橋路輝，新任：西村瑞恵，澤田臣啓

○審議事項

1．名誉会員候補者推薦選考，評議員会での審議結果とその取り扱いについて

前期名誉会員推薦委員会での審議過程において，1件の推薦が事務局のミスにより審議手続き漏れとなった事態が発生し，理事会では経緯の確認と善後策を検討した．その上で当該推薦については，前期名誉会員推薦委員会において追加審査を行うことが妥当であるとして，同委員会に審査を要請し，当該被推薦者を名誉会員候補者として評議員会に追加推薦するという，答申を受けた．

これらの経緯を含め，理事会では推薦者にお詫びをするとともに前期名誉会員推薦委員会からの追加推薦について評議員会に諮った．7月5日に評議員会議長より追加推薦承認の回答を受け，理事会としては総会による名誉会員指名に向けた手続きを開始することとし，臨時総会の開催，当該候補者への配慮等も含め，改めて状況を総合的に検討した．その結果，総会招集権をもつ会長の判断として，次年度の推薦者と一括での指名を総会に諮るとの提案がなされ，理事会としてそれを承認した．

会長から，当該候補者へ事態の報告と謝罪をするとともに，2度と同じミスが繰り返されないような方策の検討と，予期せぬ事態に対して迅速な対応を迫られた際の意思決定システムの構築を行った．

2．見学旅行案内書について

地質学雑誌編集委員会，行事委員会，学会四役で検討を進めていた，学会巡検案内書の学術的ステータス確保の方策について，高知大会巡検案内書から地質学雑誌のサプリメント化を実施することとした．具体的には，地質学雑誌の編集規約，規定等において巡検案内書の位置づけを明記する改定ことを提案するとともに，編集過程や形式等は地質学雑誌に準じる指定を行う．また，本大会では過渡的なこととして，すでに決まっている印刷物としても出版し，雑誌巻末号でCDとしての添付による全会員への配布と，J-STAGEへの登録を行う．

これについての雑誌サプリメントとしての編集上の指示は，雑誌編集委員会から連絡することとした．次回の理事会にて，規約等の修正案と，電子化による経費のシミュレーションを検討することとした．

なお，将来的には，講演要旨集についての電子化も検討し，例えば大会前に学会ホームページにて公開しつつ，大会会場でのオンデマンド出力のサービスを検討するなど，印刷物発行の廃止の可能性を探ることとした．

3．2007年度総会日程について

2007年度地球惑星科学連合大会の日程の決定に対し，学会総会の日程案を検討した．関連するシンポジウム等と同日，別時間の開催で，かつ関連セッションの日程と大きく離れないこと，ならびに多くの会員層の参加が可能なように，土日のいずれかの開催であること等を勘案し，5月20日（日）夕刻（17：00-19：00等）の時間帯を暫定的に候補とした．決定に向けて連合大会のプログラム委員会に対し，上記の条件をなるべく満たす大会プログラム編成を，次期副委員長である渡辺真人会員を通じて要望することとした．

4．小中高生徒発表会の賞について

高知大会で予定されている“小中高生徒「地学研究」発表会”の優秀賞の授与が普及教育事業部会より提案され，基本的には学会長・普及教育担当理事・地学教育委員会委員の合計３名による選考委員会の設置を了承した．選考方法については，理事会が選考協力を担当することとした．

なお，参加証は従来どおり全員に，上記優秀賞（賞状のみ）は学会長が授与することとした．

5．評議員会審議事項

高知大会での評議員会審議事項については，以下の概要を確認し，８月の四役会議にて最終確認することとした．

・今後の開催日程について
・来年度総会日程の決定
・その他

お知らせ：事務局の営業日が一部変更になっています！

５月より原則として毎月第２土曜日は，理事会開催に伴い事務局は通常業務を行っています．そのため翌週月曜日はお休みとさせていただきますので，ご了解下さい．

なお，８，９月は，夏期休業や高知大会のため営業日が通常と異なっていますので，ご注意下さい．

営業時間：９：30～18：00

8月の営業日

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
	お休みです					

9月の営業日

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15※	16※
17※	18※	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
	お休みです					

※9/15－18は年会（高知大会）のため，事務局は不在となります．

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．
また、申し込み時には、初年度の会費を添えてお申し込みください．
申込書送付先：101－0032　東京都千代田区岩本町2－8－15　井桁ビル６Ｆ　日本地質学会
送金先：郵便振替口座　00140－8－28067　日本地質学会
会費額：正会員12,000円（院生割引＊8,000円、定収のない方に限る）　準会員（旧学生会員）5,000円
＊院生割引を希望される方は、下記の院生割引申請欄に指導教官の署名、捺印をもらってください．

日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan	
＊会員番号	＊会員種別　□正会員（□院生割引）□準会員
氏名（ふりがな）Name in Japanese	ローマ字表記 family name　　first name
_____年Year ____月Mo ____日Day 生born on	Sex：□ 男 Male　□ 女 Female　Country：
学位　Degree: □ 博士Dr. □ 修士 Master □ 技術士 Engineer □ その他 Other	
専門（下欄から3つまで） (Specialities less than 3 items)　1.　　2.　　3.	
学歴 Academic career : _____学校 High school _____年卒業 Year completed _____大学 University_____学部 Faculty_____年卒業（見込み）Year completed 修士 Master :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed 博士 Doctor :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed	
自宅住所Home address （郵便番号Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
所属機関・住所 Affiliation with address :（郵便番号 Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
連絡先 Correspondence :　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office	
紹介者名（正・院生会員）　　印 Recommended by （name of member）_____Signature	
院生割引申請欄：運営細則に基づき会費の院生割引を申請いたします．	
上記本学の学生につき，定収のない院生（研究生）であることを証明いたします． 指導教官（員）　所属：　　氏名：　　印	
＊受付（　　年　　月　　日）＊入金（　　年　　月　　日）振替・現金・銀行・他 ＊承認（　　年　　月　　日）＊送本（　　巻　　号）	

太枠内のみにご記入ください（＊Official use only)
専門分野（番号で）01：層位　02：堆積・堆積岩　03：古生物　04：構造地質　05：火山・火山岩　06：深成岩
07：変成岩　08：鉱床地質（金属・非金属）　09：鉱床　10：鉱物　11：燃料地質　12：地熱　13：第四紀
14：環境地質　15：都市地質　16：土木地質　17：土質工学　18：水文地質　19：探査地質　20：土木工学
21：情報地質　22：地震地質　23：海洋地質　24：地球物理　25：地球化学　26：地質年代学　27：地理
28：地学教育　29：考古学　30：その他　40：地球惑星学

NII論文情報ナビゲータサービス"CiNiiをご利用下さい.

～地質学雑誌第1巻から無料で閲覧ができます～

これまでご利用いただいていた電子図書館サービス（NACSIS-ELS）は，NII論文情報ナビゲータサービス"CiNii（サイニイ）"と一本化し，2006年4月に新たな学術情報サービスへの移行がほぼ完了しました．**地質学雑誌，講演要旨は無料で検索・閲覧できます．地質学論集は，検索は無料で出来ますが，閲覧に関しては，1論文に対して500円の課金となります．個人登録・登録料金は一切不要です**（地質学論集を除く）．

サービス内容の詳細については，http://ci.nii.ac.jp/　学会ホームページをご参照いただくか，下記までお問い合わせ下さい．

CiNiiとは・・・

国立情報学研究所（NII）では，国内外の有用な学術情報資源との連携を可能とすることを目標とし，各種サービスを提供しています．その内の1つとして，NII論文情報ナビゲータ“CiNii”を提供します．CiNiiでは，学協会で発行された学術雑誌や大学等で発行された研究紀要などを検索し，検索された論文の引用文献情報（どのような論文を引用しているか，また，どのような論文から引用されているか）をたどったり，本文を参照したりすることができます．

【利用に関する問い合わせ先】
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
国立情報学研究所開発・事業部 コンテンツ課
E-mail: user-request@nii.ac.jp
電話：03-4212-2300
http://www.nii.ac.jp/index-j.html

研究室のミニ工場

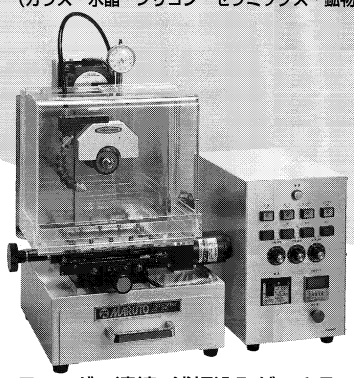
マルトーの
ラボ・ファクトリープラン3点セット

小型　精密　操作簡単　低価格

（ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工）

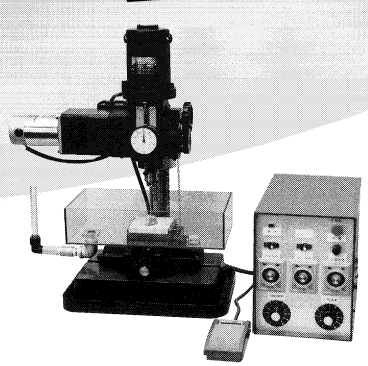
小さな機械だが役に立つ

磨く　切る　抜く



カッティング　連続・浅切込みができる
ステップカッター〔MC-170〕
●試料へのダメージが少ない
●最小切込み量 10μm／pass
●最大加工能力 H25×L40mm
●設置面積 W550×L450mm
●本体価格 178万円～

ポリッシング　精密鏡面研磨機
ドクターラップ〔ML-180〕
●組織検査用試料のラッピング・ポリシング
●アクセサリー豊富
●研磨試料サイズ φ1～φ100mm
●設置面積 W400×L400mm
●本体価格 45万円～



コアリング　微小径コア抜き取り機
ミニピッカー〔MG-5N〕
●主軸回転数 4000～12000r／min
●加工能力 φ1～φ6mm×30mm
●設置面積 W600×L400mm
●本体価格 125万円～

材料を切る・削る・磨くそして測る技術で奉仕する

http://www.maruto.com

株式会社マルトー
本社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10 ☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル ☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

惑星地球®
社会のための地球科学

The International Year of Planet Earth

国際惑星地球年

2007 - 2009

2004年12月26日，あの大津波で23万人もの人々が命を落とし，今ようやくインド洋周辺で津波警報システムの導入が始まりました。私たち地球科学者は，地球についての知識を使うことで多くの命と暮らしを破壊から守ることができるはずなのにそれが十分に利用されていないことを憂いています。地球に関する知識をもっと上手に利用すべきだと世界が理解するまでに，いったいどれだけの尊い犠牲を必要としているのでしょうか？

www.yearofplanetearth.org